

平成 27 年度名古屋大学大学院文学研究科
学位（課程博士）申請論文

現代日本語における形容詞的動詞をめぐって

－ 連体修飾の「ル」「テイル」「タ」形を中心に －

名古屋大学大学院文学研究科
人文学専攻日本語学専門

CIFTCI UMMUHAN

チフトゥチ ウムムハン

平成 27 年 3 月

要旨

現代日本語において「形容詞的動詞」という形態的には動詞を用い、意味的な属性や連体修飾要素として典型的な形容詞と同様の役割を果たしている形式が存在する。ある意味、動詞の形容詞らしさが現れているとも言え、動詞を形容詞に転用して構成するこの用法は「切れる包丁」「空いている席」「変わった人」などのように後置された名詞の状態・性質を表す特徴を有する。この場合は時制の接尾辞となる「ル」「テイル」「タ」が付いている動詞は役割として単独のまま形容詞の振る舞いをしている。また、「隠された真実」「故障している機械」「込み入った話し」「目立つダイヤ」などのような「動詞＋受け身＋タ＋名詞」、「漢語サ変動詞＋テイル＋名詞」、「複合動詞＋ル・タ＋名詞」、の構成から成り立つ様々なパターンも見られる。

こういった形式は日本語では「形容詞的動詞」以外「形状動詞」とも呼ばれ、多くの言語や欧語文法では「分詞」と言われている動詞の用法である。言語学大辞典(2003)によると、欧語では動詞と形容詞の機能を合わせもった「分詞」(participle)と呼ばれる品詞が「現在分詞」(present participle)と「過去分詞」(past participle)の二つに分けられ、これらの分詞類は多くの言語に一般的だとされている。

但し、日本語の場合、概念上この形容詞的な動詞用法は「分詞」と呼ばれていない。ゆえに、今までこの形式のものは「形容詞的動詞」か「形状動詞」と言われてきたのであろう。筆者もそれに従って、寺村(1984)に用いられた用語である「形容詞的動詞」という表現を使うことにした。また、現在、単語自体は「形容詞的動詞」としてまだ完全に定着していないため、本論で研究の対象にしたのは、連体修飾用法つまり形容詞的用法といった形式であり、動詞の形容詞らしさに限定した。

寺村(1984)では「形容詞的動詞」とは述語文の場合「この作品が優れている」などのような形容詞的にのみ使われるものを表す用語とされているが、本研究では連体修飾に「ヲ・ニ・デ・ガ」など諸格を伴わず、基本形容詞と同様に単独のまま主に「ヒト」の行状・性質・感情や「モノゴト・デキゴト」の状態・性質などを表し、動きを表さない用法を指す。

そして、連体修飾の一種である形態として、否定辞の「ナイ」が付き、名詞を形容する用法で用いられる形容詞的動詞も存在する。これらは「消えない・見えない・錆びない」などのような否定の意味を持つ動詞や「つまらない・くだらない」などのような否定の意味を持たない動詞であり、「消えないシミ」「見えない真実」「錆びない指輪」などのような「和語動詞＋ナイ＋名詞」形式構成や「つまらない話し」「くだらない決まり」などのような固定化した形式構成で単独のまま形容詞的な働きが見られるものである。

「形容詞的動詞」には様々なタイプが存在しており、この動詞類には3つの基本形態

が見られ、以下のようにまとめられる。

- ①和語動詞由来のもの（自動詞＋能動形 / 他動詞＋受動形）「痩せる・尖る・失う」など、（自動詞＋否定辞）「変わる・枯れる・足りる」など
- ②漢語形容詞由来のもの（サ変動詞を伴う用法）「満足する・独立する」など
- ③a.複合動詞由来のもの（自動詞＋能動形 / 他動詞＋受動形）「込み入る・有り触れる・積み重ねる・考え抜く」など
 - b.複合動詞由来のもの（名詞・形容詞・擬音＋動詞）形式「年取る・目立つ・古惚ける・ずば抜ける」など

以上における様々な形態を考察した結果、「形容詞的動詞」に用いられる動詞には自動詞と他動詞の関係が関わっており、特に和語動詞や複合動詞の場合「自動詞＋能動形」「他動詞＋受動形」でないと形容詞的動詞として成立できないということが確認された。従って、成立条件として最も重要な項目は自他の適合だとも言える。

目次

序論

1. 本研究の目的と調査対象.....	4
2. 本研究の立場と本研究における「形容詞的動詞」という用語の叙述・範囲.....	5

第一章

現代日本語における形容詞的動詞 - 和語動詞＋「ル」「テイル」「タ」形を中心に

1. はじめに.....	6
2. 先行研究.....	7
2.1 寺村（1984）.....	7
2.2 高橋（1994-2003）.....	8
2.3 金水（1994）.....	9
3. 考察.....	11
3.1 和語動詞＋「ル」「テイル」「タ」形の形容詞的用法・問題点.....	11
3.2 能動形との使用が可能な和語動詞（自動詞）.....	15
3.2.1 「副次形容詞的動詞」.....	15
3.2.1.1 和語動詞（自動詞・他動詞）の比較・「連用形＋主体」形式.....	19
3.2.1.2 「主名詞」以外の名詞用法.....	21
3.2.2 「主要形容詞的動詞」.....	22
3.2.3 「典型的な形容詞形式を持つ形容詞的動詞」.....	23
4. おわりに.....	25

第二章

現代日本語における形容詞的動詞 - 和語動詞＋「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形を中心に

1. はじめに.....	26
2. 先行研究.....	27
3. 考察.....	27
3.1 和語動詞＋「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形の形容詞的用法.....	27
3.1.1 受動形との使用が可能な和語動詞（他・自）.....	27
3.1.2 「副次形容詞的動詞（他）」の能動形との使用状況・主名詞との関係.....	34
3.2 「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の比較.....	36
4. おわりに.....	37

第三章

「漢語形容詞」の諸用法 - 連体修飾の「テイル」「タ」「ナ」「ノ」形式を中心に

1. はじめに.....	38
2. 考察.....	39
2.1 「漢語＋シテイル・シタ」形式の持つ形容詞的用法.....	39
2.1.1 「漢語形容詞」A グループ.....	39
2.1.2 「漢語形容詞」B グループ.....	41
2.1.3 「漢語形容詞」C グループ.....	43
2.2 形容動詞の「漢語＋ナ」と連体の「漢語＋ノ」形態・形容詞的用法.....	46
3. おわりに.....	49

第四章

現代語における形容詞的動詞 - 複合動詞（自動詞）＋「ル」「テイル」「タ」形を中心に

1. はじめに.....	50
2. 先行研究.....	51
3. 考察.....	51
3.1 複合動詞（自動詞）に伴う「ル・テイル・タ」形の形容詞的用法.....	51
3.1.1 「動詞（V1）＋動詞（V2）」型.....	51
3.1.2 「名詞（N）＋動詞（V1）」型.....	56
3.1.3 「形容詞（A）・擬音（O）＋動詞（V1）」型.....	60
4. おわりに.....	62

第五章

現代語における形容詞的動詞-複合動詞（他動詞）＋「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形を中心に

1. はじめに.....	63
2. 先行研究.....	63
3. 考察.....	64
3.1 複合動詞に伴う「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の形容詞的用法.....	64
3.1.1 「動詞（V1）（他）＋動詞（V2）（他）」型.....	64
3.1.2 前項・後項に「自動詞」を含む複合動詞の形容詞的用法.....	70
3.2 主名詞の意味.....	71
3.3 「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の相違.....	71
4. おわりに.....	72

第六章

連体修飾に用いられる「動詞＋ナイ・テイナイ」形式について

1. はじめに.....	73
2. 先行研究.....	74
3. 考察.....	74
3.1 和語動詞に伴う否定形「ナイ・テイナイ」の形容詞的用法.....	75
3.1.1 主体の選択.....	77
3.1.2 「ナイ・テイナイ」の比較.....	78
3.1.3 「動詞＋ナイ＋名詞」形式の別用法.....	80
3.1.4 否定の意味を持たない「動詞＋ナイ」形式の形容詞的用法.....	81
4. おわりに.....	81

結論 現代日本語における「形容詞的動詞」のまとめと今後の課題

1. 全章のまとめ.....	84
2. 今後の課題.....	85

参考文献.....	87
-----------	----

用例出典.....	88
-----------	----

省略リスト.....	88
------------	----

序論

1. 本研究の目的と調査対象

動詞は一般に「ル」「テイル」及び「タ」形で時制を表示すると言われているが、時制表示をしていない場合もある。それは、動詞が動詞らしさを失った「形容詞的動詞」に伴う「ル」「テイル」「タ」と共に用いられる形式の際である。

(1) 研いだ包丁でタマネギを切ってみた。切れる包丁は涙が出ないって本当だったんだ。

(2005 年 06 月 30 日・朝日新聞)

(2) 年だからとたじろぐことも多いが、輝いている女性たちのまぶしさに感化され、「元気をださなけりゃ」と勇気づけられもする。

(2009 年 05 月 27 日・朝日新聞)

(3) 乾いた手で、袋からパックを取り出す。

(作例)

(1)は和語動詞「切れる」の「ル」形でありながら名詞直前に形容詞的用法で現れ、主体である「包丁」の性質を表す役割を果たしている。(2)の場合、連体修飾にはアスペクトの「テイル」形が用いられ、「女性」の性質を表している。(3)の「乾いた」は名詞である「手」の性質を表す機能も持ち、時制の接尾辞である「タ」が付いた動詞には形容詞性が見られ、デキゴトの結果状態を示している。日本語ではこのように、特に状態を帯びる意味の動詞と状態変化動詞をはじめ、主体変化動詞、感情動詞、瞬間動作動詞など「形容詞的動詞」になる動詞が多数存在している。但し、形容詞的な用法特徴はすべての動詞に見られるというわけでもない。ここから、現代語においてどのような動詞が形容詞的に用いられ、どのような特徴を持つかを詳しく考察する必要があると思われる。本研究では、和語動詞・漢語動詞・複合動詞も分析しつつ、形容詞的形式の使用範囲などを明らかにしたい。

また、従来の様々な先行研究の内、アスペクトやテンスの形式である「テイル」や「タ」形を対照する研究は多いが、「ル」形も含んだ3つの形容詞的用法の対立的な考察はなされていないため、今回の研究項目とする。

さらに、連体修飾に用いられる動詞には否定辞の「ナイ」が付き、主体に備わる恒常的な性質・状態を表す形容詞的な動詞も多数存在している。これらも形態的に「ヲ・ニ・デ・ガ」などの諸格を伴わず自立した形式用法であり、意味的に基本形容詞と同様の役割を果たす要素である。

(4) 治らない病気にかかった人が、無駄だからといって薬を飲まないなんてことがあるだろうか？

(1996 年・書籍 / 9 文学・村山由佳)

本研究では、現代日本語におけるこの興味深い現象を対象とし、動詞の形容詞的な特徴が現れる様々な用法の中で、主に連体修飾の「ル」・「テイル」・「タ」形に注目し、この3つの形式の対比を行うこ

とで、どの形式が最も形容詞らしさを有しているかを考察する。そして、(4)のように否定辞「ナイ」を伴うことで、「形容詞的動詞」として使用が可能になる動詞を分析し、後接形式毎の使用頻度や使用傾向の高い語句を元にした様々な図表を作成する。

調査方法としてはコーパスを使用し、やや硬い書き言葉を含む朝日新聞オンラインデータベース(1984年～2014年)やヤフーブログのような話し言葉も多く含む、現代日本語書き言葉の均衡コーパス(1971年～2008年)の具体例を通じて記事に出現した用法を取り上げ、連体修飾節と無関係の状態で諸格をとらない単独のものに関して様々な点を明らかにしたい。

2. 本研究の立場と本研究における「形容詞的動詞」という用語の叙述・範囲

連体修飾節に用いられる動詞の諸相を考察対象とする様々な立場を見ると、寺村(1984)、高橋(1994・2003)、金水(1994)、工藤(1995・2014)や加藤(2003)は主な先行研究として存在している。寺村(1984)において述語文の場合、常にアスペクトの「～テイル」形と共に用いられる「優れている・馬鹿げている」等のような形容詞的にのみ使われるものを表す動詞用語が「形容詞的動詞」と名づけられる。但し、本研究では「テイル」形のみならず「ル」形や「タ」形を伴うことで形容詞的な特徴を持つ他の動詞に関しても言及するため、その点で示唆される対象や使用される用語自体が異なっている。本研究では寺村(1984)に従い、同じく「形容詞的動詞」という名称を使用することにしたが、寺村(1984)では捉えられる「形容詞的動詞」の下位として区別した用語も使用する。

ここで、本研究において「形容詞的動詞」という用語範囲にはどのような動詞が入っているかを確認しておく。以下では「形容詞的動詞」の下位とする用語の説明をする。

寺村(1984)を参考にし、筆者は連体修飾節で形容詞的な性格を発揮する動詞全体を、文中において諸格を取らないものである限り、「形容詞的動詞」と呼ぶことにする。但し、日本語では動詞であるにもかかわらず動詞性より形容詞性の機能が優先にされ、常に形容詞的に用いられる動詞も存在するため、一般的に述語性・運動性も有している形容詞的動詞と典型的な形容詞と同一の役割を果たす単独で用いられる形容詞的動詞を区別する必要がある。そこで、筆者は文脈において、形容詞的な用法で現れる一方、述語としての使用も多く見られるものには「副次形容詞的動詞」¹、常に形容詞的な用法で用いられ、述語性を失ったものには「主要形容詞的動詞」²と名付ける。

高橋(1994)では連体修飾節に諸格と関連する動詞用法も形容詞的と捉えられ、本研究の注目点である単独形式でない限りは形容詞的動詞の範囲に入らないという指摘から考えると、筆者は異なる立場に立つ。

¹ a. 佐藤さんは沖縄から帰ると、似ている単語を探し始めた。(形容詞的用法)
(2002年01月09日・朝日新聞)
b. 両者を聞き比べると、確かに低音の長い響きが似ている。(述語用法)
(2013年03月23日・朝日新聞)

² 馬鹿げた話だが、ツキがあれば何とかかなと思っていた。(形容詞的用法)
(2012年07月19日・朝日新聞)

第一章

現代日本語における形容詞的動詞 - 和語動詞+「ル」「テイル」「タ」形を中心に-

1. はじめに

現代日本語では動詞の様々な時制形を形態によって表しており、その中には、意味や語順に従って連体修飾し、形容詞的な特徴を持つ修飾語として機能する「形容詞的動詞」と言われる用法がある。この形態は動詞が動詞らしさを失った時の用法とされ、動詞そのものが文中で語順によって形容詞のように振る舞い、形容詞的な性質と機能をもつものであるため「形容詞的動詞」³と呼ばれる。そして、動詞的な性格より形容詞的な性格に近づく傾向がある。

連体形となる語句が用いられる語尾によって形容詞的動詞の用法は異なり、その語尾が文法的意味としては時制を表す場合もある。すべての形容詞的動詞がテンスやアスペクトの影響から離れ、徹底的に状態や性質などを表す標準的な形容詞のようだと言えないが、意味的・形態的に形容詞的な用法に最も近い存在が見られる。和語動詞+能動の「ル」「テイル」「タ」形を第一のグループとし、以下では3つの形式を比較しつつ、考察する。

(5) a. 雨にさらされて文字がはげ、破れるプラカードもあった。 (2000年06月22日・朝日新聞)

b. 破れている引き札がほとんどだったため、協会が専門業者に依頼、状態のいい部分をつなぎ合わせて2枚を再現した。

(2012年01月12日・朝日新聞)

c. 時間があるときに集まり、破れた本は製本用のテープで貼り合わせ、ページが外れた本は一度ばらばらにしてから縫い直す。

(2013年05月27日・朝日新聞)

連体修飾構成には(5)の「ル」「テイル」「タ」形の使用が多く見られ、用例上も以下の3.2.1における表①に明確に見られるように、「タ」形は形容詞らしさを「ル」や「テイル」形より強く持つため、形容詞的にのみ用いられる時制語尾として重要な立場を占めている。基本的に「ル」形は現在・未来を表す機能を持ち、今現在の現象やこれから起こる動作を表現する形式であるが、名詞を形容するにはよく用いられる要素でもある。(5a)の「破れる」については、意味的に二つの解釈があり得る。一つは四段他動詞「破る」の可能動詞、それとももう一つは自動詞の「破れる」である。ここで、形容詞的用法で現れるため自動詞の「破れる」として捉えてよい。(5b)の「テイル」形はアスペクト的な属性を有し、今破れている状態にある結果の持続を表しているが、形容詞らしさを反映する際の形態とも言える。また(5c)の「タ」形は過去に行われた動作の完了を表す形式だが、動詞らしさを失った際には、形容詞の役割を果たす要素になる。

³ 寺村(1984)では「優れている・馬鹿げている・変な顔をしている・堂々としている」等のような形容詞的にのみ使われるものを表す用語である。

本研究では、以上で述べた動詞の連体形つまり名詞修飾する形容詞的な用法と見なされるものを対象とする。本研究では、このそれぞれの形式を叙述された「形容詞的動詞」として認めるには、時制語尾と結合した動詞の単独用法で、名詞の直前に用いられるその動詞が恒常的に名詞の状態的な性質を表現していることが必要であると考ええる。また、現代日本語における「ル」「テイル」「タ」形を伴う動詞を中心に形容詞的な機能を持つものの成立条件についても考察を試みる。

2. 先行研究

現代語において動詞が動詞らしさを失い、形容詞的な振る舞いをする時の形態に関しては、寺村(1984)および高橋(1994・2003)をはじめ、金水(1994)など様々な論文や文献があり、「タ」形の形容詞らしさについての研究は多い。そこで、まず現代日本語における「形容詞的動詞」という現象はどのようなものを含むのか、先行研究を参考にしつつ見てみる。

2.1 寺村 (1984)

寺村(1984)は「テイル形」の現在の状態・継続、結果の状態、形容詞的な用法に関して、次のようにまとめている。

動詞には

- A.～テイルがいつも形容詞的になる動詞
- B.～テイルがいつもアスペクト的（既然の結果）になる動詞
- C.文脈次第で、～テイルが形容詞的にもなるし、アスペクト的にもなる動詞の三つの種類があることが分かる。

(p.142)

また、「優れている・馬鹿げている・変な顔をしている・堂々としている」等のような形容詞的にのみ使われるものは、辞書に、動詞の下位類の形容詞的動詞として登録しておくべきものであろうと主張している。

さらに「タ」形の様々な意味やテンス的な機能・ムードについて考察し、「尖ったナイフ」「肥えたヒト」等のようなものには「(いわゆる状態を帯びる動詞の) 連体修飾的な用法とも言える」と述べている。「～テイル」と「～タ」形の特徴については、連体修飾にした際に「～タ」となるのがふつうで、その「～タ」形には、既然（完了）の意味も、過去の意味も感じられないということを挙げている。

寺村(1984)は用法・意味の面で、述定か連体修飾かという点から整理し、「～テイル」及び「～タ」を次のように分析している。

	<u>述定</u>	<u>連体修飾</u>
過去・既然	～タ	～タ
継続・結果の状態	～テイル	～テイル
形容詞的	～テイル	～タ (>～テイル)

2.2 高橋 (1994-2003)

動詞的な性格から形容詞的な性格への移行について、高橋(1994)では、連体修飾における「質規定⁴」のむすびつきになると、単に状態や属性を示すだけの形容詞的なものにかわり、アスペクトから解放される方向をたどると述べられている。結果の状態を表しているとともにそのようになったプロセスをも表す用例として(6)(7)が挙げられている。

(6) 年長の青年で学校へ遊びに来た卒業生もみえる。 (桜の実の熟する時) (p.40)

(7) 段々おちついた伸子の心に (宮本百合子「道標」) (p.41)

だが、次のようなものを取り上げると、その状態を引き起こす動作的なプロセスは問題ではなくなり、ただ状態だけが示されているとみてよいと指摘されている。

(8) ハンカチで包んだ電燈のにぶい光が (野上弥生子「真知子」) (p.41)

(9) 窓よりに置いたテーブルに向って、 (宮本百合子「道標」) (p.41)

また、連体修飾「タ」形のテンス的な性格に関して、次のように述べている。

質規定の連体過去形「した」は、その音声構造は過去形のかたちであるが、その過去に行われた動作の意味がぬけおちて、状態＝性質だけしかあらわさないのだとすれば、それは、内容として過去性をもっていないことになる。「はげた あたま」や「とがった えんぴつ」は、けっして過去の状態ではないのである。

「とがった えんぴつ」や「みがいた たま」は、「とがっている えんぴつ」「みがいてある たま」に言い換えることができる。しかし、この二つは、同じ形式ではない。この「とがっている」や「みがいてある」は、それぞれ一定の状態をあらわすアスペクト動詞の現在形であって、過去の状態をあらわす場合には、「とがっていた」「みがいてあった」のように、過去形にすればよい。つまり、＜現在⇄過去＞という対立をもっているのである。それに対して、「とがった」や「みがいた」は、それが状態をあらわすかぎり、そのようなテンス的な対立はない。

(p.43)

このような用法の場合は、動詞が形態論的なカテゴリーから解放され、形容詞的な「かざり要求性」を有し、さらに、この用法と「どっしりしている」「うわずってくる」などの形式でしか用いられず、もっぱら性状をあらわす単語を生じさせるまでに至っていると指摘されている。

高橋(1994)における動詞の連体形「タ」の考察では、「尖った帽子」「曲がった道」「さびた刀」などの「尖った」「曲がった」「さびた」などを連体詞とし、これらの「タ」は過去・完了をあらわす助動詞ではなく、連体詞をつくる接尾辞だとした時枝誠記(1950)の指摘についても述べられている。

続いて、高橋(1994)は、動詞性から形容詞性への傾向があり、連体修飾要素になるこの形式について、

⁴ 質規定では連体に用いられる性質を表すものが指摘され、「する」「した」と結びつきがある場合、用例として(10)が挙げられている。(高橋1994p.230)

「連体形はこのようにして、動詞らしさをうしない、ちょうどヨーロッパ語において分詞 *participle* が果たしている役割のうちの連体的な部分のような役割を果たしているのである」(p.63)と述べている。

また、述語性・運動性を失った連体形の動詞の性格について高橋(2003)では、次のように述べられている。

従属性がデキゴトをあらわしているあいだは、動詞は運動をあらわして、節の述語となり、相対的テンスであっても、ともかくテンスのカテゴリーをもっているのだが、これが、デキゴトでなく、状態や性質をあらわすようになると、さらに動詞的なカテゴリーをうしなうことになる。

(p.229-230)

(10) S字型に曲折した路が、

(野上弥生子「真知子」) (p.230)

以上の事情に当てはまる用例として(10)が挙げられ、「アスペクトからの解放」される「曲折した」は運動性をすてているとされる。そして「つまり、運動の過程における、どこかの局面をとりだして、それを、そとがわからつかまえるとか、うちがわにはいってみわたすとかいうのではないのだから、これは、アスペクトから解放されているというべきである」と指摘されている。

また、連体形の場合は「テンスからの解放」という内容が以下のように述べられている。

「はげた あたま」や「みがいた 玉」の連体形は、過去形であるが、テンス的な意味はない。過去の状態ではないのである。(中略)

なお、形式的にみると、「はげた あたま」「みがいた 玉」は、「はげる あたま」や「みがく 玉」と対立している。これは、アクチュアルな状態とポテンシャルな可能性の対立であって、テンス的な意味での対立ではない。しかし、このようなものを<アクチュアルな属性とポテンシャルな属性の対立>という、積極的文法的カテゴリーとしてとりだしてもよいかどうかは、もうすこし検討を必要とする。(中略)

[動詞の形態論的なカテゴリーからの解放] 連体形の動詞は、一般的な性質として、ムードがなく、ていねいさが、きわめてよい。そのうえに質規定の連体形は、テンス、アスペクト、ヴォイスからも解放されている。ということは、このかたちは、動詞の形態論的なカテゴリーをほとんどすててしまっているのだと言えるだろう。

(p.231)

2.3 金水 (1994)

金水(1994)は寺村(1978)を参照し、形容詞的な用法の場合、連体修飾の「～テイル」および「～タ」形を「形状動詞＝形容詞的用法」⁵という概念と呼んでいる。金水(1994)では「形状動詞」を構造的なものと語彙的なものに分け、述定形とされた「テイル」および「テアル」の概念構造と形容詞的「タ」

⁵ 本論における「形容詞的動詞」と同様の概念である。金水(1994)は形容詞的な意味を持っていて、連体修飾では「～タ」、述定では「～テイル」または「～テアル」で現れる述語を「～タ」、「～テイル」、「～テアル」を含めた形で「形状動詞」と呼ぶ。

および時制的「タ」の関連について考察している。

また、解釈的観点から「タ」形の動詞的・時制的な性格から解放され、基本的には形容詞的な解釈が可能な「タ」形に関しても述べている。例えば、「曲がった道」では、まっすぐだった道がある日曲がったわけではないので、形状動詞であると主張し、この点で「曲がった釘」「ゆでた卵」等のような意志的動作を表す動詞から作られた形状動詞とは違うと述べている。

これらの用例について、出来事の含意は形状動詞の構造的意味と無関係であり、いわば語用論的に与えられるという。さらに、「結果の状態の焦点化」という意味的効果に関して、これは結果の状態を前景化し、出来事を背景化⁶することだと指摘している。

続いて、形状動詞の「タ」と時制の「タ」の異なる点に関して、「形状動詞の「タ」は動詞の語彙概念構造に対して働きかけ、結果の状態の焦点化を引き起こす」と述べ、さらにもとの動詞の項を変更する形状動詞の「タ」に対し、もとの動詞の項を変更しない時制の「タ」という点であり、時制の「タ」は、動詞の語彙概念構造が統語構造に写像されたあとで付加されるということを意味する。述定形のテイルにも同じことがあり、寺村(1984)ではアスペクト的「テイル」と形容詞的な「テイル」が区別されている」と述べている。

一方、解釈的な観点からみて、「形容詞的な用法の「タ」には時制がなく、時制のない述語が起こり得るのは、連体修飾という統語構造からだ」と指摘している。「しかし、述定で現れる形状動詞（テイル・テアル）の場合は無時制ではいられないために、時制辞を運搬する形態を取らなければならない」という。

金水(1994)は形状動詞の述定形である⁷テイル型とテアル型の使い分けにも触れ、動詞の自動詞・他動詞に当てはめた例文を次のように挙げている。

- (11) a. 自動詞：このおもちゃは壊れている/壊れたおもちゃ
- b. 他動詞：あの人は赤い服を着ている/赤い服を着た人（テイル）
- c. 他動詞：この魚は変な形をしている/変な形をした魚
- d. 他動詞：この絵は餅が（を）描いてある/餅を描いた絵（テアル）

(p.47)

自動詞は基本的にテイル型であるが、他動詞はテイル型とテアル型に分けられている。自動詞はすべてテイル型になり、他動詞はbのタイプを除いて、テアル型になることから「主語の状態→テイル、目的語の状態→テアル」と表示されている。

以上、それぞれの先行研究では、形容詞的動詞が統語論的・意味論的な観点から考察されているが、3つの形容詞的用法形式「ル」・「テイル」・「タ」形の対比研究・使用頻度や諸格を取らない単独用法を中心とする形容詞的にのみ役割を担うものについては詳しく言及されていない。次の節では、その観点を詳細に検討し、様々な図表を通して形容詞的動詞の分類調査を行いたい。

⁶ 背景化とは、可能性として過去における出来事存在を許すが、存在しなくてもよいのであり、それを決めるのは文脈や一般知識による。（金水 1994p.44）

⁷ 金水(1994)は形状動詞の述定形で「テイル」が選ばれる動詞をテイル型、「テアル」が選ばれる動詞をテアル型と呼ぶ。

3. 考察

3.1 和語動詞 + 「ル」「テイル」「タ」形の形容詞的用法・問題点

形容詞的動詞の構造には「ル」「テイル」及び「タ」形と共に用いられるものと用いられないものが存在しており、それは単語の統語論的な機能や形態論的な働きと深く関係していると思われる。「和語動詞＋ル＋名詞」「和語動詞＋テイル＋名詞」あるいは「和語動詞＋タ＋名詞」という構成を持つ形式の単独用法を考えると、次のような問題点が現れる。⁸

(12) a. ?優れる 作者

- b. 状況判断に優れる 金子の意見を参考に、森田は投手へのサインを出し、試合後にはアドバイスも仰いだ。
(2014年07月26日・朝日新聞)

(13) ?優れている 作者

- (14) パートの中には、勤続年数が長く、正社員よりも、売り場や商品に関する知識が優れている 人や、主婦の立場から、買い物客の視点に立てる人も多いためだ。

(2003年・新聞/全国紙・城山一成)

(15) a. 優れた 作者

- b. 優れた 人物は他人と協調はするが、むやみに同調しない。
(2012年03月26日・朝日新聞)

(12a)(13)と(15a)において「優れる」の格形式と単独用法状況が挙げられ、(15a)と(15b)は最も形容詞性を有する形式であることが明確である。(12b)は、「優れる＋名詞」型の二格を取って節の要素となる用法であり、自立した形ではないため完全に形容詞的とは言えない。(13)の「優れている」は主体と単独のまま用いられていないわけでもないが、タ型の「優れた＋名詞」程ではない。また、(14)の場合、名詞修飾には「テイル」形と共に「ガ」格が見られ、格の存在によって連体修飾の部分は節であると考えられる。このような節では形容詞的動詞の基本的な役目が異なってくるため、「ガ」格の存在が必要である場合、修飾語として「テイル」形の形容詞的用法とは言いがたい。要すると、名詞を形容する際、(12a)には「タ」形以外の形式を伴うことで形容詞性を獲得できず、そして(13)には「テイル」形を伴うことで使用頻度が低くなっているのである。

「ル」形を伴うと連体修飾用法が不可能であるのに対し、「テイル」はある程度可能であり「タ」形はかなり形容詞的性格を帯びやすいといえる。このような動詞は、形容詞的用法が固定化された「主要形容詞的動詞」だと言え、「タ」形を付けた場合は、単独用法も有効であるため、欧語における「分詞」と同様な働きをするものと考えられる。構造的な観点から見ると、形容詞的用法では、連体修飾の「ル」形「テイル」形や「タ」形も、全ての動詞をどの名詞に対しても用いることができるわけではない。つまり、名詞を修飾する用法の場合は、動詞の特徴によって形容詞的用法になったりならなかったりする。

これに対して、形容詞的用法として「テイル」形でないと、使用が不可能ではないが、選択される確率が低いものも存在する。「ル」形の場合は、可能の意味を表すような解釈も取り得る例として(16)が挙げられ、形態的にはそうであっても意味的には完全に形容詞的な用法だと言にくいタイプであろう。

⁸ ??は使用確率や使用頻度が低いことを示す。??は表現的に許容しにくいことを示す。

- (16) ?切れるチーズ (作例)
 (17) 切れているチーズ (同上)
 (18) ?切れたチーズ
 (19) 賞味期限が切れたチーズ

(17)では修飾される名詞の性質を表す連体用法の「テイル」形の使用が最も適当であり、典型的な形容詞の働きや意味を持つ単独用法も可能だと考えられる。また、(19)のように「ガ」格を伴って使用が可能になる「タ」形が時制と関係ない形容詞的用法の場合、(18)のように単独ではそれほど用いられない。このことは、形容詞的動詞とされる動詞自体が、その動詞の形容詞的用法としての使用偏りに関わっていると思われる。また、(18)の場合は主語の存在はなく単独用法に見えても、意味の面では「私は切ることが出来たチーズ」という意味解釈もあり得る。故に、形容詞的な使用確率や使用頻度が低いと思われる。

以上の問題点に加えて、「ル」形「テイル」形と「タ」形の使用確率という観点からみると、書き言葉のコーパスとして用いた朝日新聞オンライン記事データベースの用例検索では、一般の動詞以外で、感情動詞の中に「テイル」形を伴うと使用される確率が高くなる動詞が存在する。例えば、「楽しむ、悩む、苦しむ、悲しむ、恨む、喜ぶ、怒る」などの感情表現が形容詞的動詞の機能を持つものについて調べると、用例数は「テイル」と共に使われた形容詞的な用法が「ル」形や「タ」形より多い。ただ、一つだけ例外の感情動詞があり、それは「驚く」という動詞である。文中では「驚く」の形容詞的な用法は「驚いた＋名詞」形式が圧倒的に多く、「ル」形も「テイル」形より多く選択されている。「驚く」という動作は瞬間動詞の特徴を持ち、(21)bの「驚いている」より(21)aの「驚いた」のように過去形を使用するのが一般的だと思われる。

- (20) a. 日本の寒さに {驚く/驚いた} 外国人
 b. ?日本の寒さに驚いている外国人

- (21) a. 何を驚いた顔をしているの。
 b. 何を {? 驚く/驚いている} 顔をしているの。

以上から分かるように、形容詞的動詞の成立には様々な条件があり、構造に用いられる動詞の特徴・種類や語彙的な性質によって使用が可能か不可能かということが判断できる。よって、動詞そのものを形容詞化する際の成立条件についてもより詳しく研究する必要があると考えられる。

金田一(1950)では動詞が四つに分けられ、いつも「テイル」形で状態を表す第四種動詞とされる形状動詞が分類の一つとして挙げられている。金田一(1950)は第四種動詞である「そびえる」は述定形が「そびえている」になるが、連体修飾形は「そびえた山」ではなく、「そびえる山」になるので注意が必要であるという。この点も踏まえると、どのような動詞が固定化した「主要形容詞的動詞」になり、連体修飾用法の際に「ル」「テイル」や「タ」形と共に用いられる可能性があるかを明らかにする必要があると思われる。

また、金田一(1976)では「～テイル」形を取ることで動詞はどのような意味をしているかという観点から動詞が四つに分類されている。第四種の動詞カテゴリーには常に～テイルの形で用いられ、時間の概念を含まず、ある状態を帯びることを表す動詞が挙げられている（例えば聳える、優れる、

有り触れる、馬鹿げるなど)。さらに、金田一(2004)ではその動詞類が改めて整理され、以下の通り主張されている。

(イ) 状態動詞：「～テイル」の形をもたない。

例：ある、いる、できる、泳げる、赤すぎる。

(ロ) 継続動作動詞：「～テイル」の形をもち、動作の進行中を表わす。

例：読む、書く、歩く、走る、降る。

(ハ) 瞬間動作動詞：「～テイル」の形をもち、動作の完了後を表わす。

例：始まる、終わる、死ぬ、結婚する。

(ニ) 状態を帯びる意味の動詞：いつも「～テイル」の形で使われ、ある状態にあることを表わす。

例：似る、聳える、才気走る。

(p.229)

加えて、現代語動詞に見られる形容詞的用法に関する先行研究、釘貫(2012)では「テイル」と「タ」形の異なる点は「テイル形」より「タ形」の方が形容詞的に用いられやすい傾向がある」と指摘されている。この違いについて、次のように述べられている。

現代語のテイルは過去情報を持たず現前の事態進行を表示することが多い。また現代語のテイルは、タ形に比べて分詞的用法があまり観察されず、項を引き込む性質が強い。タ形は「浮いた噂」「消された真実」などのほか、「利いた風なこと」「洒落た関係」「傷ついた友情」「壊れた扉」などの汎用性の高い表現がいくつかもあるのに対して、テイルが介入するこの種の離散的な連語は、「生きている証」「混んでいる電車」「沸いている会場」など文脈によっては可能であろうが数多く連想できないし、熟した離散的な用法とも思えない。(中略)つまり動詞の形容詞的用法は項を取らないことから文脈から離脱的な性質を伴って本来の動詞としての性質を希薄化するのだと思われる。

(p.118)

また、釘貫(2012)では「ル」形に関して「「咲く花」のような名詞修飾は、時間を超絶して物事を状態表示するものであり、筆者が無標識分詞⁹と考える用法である」と述べられている。

一方、朝日新聞オンライン記事データベースの用例検索では確かに「テイル」形より「タ」形の方が形容詞らしい性格を持つが、「テイル」を伴う「副次形容詞的動詞」の存在も全くないとは言えない。「ル」形の用例数は僅かであるが、主体との使用が全くないわけでもない。

(22) 体重を減らすための運動や食事はよく聞きますが、痩せている人へのアドバイスは、あまり聞きません。

(2011 年 10 月 01 日・朝日新聞)

(23) 体重を減らすための運動や食事はよく聞きますが、{?痩せる/?痩せた} 人へのアドバイスは、

⁹ 釘貫(2012)では動詞の連体修飾用法が「分詞」と呼ばれ、本論の「形容詞的動詞」と同様な形式用法だと予測されている。

あまり聞きません。

(22)の解釈では文脈の内容が現在の状態と関連しているが、連体修飾の際、動詞「痩せる」の代わりになる典型的な形容詞がないため、人の状態的な性質を表す形式は「痩せている」しか存在しない。元々の例文で「テイル」が付いている形式の入れ替えを行い「ル」形や「タ」形の(23)を設定すると、逆に文脈に当てはまらなくなり、(22)より使用確率が低くなる。特に「ル」形の場合は未来を表す、つまり「これから痩せる人へのアドバイス」のような動作を表示する意味に近く動詞らしさを強く持つため、形容詞的用法とは言えないだろう。解釈的には文脈の述語時制にも関わる問題だが、このような文脈で形容詞の性格を有する「ル」や「タ」形より「テイル」形が優先される理由は解釈論的観点と関係しており、発話状況とも関係していると考えられる。

(24) a. の「太っている」も「痩せている」と同様に「ル」形や「タ」形より「テイル」形の方が選択され、文脈での解釈によって最も自然な日本語に近い。

(24) a. 講座は太っている女性が対象で、毎月 1 回の 5 回コース。

(2007 年 01 月 31 日・朝日新聞)

b. 講座は {? ?太る女性 / ?太った女性が対象で、毎月 1 回の 5 回コース。

(25) a. 太っている人もいたら痩せている人も居る。

(2004 年 06 月 18 日・朝日新聞)

b. 太った人もいたら痩せた人も居る。

c. ?太った人もいたら痩せている人も居る。

d. ?太っている人もいたら痩せた人も居る。

(25) a (25) b のような文の場合、もし形容詞的動詞となるものが対照されるなら前部と後部の構造は同様の形式をもつ要素になるのが妥当である。そして、「テイル」と「タ」形の入れ替わった(25) c (25) d はそれほど選択されない文になっている。

例文に見られるこの点を踏まえて、形容詞的動詞構造は文脈的な観点や解釈論的な観点からもみる必要があると思われる。

一方、「太る」についてももう一つの興味深い点がある。「太る」には典型的な形容詞形式であるク活用の「太い」も存在しており、連体形として主体と共に用いられている。但し、主体である名詞がモノゴトではなくヒトである際、用例(24b)の「太る＋女性」「太った＋女性」のように時制と関係なく名詞を修飾する役目での使用は困難である。そして、「講座は太い女性が対象で、毎月 1 回の 5 回コース」という文章に見られる使い方で表現的に許容されない文になっている。単独用法は不可能だが、諸格を伴うことで「太い＋ヒト」形式が使われるようになる。以下の用例を見てみよう。

(26) 足が太い人

「ガ」格を取ると何も問題なくヒトとの使用が可能になる(26)の場合は、直接名詞を修飾するわけではなく、連体修飾節の要素になるものである。

3.2 能動形との使用が可能な和語動詞（自動詞）

3.2.1 「副次形容詞的動詞」

以上の考察から分かるように、主な問題になっている点は形容詞的動詞を構成する「ル」「テイル」や「タ」形の選択条件である。そこで、「ル」「テイル」「タ」形との使用が可能な動詞を表にして明示的に示す。「動詞＋ル＋名詞」「動詞＋テイル＋名詞」と「動詞＋タ＋名詞」形式を中心に、形態も意味も固定しており、「ヲ・ニ・デ・ガ」など諸格を取らず、単独のまま、ヒトとモノゴト・デキゴトの状態・性質を表す形容詞的な用法が多く見られるものを対象とし、次の様々な表に示す。

まず、「副次形容詞的動詞」に関する表を、以下に表①として挙げる。

表①において△マークは用例の多くが述語として現れ、形容詞的な動詞用法の見当たらなかったものを表示している。また、*印が付いている数字は主体として特定の名詞を対象とし、出現した用例数を表す。（下記の注10を参照）

表①¹⁰

「副次形容詞的動詞」 -自動詞-	「ル」形 (1984年~2014年)	「テイル」形 (1984年~2014年)	「タ」形 (1984年~2014年)
空く	8	192	312*
溢れる	101*	7	152*
改まる	15	△	76
誤る	△	25	143*
生きる	10	60*	71*
怒る	26*	17*	13*
落ちる	98*	132	287
戯ける	16	△	27*

¹⁰ この表の左端に挙げた動詞はデータの範囲内で「格をとらず単独でヒトとモノゴト・デキゴトの状態・性質を表す」用例として見つかったものであり、またデータの範囲内で形容詞的動詞とされたものについて、実態を確認しつつ五十音順に列挙したものである。表①における*印が付いている数字の例としては例えば、「空いた時間・あふれる情報・あふれた水・誤った情報・生きている証・生きた魚・怒る/怒っている/怒った人・落ちる球・おどけたしぐさ・驚く人・溺れている/溺れた人・折れた枝・輝く太陽・枯れた花・乾いた土・変わるもの・変わった形・消えた年金・煌めく星座・切れる包丁・決まった形・腐った部分・崩れた土砂・異なる意見・異なった意見・こだわる人・凝ったデザイン・壊れた家屋・さけるチーズ・さびた鉄・死ぬ/死んでいる/死んだ人・倒れる/倒れている/倒れた木・たまった水・違うもの・疲れている/疲れた人・積もる/積もっている/積もった雪・つぶれた家・溶けるチーズ・溶けた鉄・取れるもの・取れた魚・止まっている/止まった車・閉じたシャッター・治る病氣・似ているところ・似たもの・漏れた水・抜けた歯・外れる人・冷える夜・冷えた体・曲がった道・焼けた住宅・やせた体・破れた服・酔った人・汚れた水・割れるガラス・割れた窓」などが挙げられる。また、表①における様々な色について、薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

驚く	65*	6	88
怯える	49	3	29
溺れる	60	72*	126*
折れる	7	5	66*
輝く	36*	38	27
固まる	2	7	57
枯れる	27	10	63*
乾く ¹¹	2	5	94*
変わる	43*	6	71*
消える	62	8	94*
煌めく	75*	3	6
切れる	6*	6	108
決まる	12	18	24*
腐る	12	10	61*
崩れる	28	7	92*
朽ちる	3	2	128
砕ける	15	3	81
肥える	1	1	62
凍る	24	9	230
異なる	161*	3	25*
こだわる	23*	13	45
凝る	8	△	53*
混む	2	9	15
壊れる	23	19	67*
裂ける	6*	2	42
錆びる	8	4	113*
寂れる	14	△	81
冷める	3	10	84
死ぬ	29*	7*	307*
萎む	14	△	47
閉まる	7	13	26
済む	3	3	16
倒れる	20*	59*	173*
貯まる	39	51	165*
足りる	11	6	1
違う	108*	8	651

¹¹ 「乾く」の形容詞的な用法としては「乾いていた」もよく見られる形式である。「老人はうなずきながら、乾いていた声で笑った〈円地文子〉」

散らかる	3	10	62
疲れる	△	25*	54*
積もる	12*	8*	17*
潰れる	54	9	84*
尖る	4	7	186
溶ける	36*	12	58*
取れる	39*	△	74*
止まる	6	35*	23*
治る	26*	△	33
濁る	5	3	150*
似る	2	22*	131*
濡れる	21	11	133*
抜ける	6	8	28*
捻れる	6	△	112
剥がれる	1	△	64
外れる	10	3	48*
腫れる	2	4	42
流行る	3	20	15
冷える	28*	3	152*
老ける	1	1	11
解ける (ほどける)	3	△	13
曲がる	18	14	50*
乱れる	22	5	43*
むかつく	10	1	5
焼ける	13	2	80*
痩せる	6	35	57*
破れる	5	8	25*
歪む	7	△	45
酔う	5	7	39*
汚れる	7	17	170*
割れる	8*	6	211*

「ル」「テイル」「タ」形の欄において、数字はその動詞が典型的な形容詞と同様の役割を果たす、つまり単独で名詞修飾語になっているものの用例数を表している。表の左端における、述語文用法も可能なこのタイプの動詞は「副次形容詞的動詞」という動詞類に属していると判断する。以下に様々な用例を挙げる。

(27) 色々な人がいますよね、世の中。違う意見を持っているというだけで、必要以上に攻撃されて叩かれる。

(2005年・Yahoo!知恵袋)

(28) 野菜たっぷりのみそ汁で1杯分、お浸しや煮物のおかずでさらに1杯分食べれば、足りる計算だ。

(2009年09月27日・朝日新聞)

(29) こういう、むかつく話については、ツッパリの生徒たちも題材には事欠かない。

(1994年09月05日・朝日新聞)

(30) 進学組の補習授業に就職組も参加できることにはなっているが、空いている席を探すか、自分で机を持ち込まなくてはならない。

(2004年02月29日・朝日新聞)

(31) 会場によっては聴覚障害者用字幕も。決まっている日程は次の通り。

(2002年11月08日・朝日新聞)

(32) 二人は、ダイニングルームの傍に立って、散らかっている書類に目を通した。

(1995年・書籍/9 文学・門田泰明)

(33) 寂れた街の活性化と高齢者の健康づくりを活動の柱に据え、年1回の花コンテストと週3回の太極拳を開催。

(2005年10月13日・朝日新聞)

(34) ブレーキで徐行も停止も可能で、レヴァーを押し下げれば、尖った鉄の棒が地面を押して制動するしくみであった。

(1997年・書籍/7芸術・美術・比毛一朗)

(35) 水仙弁で三弁、捧心ともに反りがち。濁った花色に咲くことが多い。弁先の色は特に濃い。

(1995年・書籍/6 産業・朴相吉)

(27)において、「ル」形のまま文頭用法として用いられる「違う」は主体の「意見」を修飾する要素でありながら、形容詞的な働きをしている。「違う」は名詞修飾に使用されると共に、述語文においても形容詞述語としての役割を果たす。その点を踏まえて「意見は違う」にすると、語順が変化するだけになり、修飾語である「意見」の性質を表す意味は変わらない。語順によって「違っている」と「違った」を取り上げると、「意見は違っている」「意見は違った」とも言えるが、「テイル」や「タ」形を伴う形容詞述語形式の場合ではアスペクトやテンスの解釈を取る可能性がないとは言えない。従って、「違う」のような「ル」形を伴うことで形容詞性を最も有する動詞も注目すべき点だと考えられる。

また、金田一(2004)は以上の現象と関連する項目について次のように述べている。

「～タ」が属性所有の意味をもつと言われているのは、次のように(ニ)¹²の種類についての場合である。尖った(＝尖っている)帽子。私ニ似た(＝似ている)人。

この尖った・似たの形は、現在では文の末尾には用いられなくなっているが、前代には次のようにそうではなかった。

笠がよう似た(＝似ている)菅笠が(小歌) (中略)

このアスペクトによる分類を前回の分類と対照すると、(イ)状態動詞、(ハ)瞬間動作動詞、(ニ)状態を帯びる意味の動詞には自動詞・無意志動詞が多く、(ロ)の継続動作動詞にはしばしば他動詞があり、意志動詞が多いという関係が認められる。

(p.230)

(28)、(29)、(30)、(32)、(34)の例では、形容詞的に文頭用法のみならず文中用法も見られ、連体修飾節から自立した語句として用いられる例である。

(28)と(29)の「足りる」「むかつく」は「ル」形のまま文末表現に多く用いられるためか形容詞的動詞としての用法が僅かに見られた。「テイル」や「タ」形を共起する用法もなかなか現れず、3つの形式の内、最も多いのは「ル」形であった。

(32)において、述語の時制は過去形であるにも関わらず、アスペクトの「テイル」が付いている「散らかっている」は時制と無関係の形容詞らしい形式となる。それに対して、(33)の述語は現在形であり、タ形の「寂れた」の固定化した形容詞的な形式には過去のニュアンスがない。すなわち、過去の意味解釈を取れない、典型的な形容詞用法で用いられている。

「副次形容詞的動詞」と判断し、表①に載せた動詞類を詳しく見ると、対象とした全ての動詞は自動詞であり、その中、モノの状態・性質・位置などを表示する「無意志的な変化動詞(自動詞)¹³」が多数である。無意志的な変化動詞の中には、「溢れる・落ちる・死ぬ」などのような瞬間動作動詞も属して、むしろ「ル」形との共起の場合はより形容詞性が現れる動詞類だと考えられる。そして、表①において他の動詞に比べ、薄青色が付いている「怒る」「怯える」「異なる」「違う」「煌めく」も「ル」形との使用が豊富な動詞であり、形容詞的用法が固定的だと分かる。

3.2.1.1 和語動詞(自動詞・他動詞)の比較・「連用形＋主体」形式

自動詞と他動詞を比較すると、語彙的な意味という点からも考え、形容詞的動詞として使用される、つまり名詞の前に位置して項をとらずに連体修飾する自動詞は能動形を共起することで最も「形容詞性」を発揮する動詞だと言ってよいのではないだろうか。

自動詞の場合は能動の「ル・テイル・タ」形との単独用法も見られ、他動詞より形容詞らしさを持つものが存在している。例えば、名詞修飾する際「割れる」という自動詞の格を取ってない単独用法「割れる・割れている・割れた＋名詞」は形容詞的な役割を果たしており、採取したデータ上、他動詞「割る・割っている・割った＋名詞」の場合は主語や「ヲ・ニ・デ・ガ」格を伴うものがほとんど

¹² 本章の13ページを参考。

¹³ 工藤(1995)において「モノの無意志的な変化動詞」は主体変化動詞<内的限界動詞>カテゴリーに所属しており、モノの状態・性質・位置などを表す自動詞とされている。表①の作成にはこれらの自動詞を参考にしたうえ、現代の日常談話や新聞記事では頻繁に出現する動詞が加えてある。

であった。単独用法はなかなか見当たらず、(39)はその用例の一つである。

(36) 当時の窖窯（あながま）は性能が悪く、割れるものが多かった。

（1996年04月16日・朝日新聞）

(37) 豊作といっても、ごく小さいものや割れているもの、いびつな形のものが交じっている。

（2008年12月25日・朝日新聞）

(38) 当時の市環境部長も事実を認め、割れたものは埋め立て処分していることも明かし、「ビンは有効な再生資源物」。

（2009年12月5日・朝日新聞）

(39) レンズ豆にも種類があつて、薄い茶色が皮付き、オレンジ色は皮をむいて二つに割ったものです。

（2005年2月13日・朝日新聞）

一方、新聞オンライン記事データベースにおける用例を基準とし、「テイル」形と「タ」形を比較すると「割れたもの」が現れる例文は多いが「割れているもの」の用例は僅かであり、「タ」形において意味的にも解釈的にも形容詞的と言える特徴を有するものが圧倒的であった。また、「ル」形の「割れる」は数が少なく、意味上可能形の意味解釈もあり得るため、形容詞的な用法か否かの判断は文脈によると言える。そして、用例検索では異なる形式として「割れ物・割れ茶碗」などのような時制語尾が付いていない用法もかなり現れた。ということはこれらのように時制語尾が用いられなくても、連体修飾の意味解釈が取れる新たな語句形式が使用されるようになったのではないかと思われる。以下の様々な用例で確認できる。

(40) 購入者が、いずれも新品かそれに近い布団、クッション、毛布、懐中電灯、電池、割れ物以外の食器を持参すれば、購入商品と一緒に送る。

（2011年03月18日・朝日新聞）

(41) 昔は「割れものは縁起が悪い」という人もいたけれど、最近は「割れる＝幸せが増える」説も聞くよ。

（2009年06月20日・朝日新聞）

(42) 「日本人は悲劇好きでな。とくに岸岳は五百年続いた波多氏と一緒に滅びた窯じゃから、古唐津好きには涎（よだれ）が垂れる。割れ茶碗、欠け皿でも欲しい」。

（2000年10月29日・朝日新聞）

さらに、形容詞的用法で「切る」という他動詞を形容詞化しようとして「タ」形とし、名詞修飾の環境に置くと、例えば「切った紙」のような例では、意味的な観点からも時制とは無関係になれず、「既に（過去の一時点で）切った紙」という解釈になる。この場合は、形態論的には形容詞的動詞になっているが、他動詞であるため意味論的には時制の意味を有し、「切った」が形容詞的動詞である

とは言えないだろう。また、「切った紙」の用例検索では、二格や副詞「細かく」等のような要素と共に用いられる用例が多かった。おそらく日本語において適当な表現は「切り紙¹⁴」であり、他動詞による形容詞的動詞の代わりとしての役割を果たしている単語だと思われる。「切り紙」と同じ属性を持つ「空き缶」も使用が多く見られる固定的な一語として挙げられる。

また、自動詞の「切れる」にも同様の用法が存在し、「切れる毛」や「切れた毛」より「切れ毛」が用いられる傾向がある。調査範囲内において「切れ毛」は19件が出現し、使用率として「ル」や「タ」形に近い固定化した語句特徴が高いものだと考えられる。

(43) 紫外線やドライヤーの熱、パーマや毛染めの薬品…。髪は様々に痛めつけられてパサつき、
切れ毛や枝毛を生じやすくなる。

(2004年10月02日・朝日新聞)

動詞「切れる」では、以上にみたように、「切れ毛」のような使い方が現れるが、あらゆる和語動詞に同様な形が存在するわけではないということは興味深い。例えば、「破れる服」を用例対象とし「破れ服」に変形させ、用例調査をすると一件も「破れ服」のような形式で見当たらなかった。この点を踏まえるとどのような動詞の場合に、「連用形＋主体」の変形が成立するかという問題は、さらなる研究の必要性が感じられる。

表①から、「ル」「テイル」「タ」形を比較すると、「ル」形と共起される「副次形容詞的動詞」は「溢れる・落ちる・異なる・違う」が多く、意味的にも形式的にも「ル」形との使用が固定化しているものだと分かる。例えば、「違う」を取り上げると「テイル」形式が僅かであり、「ル」や「タ」形式が形容詞的に多く用いられることが明確である。「違う」の検索では主名詞とした「モノ」との単独使用が108件出現し、「タ」形の次に形容詞らしさを発揮する形式と言える。全ての形式を比べると「タ」形が形容詞的に用いられる語尾として優先的に選択されると言ってよいであろう。

3.2.1.2 「主名詞」以外の名詞用法

以上に対して、「和語動詞＋能動形＋名詞」には異なった単純形式がもう一つ現れ、形式的には形容詞的動詞特徴を有するものの、意味的にはそうでもない場合がある。例えば、「汚れる＋主体」形の検索では、「汚れる仕事」のような語句は形容詞的な用法に相応しい用例として出現したが、主体である「仕事」の状態や性質を具体的に表していないと思われる。以下の例文を見てみよう。

(44) 美大の女子学生はどうだろう。彼女たちは溶接をするし、ペンキや絵の具も使う。汚れる仕事も平気なんじゃないか。

(2011年01月12日・朝日新聞)

意味上、汚れるのは仕事でなくその仕事を行う人の手や指であるにも関わらず、形態上は形容詞的動詞用法になっている。故にこのように両方の条件を満たさない場合、すなわち形態と意味の整合性

¹⁴ 用例調査に基づいて「切り紙」はこのまま一語としてかなり用いられ、主体である「紙」の状態や性質を表しているため、形容詞らしい用法のもう一つの形式ではないかと考えられる。

を獲得できない場合、形容詞的動詞用法であるか判断が難しい。元々きれいではない仕事状態を「汚い仕事」という表現で表す選択肢もあるにも関わらず、代わりに「汚れる仕事」という表現が用いられるようだが、このような用法の場合は完全に形容詞的か把握しにくく、判断が困難である。よって、ここで用いられる名詞に「主名詞」とは言えない。

3.2.2 「主要形容詞的動詞」

続いて、以下に表②として「主要形容詞的動詞」を、後節形式毎に用例数を示す。

表②¹⁵

「主要形容詞的動詞」 -自動詞-	「ル」形 (1984年~2014年)	「テイル」形 (1984年~2014年)	「タ」形 (1984年~2014年)
優れる	△	19	116*
禿げる	3	△	35
馬鹿げる	×	1	25*
さばける	7	1	24
そびえる	43	△	△ ¹⁶
捻くれる	1	2	42

表の左端には形容詞的用法「ル」「テイル」「タ」形の場合、形態も意味も固定しており、動きのない、ヒトやモノゴト・デキゴトの状態や性質・属性を表す「主要形容詞的動詞」が挙げられている。以上の表②から、この3つの形式の使用頻度や選択される確率に関しての結果が明らかに見られる。すなわち、「タ」形が他の二つの形式より形容詞的用法として多く用いられる形式である。文脈内では「タ」形を「ル」形や「テイル」形と置き換えた場合、不自然な日本語が生じる場合もある。次の例文の通りである。

(45) 夫人はもと下関の芸者梅子で、{さばける・??さばけている・さばけた} 人だったから伊藤の水揚げした芸者を可愛がったとか。

(2007年06月08日・朝日新聞)

¹⁵ この表の左端に挙げた動詞はデータの範囲内で「格をとらず単独でヒトとモノゴト・デキゴトの状態・性質を表す」用例として見つかったものであり、またデータの範囲内で形容詞的動詞とされたものについて、実態を確認しつつ五十音図に従い列举したものである。表②における*印が付いている数字の例としては例えば、「優れた人材・馬鹿げた話」などが挙げられる。△マークは用例の多くが述語として現れ、形容詞的な用法として見当たらなかったものを表し、×は使用が不可能か用例検索にはないものを表す。また、表②における様々な色について、薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

¹⁶ 「そびえた」の用例検索では、述語文に用いられる例文(6件)も僅かであり、様々な主体を取る形容詞的動詞用法としては「そびえたつ」を伴う用例がより多く出現した。

(46) まず「かき氷」を少し手に取って、これを手ぬぐいのにせ、{禿げる・??禿げている・禿げた}
頭や顔へ押し当てて一息つき、(下略)

(2003年7月11日・朝日新聞)

(47) 父が私とまた以前のように{??馬鹿げる・??馬鹿げている・馬鹿げた}冗談を言い合って、すっかり幸福そうなので、(下略)

(悲しみよこんにちは・サガン)

(48) 2人の目標はもちろん谷繁。{そびえる・??そびえている・??そびえた}山はとてつもなく高いが、「いつか乗り越えてみせます」と口をそろえる。

(2002年03月04日・朝日新聞)

3.2.3 「典型的な形容詞形式を持つ形容詞的動詞」

また、ほかに、単語として元々典型的な形容詞の存在があるにもかかわらず、形容詞的動詞の用法も見られる動詞の存在が興味深い点だと思われる。多くの感情動詞がこのグループに入っており、それらはシク活用の形容詞と同様に連体修飾の役目を担うものである。感情動詞以外、一般和語動詞の中にも元々典型的な形容詞の形式が存在しているが、形容詞的な動詞用法も見られ、多く使われるものもある。以下にそれらタイプを表③として載せる。

表③¹⁷

形容詞的動詞 -自・他-	「ル」形 (1984年~2014年)	「テイル」形 (1984年~2014年)	「タ」形 (1984年~2014年)	典型的な形容詞 (1984年~2014年)
太る(太い)	△	32*	54*	5*
弱る(弱い)	4*	42	35*	393*
憎む(憎い)	1	1	1	13
悩む(悩ましい)	102	215	5	1
苦しむ(苦しい)	149	225	15	29

¹⁷ この表の左端に挙げた動詞はデータの範囲内で「格をとらず単独でヒトとモノゴト・デキゴトの状態・性質を表す」用例として見つかったものであり、またデータの範囲内で形容詞的動詞とされたものについて、実態を確認しつつ列挙したものである。表③における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として、特定の名詞を対象とした用例数である。例えば、「太っている/太った/太い人・弱る気持ち・弱った体・弱い人・怖がった子ども・恥ずかしがっている子」などが挙げられる。△マークは用例の多くが述語として現れ、形容詞的な動詞用法として見当たらなかったものを表し、×は使用が不可能か用例検索にはないものを表す。また、表③における様々な色について、薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形と灰色は「典型的な形容詞」との共起が多いものを表している。

悲しむ (悲しい)	42	23	5	17
楽しむ (楽しい)	24	14	4	26
怖がる (怖い)	15	2	2*	46
寂しがる (寂しい)	4	3	×	28
恥ずかしがる (恥ずかしい)	8	1*	△	16

感情動詞はヒトに対して使用されるため、修飾される主名詞として「ヒト」を使用し、用例検索を行った。「太る」と「弱る」はヒトのみならずデキゴトやモノゴトに対しての使用も可能であるため他の主体を伴う用例を検索対象とした。表③から分かるように「太る」の場合、形容詞的な用法が最も多く用いられる形式は「タ」形であり、「太い＋ヒト」形式は僅かである。それに対して「弱る」の方は典型的な形容詞用法つまり「弱い＋ヒト」が数値的に多い。感情動詞の多くに関して、「ル」や「テイル」形は他の形式より多く用いられるが、逆に最も使用されやすかった「タ」形が選択されていないというのは興味深い点だと言える。また「寂しがる」「恥ずかしがる」のような「形容詞語幹＋ガル」形式動詞の場合、シク活用の形容詞形式が使用される頻度は高いと言ってよい。

全ての表を比較すると、表③は表①や表②と異なり、他動詞でありながら「感情動詞＋能動形」構成は一般形容詞的用法として可能であり、数値的にも他と異なって「ル」形や「テイル」形は「タ」形や典型的な形容詞より圧倒的に多い。

検索の際に修飾される主体を選ぶ基準は「時・際・場合・理由・状態」などのような一般用語を除いた名詞の中からの選択である。このような用語を使用する場合、述語性の強い用法になり、形容詞的な意味解釈を取らない場合もある。もし修飾される名詞として「時・際・場合・理由・状態」を入れようとしたら、意味的には必ず動詞的な意味用法で解釈されると思われる。つまり、形容詞的な用法から離れる形式になるため、修飾語となる主体の選択にも限定があると思われる。3.2.1.2 に前述した項目と同様であり、これらの主体も「主名詞」の対象とならない。以下に挙げる用例は動詞らしい用法のものである。

(49) イスティングには透明なグラスを使いますが、カットグラスもワインが美しく見えるので、楽しむ場合にはいいと思います。

(1996年・書籍/5技術・工学・田崎真也)

また、形容詞的動詞用法に相応しい用例の判断には時制と関係のない語句を対象としたため、特に発話の台詞では括弧の中に書かれた「テイル」形のようにアスペクトを表す用法を対象外とした。

本研究の対象とした動詞全体を分析すると、形容詞的動詞用法が最も多いのは「タ」形であることが明確だが、動詞類によって「ル」形や「テイル」形も形容詞的用法に近い働きをするケースが生じることが分かる。そして、感情動詞の場合は「ル」「タ」「シク活用形容詞」の3つの形式より「テイル」形が多く使用されることが分かる。他の形式に比べ、述定では文末に来る「テイル」形の形容詞性が強くなり、固定的な形容詞用法の方が、より使用頻度が高いと言える。

4. おわりに

日本語において動詞が動詞らしさを失い、連体修飾要素となる形容詞的用法を「形容詞的動詞」また「形状動詞」と呼ぶ研究者がいる。言語学大辞典(2003)によると、欧語では動詞と形容詞の機能を合わせもった「分詞」(participle)と呼ばれる品詞が存在する。「現在分詞」(present participle)と「過去分詞」(past participle)の二つに分けられた分詞類は多くの言語に一般的だとされている。

日本語の場合、この形容詞的用法は「分詞」とは呼ばれず、また「分詞」という品詞カテゴリーも存在していない。ゆえに、今までこの形式のものは「形容詞的動詞」か「形状動詞」と言われてきたのであろう。筆者もそれに従って「形容詞的動詞」という用語を使うことにした。また、様々な特徴によって「形容詞的動詞」になる和語動詞を「主要形容詞的動詞」「副次形容詞的動詞」「典型的な形容詞形式を持つ形容詞的動詞」として分類した。

本章では、現代日本語における形容詞的動詞に注目し、「ル」「テイル」「タ」形が動詞らしさを失う用法について、文中において連体修飾に用いられる単独の形態を中心に考察をおこなった。また、コーパスとして朝日新聞オンライン記事データベース(1984年~2014年)を用い、意味論的視点や形態論的視点から見た形容詞的動詞を抽出し、連体修飾の際に「ル」「テイル」「タ」形のそれぞれの形をとることが可能かどうかを分析し、動詞表に示した。図表における適否の判定は、筆者の主観ではなく、日常の新聞に使用される文章の内容から決められ、その基準で行っている。

また、形容詞的動詞の修飾する名詞が「ヒト」である場合、使用が可能な自動詞が多かった。形容詞的動詞用法には自動詞や他動詞との関係もあり、動詞が自動詞で、名詞がヒトの場合、「ガ格」を伴う必要があるものの存在があることが分かった。形容詞的な特徴を有する動詞の種類や諸格の用法によって、全ての動詞が形容詞的動詞になれるわけではないことも明らかになった。そして、表③に載せた動詞にも形容詞的動詞としての用法が存在することが分かった。

他動詞の場合、形容詞的用法が受動形を伴うことで出現しており、次の章では「他動詞+受動形+ル・テイル・タ」型を中心に考察を進めていく。

第二章

現代日本語における形容詞的動詞 - 和語動詞+「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形を中心に-

1. はじめに

前章では、体言を修飾する場合に、動詞を形容詞に転用し、ヒトの行状・状態・感情とモノゴト・デキゴトの状態・性質などを標識する際の動詞を取り上げた。連体修飾において能動の「ル・テイル・タ」形と共起する和語動詞（自動詞）の使用可否について考察し、実際の用例に基づいた文脈の観点から特に形容詞らしい用法が出現する表現に注目した。この特徴で現れる動詞には自動詞のみならず、受動形を伴い形容詞用法に用いられる他動詞も数多く存在している。

- (1) 奪われる未来の代わりなのか、死んだ人と話す能力を得て、家族を苦しめてきた秘密を解き明かす。
(2012年 07月 26日・朝日新聞)
- (2) 制作メンバーは、これまでもいじめによる自殺が問題となったとき、テレビなどで「頑張って」と、いじめられている子どもを励ます大人の言葉に違和感を感じるがあった。
(2012年 08月 18日・朝日新聞)
- (3) ある阪神ファンは「来年のシーズン途中で、壊されたテレビが転がっているかも」。
(1999年 10月 28日・朝日新聞)

以上の(3)において、連体修飾に受身形式でありながら「ヲ・ニ・デ・ガ」などの諸格を取らず、基本形容詞と同様に単独のまま、主体である「テレビ」の状態・性質を表す「壊す」が用いられつつ、動きを表す用法を持たない形態が見られる。能動形の場合と同じ「形容詞的動詞」¹であり、動詞らしさを失った形容詞らしい用法で登場する形式の一つである。(1)の「奪われる」(2)の「いじめられている」も同様であり、「ル」形と「テイル」形を共起する形式のまま「未来」「子ども」という主名詞を形容している。

本節では受動形と共起する場合に形容詞性が見られる他動詞に注目し、連体修飾節に接続せず単独用法で現れたものを取り扱い、受身形式での使用が最も一般的なものを整理する。

また、全ての和語動詞（他動詞）が「(ラ)レル・(ラ)レテイル・(ラ)レタ」形を接する

¹ 寺村(1984)では「優れている・馬鹿げている」等のような形容詞的にのみ使われるものを表す用語だが、本論の第一章にも前述したように、形容詞的な用法特徴を持つ動詞を「形容詞的動詞」と呼ぶことにする。また、筆者は文脈において、形容詞的な用法で現れる一方、述語としての使用も多く見られるものには「副次形容詞的動詞」、常に形容詞的用法で用いられ、述語性を失ったものには「主要形容詞的動詞」と名付ける。

わけではないため、受身形式での使用も区別する必要があると思われる。従って、考察では形容詞的用法に基づいて検討を行い、形容詞的動詞特徴が見られる動詞に受身形を後接させることが可能なものを、表①では他動詞及び表②では自動詞として示す。用例数から形容詞的な働きをするかどうかを判別し、どのような他動詞及び自動詞の使用頻度・傾向が高いかを明らかにすることが本章の目標である。

考察に使用する用例出典としてはコーパスを用い、朝日新聞オンライン記事データベース(1993～2013)の調査では1993年以降の記事を対象とし、実際の用例数を通して形容詞化への偏り状況を見てみる。

2. 先行研究

本節において、現代日本語に存在する形容詞的動詞の様々な形態の内、受身形式の自動詞や他動詞との関連について述べたい。この形態の現代語に至るまでの発達過程は、古代日本語における形容詞化用法の名詞修飾機能に関する統語構造論的研究として、釘貫(2008)によって主に行われており、その中で現代語にも出現したものについて次のように述べられている。

現代日本語では、他動詞を自動詞に変換する形容詞的用法が確立している。「いじめられる子、盗まれた財布、閉ざされた空間」のように受身助辞を接することで他動詞を形容詞用法に動員している。これらは、「咲く花、壊れた関係」など自動詞の形容詞的用法と同値の関係にある。受身助辞を介して他動詞を自動詞に変換する文法規則は、奈良時代語において存在しなかった。

(釘貫 2008p.2)

形容詞的機能を持つ動詞に関する従来の研究には金田一(1950)をはじめ、寺村(1984)、高橋(1994)および金水(1994)などの論文や文献があるが、その多くは和語動詞も能動形の用法を対象としており、形容詞らしい意味や形態を有する受動形の動詞分析研究はなされていない。自動詞および他動詞に関して未だ研究が行き届いていない部分を含めた形で図表を作成し、用例数値を元にしてより形容詞性を持つ動詞類を明らかにすることが目標である。

3. 考察

3.1 和語動詞＋「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形の形容詞的用法

3.1.1 受動形との使用が可能な形容詞的動詞（他・自）

まず、テンスやアスペクトから解放される形容詞的動詞に関して、受動形の場合にも能動形と同じく未来情報・現在情報や過去情報などを反映しない動詞を中心に考察を行う。典型的な形容詞と同様の役割を果たさない場合は、文脈の解釈によって「形容詞的動詞」のカテゴリーに入るのかを判断しにくい場合もある。従って、名詞を修飾するあらゆる動詞が形容詞的特徴を有するとは言えない。形容詞的特徴を有するかどうかは動詞そのものが文中において使用される位置や

諸格の有無によって決定されるものである。

次から形容詞的用法が受身とともによく用いられる「限る」の様子を見る。ここで、被修飾要素となる「モノゴト」の全てを取り上げると幅が広がってしまうため、対象とする用例は「限る」が「動詞＋受身＋ヒト・モノ」の形式をもった語や名詞を修飾するものとした。

「限られる＋ヒト」の場合には単独用法が存在せず、6例すべてが諸格を取る修飾節の要素であった。「限られる＋モノ」の調査では70例が出現したが、この場合も諸格を伴う用法が多く、単独用法は以下に示す(5)の用例しか現れなかった。また、用例の(6)は格を取った状態の用例である。以下にそれぞれの格を取った場合の用例も示す。

(4) 働ける時間帯が限られる人、体力が衰えてきた人たちの力も集めてやりくりする。
(2013 年 03月12日・朝日新聞)

(5) 「とにかく、自由なのだった。心が解き放たれると、どこまでもこの気持ちは拡大していくようで、限られるもののない雪原での行動は、さらに自由になっていく」
(2011 年 09 月 27 日・朝日新聞)

(6) われわれの通念からいえば、競争は価格、品質、性能など商品の属性に限られるものでなく、企業が全能力を挙げ、その生存をかけて争われるものだ。
(1991 年 04 月 03 日・朝日新聞)

(7) 福祉職への関心はあるが、平日は仕事や学校などで専門学校などに通う機会が限られている人が対象。
(2000 年 06 月 02 日・朝日新聞)

(8) 中田市長は「過去の借金は計画的に清算を進め、限られているものをお互い譲り合い、いかしきっていく」と語気を強めた。
(2003 年 02 月 14 日・朝日新聞)

(9) 放置していると別の会社を名乗る男性から、「限られた人にしか送っていないパンフレットだ。後で買い取るので代わりにダイヤを購入してほしい」と電話があった。
(2013 年 09 月 18 日・朝日新聞)

「限られている＋ヒト」の検索で検出された用例の 12 例すべてが(7)のように「ガ」格を取り、単独用法は現れなかった。「限られている＋モノ」の検索では 16 例が出現し、そのうちで唯一(8)だけが格などを取っていない形容詞らしい用例であった。

また「(ラ) レタ」形の検索では、形容詞的用法が圧倒的に多く、全 880 例の中には何も格を取らず文頭にも単独で現れたものが多かった。(9)は名詞を修飾する用例の一つである。

受身の助辞を伴い、形容詞化する動詞においては自動詞や他動詞との使用も重要であり、形容詞的に用い得る動詞の種類を把握するために自他の区別を明らかにする必要がある。以下に動詞の自他によって 2 つに分けた動詞表を掲載した。

表①では受身形式で典型的な形容詞と同様の役割を発揮する「形容詞的動詞」のカテゴリーに入る他動詞を表示した。表②では自動詞を表示している。そして用例上の諸格の有無により、単独用法が見られる動詞を掲載している。

用例調査では被修飾要素となる「モノゴト・デキゴト」の全てを取り上げると幅が広がってしまうため、今回の検討において対象とする用例は「和語動詞＋受身＋ヒト・モノ」の形式を持つ語や名詞を修飾するものとした。「モノゴト・デキゴト」ではなく「ヒト」や「モノ」に絞って提示する理由としては、コーパス内の検索において主体等を含めず、時制を表す形式「ル・テイル・タ」だけで行った場合には述語文が多く検索されてしまい、連体修飾が検索された場合でも考察の対象にならない諸格が現れたためである。動詞の特徴によって「ヒト」や「モノ」以外の主体との使用が妥当なものも出現し、注②・注③では検索対象としたその他の主体も各々表示する。

表①他動詞²

受動形との使用可能な動詞 「形容詞的用法」	「ラレル」形 (1993年~2013年)	「ラレテイル」形 (1993年~2013年)	「ラレタ」形 (1993年~2013年)
限る	1	2	94*
破る	4	△	2
壊す	2	△	8
隠す	1	4	13
切る	1	1	5
割る	1	△	6*
崩す	1*	△	6
折る	△	△	3*
汚す	△	△	3*
塗る	△	△	3
残す	7	5	45

²△は今回の調査範囲（1993年~2013年）において述語文が多く、単独のままで形容詞らしい用法の用例が見られず、諸格が必要なものを表す。表①における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の名詞を対象とした用例数である。例えば、「限られた予算・割られたガラス・崩される屋上・折られた携帯電話・汚された海・叱られた子・開かれる場所・開かれた場所・建てられた家・乾かされる浴衣・定められた時間・閉められる原発・閉められたシャッター・温められた水・殴られた男性・預けられる場所・預けられた子供・吸われた部分・吐かれる言葉・流される情報・閉ざされている扉・閉ざされた場所・畳まれた着物・蝕まれる地球・蝕まれた体・恵まれた環境・失われる命・奪われる命・奪われた命・憎まれるアメリカ・望まれた子供」などのようなものである。また、表①における様々な色について、薄青色は「(ラ) レル」形、薄緑色は「(ラ) レテイル」形、オレンジ色は「(ラ) レタ」形との共起が多いものを表している。

縛る	8	6	33
絞る	△	△	12
挟る	△	△	15
叱る	2	1	9*
振る	△	△	4
磨く	1	1	6
好く	4	△	2
砕く	3	△	13
開く (ひらく)	3*	1	28*
捨てる	28	4	32
建てる	3	1	11*
育てる	6	1	7
乾かす	1*	△	3
教える	17	△	1
決める	5	△	14
定める	3	1	21*
集める	1	△	8
認める	7	△	10
閉める	1*	2	4*
温める	△	△	2*
苛める	25	55	28
秘める	△	△	6
忘れる	14	3	23
殴る	6	2	24*
預ける	6*	△	4
虐げる	10	7	41
吸う	△	△	2*
流す	8*	2	25
刺す	2	△	12
殺す	11	1	46
閉ざす	△	2*	15*
曇む	△	1	4*
蝕む (むしばむ)	2*	△	3*
盗む	5	△	44
恵む	3	1	83*
置く	1	1	2
書く	4	2	20
飾る	3	△	2

襲う	2	△	4
失う	13*	2	68
狙う	2*	△	4
嫌う	5	1	2
奪う	2*	△	25*
喜ぶ	10	△	6
憎む	1*	△	3
恨む	8	△	△
望む	5	1	2*
楽しむ	3	△	2

表②自動詞³

受動形との使用可能な動詞 「形容詞的用法」	「ラレル」形 (1993年~2013年)	「ラレテイル」形 (1993年~2013年)	「ラレタ」形 (1993年~2013年)
開く（ひらく）（他可）	3*	1	28*
残る	2	△	1
燃える	4	△	1
閉じる（他可）	4	5	10*
集まる	1	△	3
生きる（他可）	7	△	12*
逃げる	5	△	2

以上の表①・表②は「ヒトの行状・状態・感情等を表す機能を持つ動詞」と「モノの状態・性質を表す機能を持つ動詞」に区別し、受動形の場合はどのような動詞の形容詞的用法が最も見られるかを判定した表である。

用例調査範囲は新聞オンライン記事データベース朝日新聞のみである。図表に掲載した動詞は国立国語研究所(1972)において「主体であるモノの状態・性質」、及び「主体であるヒトの状態・感情を発揮する動詞」として掲載されているものから抽出したものに、筆者にとって日常でよく目につき、耳にする形容詞的動詞を加えている。受身の助辞とともに形容詞的な用法が単独のまま可能な表現だけではなく、諸格を取る単独用法が必ずしも見られないものも含めている。本調査において対象とした以外にも考察の対象となる和語動詞（他・自）が更に残されているは

³△は今回の調査範囲（1993年~2013年）において述語文が多く、単独のままで形容詞らしい用法の用例が見られず、諸格が必要なものを表す。また、表②における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の名詞を対象とした用例数である。例えば、「開かれる場所・開かれた場所・閉じられた世界・生きられた時間/空間」などのようなものである。また、表②における様々な色について薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

ずだが、本研究の調査で見出すことが出来た動詞としては表①・表②に掲載した通りである。

形容詞的動詞の特徴を踏まえて考えると、文において連体修飾の働きを担う際に自動詞に伴う能動の「ル・テイル・タ」形で格を必要としない場合と同じであり、他動詞に伴う受動の「(ラ)レル・(ラ)レテイル・(ラ)レタ」形で格が必要ではない動詞が多い。

以上の用例数データにおいて、能動形や受動形に関係なく名詞を形容する際に形容詞らしさを発揮する形式としては「(ラ)レタ」形が最も目立つ。以下には表①における3つの形式の単独用法が出現した「残す」及び「いじめる」の用例を示す。

- (10) 残される人にとっても、最後の時間をどう過ごすかは大切だ。

(2010年10月29日・朝日新聞)

- (11) 調布飛行場周辺にも60基以上の掩体壕があったといわれるが、残されているものは数少ない。

(2012年11月02日・朝日新聞)

- (12) 残された物を身につけることで、母のぬくもりを感じるにちがいない。年をとる楽しみでもある。

(2002年12月10日・朝日新聞)

- (13) いじめられる人の立場に立ち、痛みを考え、助け合おう。

(1996年06月18日・朝日新聞)

- (14) 小学生のとき、いじめられている子を助けてあげることができませんでした。

(2012年11月14日・朝日新聞)

- (15) 「命の大切さ」といった抽象的な言葉ではなく、いじめられた人が成功した話など「生き抜くモデル」を、報道を含め周囲の人たちがもっと提示しなければならない。

(2006年11月13日・朝日新聞)

連体修飾の役割を果たす「残す」に受動形を伴った際、形容詞的な性格を持つ単独用法が多く現れる。但し能動形を伴い、自立した形容詞的な形式の用法がわずかである。用例検索では最も形容詞らしい形式「タ」形の場合でも、諸格が付いている例文は多く、単独用法がかなり少ない。従って、あらゆる動詞の特徴について個々に検討すべきであり、「形容詞的動詞」となる動詞に能動形や受動形を伴うことによって、異なる使用頻度が見られることも興味深いと思われる。

また、形容詞的動詞の特徴を踏まえて考えると、文において連体修飾の働きを担う際に自動詞に伴う「ル・テイル・タ」形には格を必要としない場合と同じで、他動詞に伴う受動の「(ラ)レル・(ラ)レテイル・(ラ)レタ」形にも格が必要ではない動詞が少なくない。ここで、一般に受身文の助動詞「(ラ)レル」がヒトなどの行為主体によって行われる動作を表示する場合、「ニ」基本格及び「によって」が用いられるにも関わらず、受身形の形容詞的用法には必要ではない動詞が存在することも分かる。そして形容詞性が非常に高い「(ラ)レタ」形を伴っても、「ニ」格の存在が必要な動詞もある。以下に挙げる用例(19)は「タ」形だけに限らず、「ル・テイル」形の場合にも「ニ」格とともに使用されることが最も多い動詞を表す。これは動詞による現象であ

り、実際には形容詞的な意味を有しても、固定形式として用いられる表現だと思われる。(20)は徹底的に形容詞的な用法であり、単独のまま文頭において使用される数少ない形式である。以下に様々な用例を挙げる。

(16) 教室ならば黒板の位置にあるスクリーンには、人びとが日常の憂さをつかの間、忘れられる幻影が休みなく映写されている。

(2012年02月04日・朝日新聞)

(17) 忘れられている記録を本人に知らせてはいるが、誰のものか分からない記録も依然として多い。

(2008年06月10日・朝日新聞)

(18) 消えた人、忘れられた人、そういう人たちを古本の中から再評価したいと考えている。

(2005年12月11日・朝日新聞)

(19) 同社などによると、仕事熱心で愛敬があり、顧客に好かれる人柄だった。

(2010年07月17日・朝日新聞)

(20) 好かれる虫もそうでない虫も、多彩な命をひしめかせる。

(2013年08月04日・朝日新聞)

(21) まず先生に好かれている子数人が前に出ます。

(2010年11月13日・朝日新聞)

(22) おばあちゃんから母へ、そして私へ。情が深くてほがらかで働き者。人に好かれた清子おばあちゃんの姿を、私も受け継いでゆきたい、と思っています。

(2000年05月15日・朝日新聞)

また、以上の用例を観察するにおいて表①の動詞を参考にすると、形容詞らしい機能を有し名詞修飾の役割を果たす動詞には同義の他動詞や他の語彙が存在するにもかかわらず、典型的な形容詞のように固定的に使用されるものが存在する。以下では他動詞の「防ぐ（他五）」と「防ぐ」の同義である「遮る（他五）」「妨げる（他下一）」を例に挙げる。

「防ぐ」の場合にはタ形において一、二例しか形容詞的な用法が出現しておらず、(23)がその用例である。また、多くは「ニ」格を取るものであった。「遮られた」の場合(24)(25)(26)のような文頭における単独用法が多かったが、受動形であるにもかかわらず「ニ」格と同じく「ガ」格も多く見られた。「妨げられた」の検索結果では出現した223例文の一つのみが単独のままでの形容詞的用法であった。その一例以外のものは連体修飾節の要素か述語文であり、諸格と関係していたものであった。

(23) 前日には地中海沿いの大都市テルアビブで、飲食店に置き去りにされた爆発物が見つかり、爆発が未然に防がれた事件があった。

(2001年03月02日・朝日新聞)

(24) 遮られた光線は、煙の輪郭を生物のように浮かび上がらせた。

(2010年01月06日・朝日新聞)

(25) 100メートルを超すコンクリートの壁の底の方で水門が閉まり、遮られた奥多摩川の流れが泡をたてながら、みるみる大きな水の固まりになっていく。

(2001年04月26日・朝日新聞)

(26) 「遮られた非常口—あるツッパリたちの記録」などの著書がある。

(1994年09月09日・朝日新聞)

(27) 鬼ヶ島のジャンヌ・ダルク風ヒロイン役の中田裕子は「純粹に生きることを不条理に妨げられた人間が何を考え、どう立ち向かうかを、感情の小さな変化を丁寧に重ねて演じたい」

(2004年03月10日・朝日新聞)

3.1.2 「副次形容詞的動詞（他）」の能動形との使用状況・主名詞との関係

以上を踏まえたうえで、表①における「隠す」についてその3つの形式に注目すると、受動形との使用の際には用例からは「タ」形が最も形容詞らしさを発揮する形式であると考えられるが、能動形の場合は「ル」形にも自立した形容詞的用法が現れた。「隠すもの」(1993年~2013年)の検索では、出現した107件の用例中、18件が形態的に基本形容詞と同様の使いかたであったが、意味的にいずれにしても、前の文との意味関係が消えない。修飾語の直前に主語が用いられなくても意味解釈という観点から考えると主語の存在感を感じられるため、形容詞的な用法とは言えない。ここで、名詞修飾する用法だと認められる際、主体と形容詞的動詞の場所をひっくり返すのが可能か否かによって判断を付ける。例えば「山が高い」のような文章の場合、名詞の前に形容詞を移動させて「高い山」のような形に変更させ、意味的にも名詞を修飾する役割の語句に成れるのであれば、形容詞的用法とは言える。以上の観点を踏まえると(28)において「隠すもの」を「ものを隠す」に変えた場合、「ヲ」格の使用によって動詞述語文になっており、名詞の状態や性質を表す機能がなくなる。故にどれくらい単独用法で現れても形容詞的動詞用法とは言い難い。

「隠しているもの」の場合は20件の中、8例が単独用法で現れ、隠された主語に関する同じ現象はまた(29)の場合も同様である。全体で41例が出現した「隠したもの」の検索では形容詞的な用法で現れたものは2例のみであり、発話者の台詞であるため主語は自動的に「私」になり、また意味の面からこの用法のまま形容詞的動詞にはならない。以下の様々な例文で確認できる。

(28) たとえばポーカーをするとき、手の内を最初から見せることはないですよ。 隠すものもあるわけで、それが相手を驚かせる。

(2012年02月27日・朝日新聞)

(29) もし結婚を考えている場合は、相手の趣味や性癖を生理的に受け付けられなくて破局することもあるので、早めに知っておくにこしたことはありません。ただ、隠しているものを

無理やり探るのはNG。

(2012年10月19日・朝日新聞)

(30) 宮西さんは「途中から議事録をだんだん簡略化して、ばかにしている。隠したものがないか、追及したい」と話した。

(2001年06月08日・朝日新聞)

以上の点を考えると、動詞によって形容詞的な用法の傾向が異なり、和語動詞の他動詞に伴う形式として受動形が第一に選択されていると言える。それに対して、他動詞の中には受動形を共起するうえ、能動形の「ル・テイル・タ」形を伴うことも可能であり、両方の場合も形容詞性を発揮する「磨く」のような動詞も存在している。⁴例えば「ル」形の「磨く＋主体」の検索では27例単独用法で現れ、意味的にも形容詞的であった。「磨いている＋主体」形式は4例出現し、「タ」形の「磨いた＋主体」用例も68件形容詞的な用法で現れた。表①における受動形を伴った用例数は3つの形式を踏まえると僅かであり、受動形との共起や使用頻度は非常に低いということが明らかである。

また、以上の用例観察において表①の動詞を参考にすると、形容詞らしい機能を有し名詞修飾の役割を果たす感情動詞には他の形式より「ル」形の方が多く用いられることも分かった。「タ」形の形容詞的な用法が1例であっても必ず現れたにも関わらず、感情動詞の「恨む」の用例検索では「ル」形以外の用法が見当たらなかった。以下にはその形容詞的用法の例文を示す。

(31) 「物資や義援金などもらってばかりでは申し訳ない。少しでも手を動かして喜ばれるものを作りたい」。

(2011年10月22日・朝日新聞)

(32) もらってうれしかったもの、あげて喜ばれたものなど、体験からのアドバイスが目立ちました。

(2003年04月25日・朝日新聞)

(33) 「大きな会社の跡取り息子なのに、身なりも質素でえらぶところがなく、恨まれる人間じゃなかった」と話す。

(2003年04月21日・朝日新聞)

一方、他動詞と比べて非常に少ないが、自動詞であっても受身形との使用が可能な動詞も存在しており、それらは形容詞的な用法において単独表現として用いられる。表②における「閉じる」の用例検索では3つの形式で自立した形容詞らしい用法の例文を以下に挙げる。

(34) 百景展をバネに、次の目標は「言葉を抑え、見る人のそれまでの人生経験（年齢、生き

⁴ 「ル」形 a. その多賀氏は19日、新潟市内であった集会で「新潟はダイヤモンドの原石。磨く仕事を私がやれるなら、やらせてほしい」と、強い意欲を改めて語った。

(2004年08月20日・朝日新聞)

「テイル」形 b. 小さな会場で磨いている腕を大舞台でいかに発揮できるか、注目だ。

(2010年04月22日・朝日新聞)

「タ」形 c. 磨いた石を使ったイヤリングなどのアクセサリーもある。

(2011年09月16日・朝日新聞)

様)で感じてもらい、閉じられる絵本を作りたい」。

(2006年11月14日・朝日新聞)

(35) 禁足地として、閉じられている三ツ鳥居の扉はこの祭りの時だけ開かれる。

(1994年01月22日・朝日新聞)

(36) 警察の広報担当者の説明によると、ファンが無料のチケットを求めて、閉じられたゲートに殺到。

(2010年06月07日・朝日新聞)

最後に、「(ラ)レル」形に関して、可能の意味を表す役割もあるため、文脈の中では使用による解釈が変わる場合もあり得るという点について述べる。例えば「切られる」「捨てられる」などを対象として検索すると、以下の(37)(38)に示すような用例では主体を修飾しているが、意味の面では可能を表す用法として用いられているのではないかと推測される。

(37) 市公園街路課は「移植地がないと、切られるクスノキがあるかもしれない。貴重な歴史遺産でもあり、1本でも多く残したいのだが」と話している。

(2005年02月25日・朝日新聞)

(38) 今日では1本100円の傘もある。傘はどこにでも置き忘れられ、捨てられるものになった。

(2003年07月01日・朝日新聞)

(39) 今日では1本100円の傘もある。傘はどこにでも置き忘れられ、捨てるものになった。

(同上)

「(ラ)レル」形と比べて、「他動詞+テイル」形の用例もわずかであり、その上わずかに現れる例のうち文末のものでは述語になる形式が多数を占める。以上の表①-②から分かるように形容詞的な用法において最も使用されにくい形式が「テイル」形であり、能動形の場合も受動形の場合も十分に形容詞的な機能を果たすとは言えない。「ル」の様子は「テイル」形より使用勝手がよさそうだが、受身形と接続がある際に格を取る可能性と可能の意味を担う可能性があるため、文脈自体を分析しないと形容詞的な用法か否かが分かりづらいという使用上の難点がある。この点から考えると、(37)(38)のような用例において形容詞的な意味かどうかは曖昧であるため、受身形を伴う他動詞より能動形を伴う自動詞の選択も可能であり、むしろもっと妥当ではないだろうかと思われる。(39)は能動形の自動詞に入れ替えた用例であり、形容詞的用法に最も相応しいと考えられる。

3.2 「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の比較

表①及び表②に行った検討に基づいて評価すると、受身形で表された場合でも形容詞らしい使用が多い「タ」形への使用の偏りが著しい。そして、「ル」形と「テイル」形の比較では「ル」形の方が形容詞的な機能を果たしていることが用例にはっきり見られる。用例には他動詞に

「(ラ) レテイル」形の形容詞的な用法が多少見られるが、自動詞の場合はかなり少ない。

また、表①・表②に示した動詞の検索を実施する場合、特に「(ラ) レル」「(ラ) レテイル」受身形欄において「△」マークが付いている動詞は形容詞的な機能が弱いと言って良いだろう。語彙的な視点から考えれば、そのような動詞においては他動詞より自動詞が優先されて使用されているのであり、日本語使用者にとってその使い方は主体を修飾する表現として最も妥当だと考えられていると推測される。

最後に、一般に受身形の助詞「(ラ) レル」が人などの行為主体によって行われる動作を表示する場合、「ニ」基本格及び「によって」が用いられるにも関わらず、受身形の形容詞的用法には必要ではない動詞が存在することも分かった。感情動詞の「恨む」のように、形容詞性が非常に高い「(ラ) レタ」形を伴っても、「ニ」格の存在が必要な動詞もある。これは動詞による現象であり、実際には形容詞的な意味を有し、日本語で固定形式として用いられる表現でない并使用がなかなか見られないものである。

結局、自他との使用も踏まえて比較すると、意味的にも形態的にも形容詞らしい立場は「タ」形が他の形式より優先的にされており、形容詞的動詞に対する影響が非常に大きいと思われる。

第一章から得られた結果において能動形（自動詞）の場合、状態を帯びる意味の動詞・状態変化動詞・主体変化動詞・感情動詞・瞬間動作動詞の多くはより形容詞的動詞になりやすいが、それに反して受動形（他動詞）の場合は形容詞らしい用法で動作動詞の現れが興味深い点である。

4. おわりに

本章では、名詞修飾における受動の「(ラ) レル・(ラ) レテイル・(ラ) レタ」形と他動詞及び自動詞の使用可否について考察し、形容詞的用法が出現する表現について使用される文脈の観点から注目した。それに関連して動詞表を整理し、受身形式でありながら形容詞らしい特徴を発揮する要素の使用頻度に関して研究を行った。また、用例数という視点から形容詞的な用法への偏り状況も検討した。

前節から、動詞らしさを失い名詞を形容する自動詞は他動詞より形容詞的性格を持つことが明らかだが、受身助辞に伴って使用される他動詞も形容詞的性格を反映する場合があることが分かった。そして、受身助辞とともに用いられる時制語尾の中で、「タ」形が最も形容詞的な機能を持ち、その役割が転換しなかったことが明らかである。

他に注目される点は自動詞のまま「ル・テイル・タ」形を伴って形容詞的用法として用いられるものには「他動詞＋受身＋名詞」形式があまり発達してないことである。例えば、「変わる」は体言に前置するだけで物事及び人物の性状を表示することができる。「変わる季節」「変わっている世界」「変わった人柄」などは自立した形であり、連体修飾要素としてよく用いられる。ただし、他動詞の「変える」に受身助辞を加えても、なかなか自動詞では果たされる役目を果たさず、文脈自体も可能を指示する「られる」形の意味で解釈される可能性が高い。これは3つの形式に大体同じように見られ、既にほぼ同義で、かつ同様に形容詞的用法として用いられやすい自動詞の存在があるために、他の他動詞＋受身形式と比較して単独用法があまり発展してなかったのだろうと推測される。

また、調査に基づいた結果から感情動詞は「タ」形でなく「ル」形を伴うことでより形容詞性を持ち、固定化する形容詞的動詞カテゴリーに入っている動詞類だと言える。

第三章

「漢語形容詞」の諸用法 - 連体修飾の「テイル」「タ」「ナ」「ノ」形式を中心に -

1. はじめに

現代日本語には「結婚している女性」「安定した椅子」などのように複合サ変動詞を形成し、文中で「ヲ」「ニ」「デ」「ガ」などの諸格を取らず単独のままで名詞を形容するものが存在している。複合サ変動詞形式以外では、形容動詞の「ナ」と連体の「ノ」も同じく連体修飾に用いられる要素であり、名詞の状態・性質などを表す場合修飾語に必要なものである。

本章では、このように形容詞性を持ち、連体修飾の機能を担う「漢語形容詞¹」に付加する「テイル・タ」形と連体の「ナ・ノ」形の比較を行い、諸形式の中でどちらの形態が優位に用いられ、形容詞的な用法で用いられる傾向がどのように見られるかを考察する。また、形容詞的用法として使用可能な漢語形容詞を分析し、それぞれの使用実態をまとめた図表を作成する。

これまでの研究では、現代日本語において体言を修飾する場合の「形容詞的動詞」を取り扱い、その中で時制の標識となる役割を担わず形容詞的な特徴を持つ「和語動詞（自）＋ル・テイル・タ」「和語動詞（他）＋ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の用法を中心に検討されてきた。漢語＋スル＋名詞形式の際、「ル」形は未来に行われる動作の意味関係から解放しない可能性が高いため、今回の研究において表作成では対象とする形式や形容詞的な用法範囲として「テイル・タ」形のみ含めている。だが、漢語形容詞によって未来を表さない、むしろ「テイル」形や「タ」形の形容詞的な用法より「ル」形を伴うことで形容詞化への傾向が見られるものが存在している。（下記の(8)を参照）

「形容詞的動詞」用法に関する先行研究において多くの論文や文献は和語動詞の用法を対象としており、「漢語形容詞＋名詞」の分析研究はなされていない。故に、本章では連体修飾に「ヲ・ニ・デ・ガ」など諸格を伴わず、基本形容詞と同様に単独のまま主にヒトの行状・性質・感情やモノゴト・デキゴトの状態・性質などを表し、動きを表さない用法を指す「漢語形容詞」を取り上げる。そして、形容詞的な性格を持つ「尖る・痩せる・違う」などのような和語動詞の分析は多く行われているが、「固定する・苦勞する・共通する」などのような漢語サ変動詞の形容詞らしさに関する研究は少ないため、その点について考察を試みる。

以下に、文中において単独用法で用いられ、典型的な形容詞の振る舞いをする、「漢語形容詞＋名詞」形式について具体例を示す。

- (1) 若いときに粋がって遊び心で入れてしまい、後悔している人が多い。

(2012 年 06 月 09 日・朝日新聞)

- (2) オリーブオイルは肺にこもった熱を取り、乾燥した肌を潤す働きがあるという。

(2009 年 01 月 24 日・朝日新聞)

また、この漢語形容詞＋名詞形式には形容詞的な和語動詞から構成されるものとは異なり、漢語と

¹ 本章では典型的な形容詞の働きを担い、漢語形容詞＋名詞形式で連体修飾する性格を持つものを「漢語形容詞」と呼ぶことにする。

形容動詞の「ナ」や連体の「ノ」を伴うことで形容詞的に使用することが可能なものも存在する。

- (3) a. 値下げを求める圧力は昨年からあった。だが十月には、先方の幹部から「来年もよろしく」といわれ、安心している矢先だった。

(1999年03月11日・朝日新聞)

- b. 「国に求めるのは、世界で何をしてくれるかということ。安心した生活を保障してくれる政党に投票したい」

(2009年08月30日・朝日新聞)

- c. 「やさしい時代だから、安心な人が求められるんでしょうかね」

(2011年09月24日・朝日新聞)

- d. 安心の子育て、安心の年金、安心の農業をはじめ、民主党は中小企業を元気にし、行政の無駄遣いを徹底的に見直していく。

(2007年07月29日・朝日新聞)

ただし、全ての漢語形容詞と「ナ」形と「ノ」形が一致するわけではない。

- (4) 成功している {した・??な・??の} ²人は、若い時に何か他の人と違う経験をしているように思う。

(2003年02月11日・朝日新聞)

以上において名詞を形容する際、漢語＋サ変動詞や漢語形容詞の諸用が見られる。本章ではどのような漢語サ変動詞＋「シテイル・シタ」形は形容詞性を表すことができるか、またどのような漢語サ変動詞には「ナ・ノ」を伴うことができないのかを、実際の用例を通して、形容詞的な用法としての使用頻度や選択される確率といった観点から考察を試みる。

用例出典としてはコーパスを用いる。現代日本語を取り扱ったコーパスの中から、朝日新聞オンライン記事データベース(1984年～2013年)とCD-ROM版新潮文庫の100冊の用例を調査対象として取り扱う。

2. 考察

2.1 「漢語＋シテイル・シタ」形式の持つ形容詞的用法

2.1.1 「漢語形容詞」A グループ

連体修飾には「和語動詞＋テイル・タ＋名詞」と同様に動詞らしさを失い、形容詞的用法とされる「漢語＋シテイル・シタ＋名詞」形式もよく用いられる。それらはテンス表示と無関係に形容詞的な解釈ができる、基本形容詞の役割を果たすものであり、また、ヒトの行状・性質・感情とモノゴト・デキゴトの状態・性質などを表す形式でもある。本章では修飾の対象となる名詞をヒト・モノに限定

² ??は使用確率や使用頻度が低いことを示す。??は表現的に許容しにくいことを示す。

し、他に主体となる要素・名詞を対象外とする。ただし、表④の用例調査では一部他の主体を名詞対象とした。

「漢語形容詞」の形容詞的な用法は文脈に現れる意味的な特徴にはもちろん、形態的な特徴にも関わっている。また、連体修飾において形容詞であるかどうかは諸格を取るか否かによって決定される。

「漢語+シテイル・シタ+名詞」は一般的な「漢語+スル+名詞」形式と働きが類似しており、名詞を形容する際の構成要素となる複合サ変動詞である。例えば、「故障する」を用例数という観点から見ると、単独用法の場合は名詞と共に用いられる傾向が高いと思われる。以下にそれぞれの例文を挙げる。

(5) ブラジルのスター選手、ロナウド（インテル・ミラノ）の広報担当は5日、足を故障している同選手が24日のイタリア1部リーグの対ローマ戦での復帰に向けて、今週末から練習を再開すると述べた。

（2002年03月07日・朝日新聞）

(6) けがで故障している選手が多く、そのカバーが課題だ。

（2012年06月23日・朝日新聞）

(7) 故障している選手が多かったし、期末試験中と、いろいろな要素が重なっていた。

（1988年07月31日・朝日新聞）

(5)では、「故障している」が名詞の前に置かれ、「選手」が今いる状態を表す。しかし、形態的には単独のままの形容詞的用法ではなく、連体修飾節に「ヲ」格で繋がっている状態である。「足を故障している同選手」の場合はいずれにしても「ヲ」格の必要性が生じるため、(5)の場合「故障している」は完全に「形容詞的動詞」用法で現れると言い難い。(6)も「デ」格と関係があるため、同様のカテゴリーに入る。用例数を基準とした新聞記事検索では、「漢語+シテイル」形が全体で9件検出され、格を取る(5)(6)以外の用例の全てが名詞の直前に置かれた形容詞的な用法であった。(7)はその用例の一つである。

筆者は以上のような漢語を、形容詞的な性格を有することから「漢語形容詞」と呼ぶことにする。但し、全ての漢語+サ変動詞形式が漢語形容詞になるわけではないため、形容詞的な用法が見られる漢語を以下にグループに分ける。

まず、表①に示したAグループでは「故障する」と同様に属性を持つ格を取らず、単独用法が見られる漢語形容詞の「シテイル・シタ」形との使用可否について分類している。表①に掲載するものは形容動詞の「ナ+ヒト・モノ」形式を取ることができず、連体の「ノ」との使用が可能な漢語である。

以下でそれぞれの図表に示した漢語は、朝日新聞の例文において、ヒトやモノを修飾する形容詞的な性格を持つことが示されたものである。

表①Aグループ³

³ 表①の調査範囲はヒトの特徴を表示する漢語形容詞である場合には「～シテイル人・～シタ人」、モノの特徴を表示する漢語形容詞である場合には「～シテイルもの・～シタもの」を記入して行った検査であり、概ね文頭若しくは文中に単独のまま使用されるものを基準として取り出した場合の用例数

漢語＋サ変動詞 形容詞的用法	「テイル」形 (1984～2013)	「タ」形 (1984～2013)
固定する	2	10
故障する	1	4
乾燥する	2	32
納得する	4	11
曲折する ⁴	×	16
自立する	8	75
類似する	1	9
努力する	38	53
我慢する	24	5
自慢する	2	1
精通する	1	5
充実する	4	88 ⁵
苦勞する	44	48
妊娠する	31	21

以上に挙げた表から、「自慢」においては他の漢語形容詞とは使用状況が異なっており、「テイル」形や「タ」形との使用頻度が低いことが分かる。それに対して、「自慢＋スル＋ヒト」形式の用例は「シテイル・シタ」形を伴う形式の用例より圧倒的に多く、形容詞性を持つ語句として使われやすい。合計で19例が出現し、以下に具体的な用例を表示する。

(8) 彼氏の愚痴をこぼす学生や、他店で買ってきた服を並べて自慢する人も。

(2004年02月17日・朝日新聞)

2.1.2 「漢語形容詞」Bグループ

続いて、表②においてBグループとした「漢語形容詞」の形式に関して述べる。

表②Bグループ

漢語＋サ変動詞 形容詞的用法	「テイル」形 (1984～2013)	「タ」形 (1984～2013)
結婚する	29	31

を示している。×は使用が不可能なものを表す。また表①、表②、表③における様々な色について、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

⁴「曲折する」の検索ではモノを示す名詞との使用は見られなかったが、次の例文に示すように対象名詞との使用が見られた。双方の葬送儀礼、身体観、生死観の差異を探りながら、曲折した心情の風土を浮き彫りにする傑作。

(2004年09月12日・朝日新聞)

⁵「充実した＋名詞」の検索では「充実した人生」が多く出現したため、表②において表示した用例数は「充実した人生」の場合である。

離婚する	1	33
後悔する	12	3
混乱する	2	7
結合する	×	4
失望する	1	12
成功する	20	53
失敗する	3	47
失業する	13	65
決心する	3	7
困惑する	8	1
嫉妬する	1	×
悲嘆する	1	2
感動する	2	11
興奮する	2	8
困窮する	28	14
破損する	1	5
死亡する	10	57
遅刻する	1	7
完備する	1	6
絶望する	20	15
婚約する ⁶	4	5

以上に示した表②Bグループは連体の「ナ」や「ノ」との使用が不可能な漢語形容詞を表す。また、修飾の対象名詞がヒトやモノであり、「テイル」形や「タ」形がより形容詞的な用法に相応しい漢語を示した図表である。

表②において「タ」形との形容詞的な用法が見られない「嫉妬する」を例に取り上げると、調査結果としては「テイル」形も非常に少なく、「ナ・ノ」とは完全に用いられない。

その一方で、「嫉妬する」のシク活用形容詞であり同じ意味を持つ「妬ましい」と入れ替えると「妬ましい」が解釈的に当てはまらない場合もある。

(9) この比較をすることで、{嫉妬している・?? 妬ましい} 人が持っているものを私は手にすることが出来ないという諦めや無価値観を感じる訳です。⁷

⁶朝日新聞オンライン記事データベース検索では連体修飾要素を作る「テイル・タ・ナ・ノ」よりも用例数が優れた語として「婚約者」が出現した。全体で2053件が検出されており、修飾される対象がヒトである場合は「漢語＋者」形式の使用傾向もかなり高いと思われる。

⁷ <http://www.counselingservice.jp/lecture/lec513.html> ウェブページからの例文である。用例出典として新聞オンライン記事データベースや新潮文庫の100冊CD-ROM版の用例を検査対象としたが、「嫉妬している・嫉妬した＋名詞」の形式は単独のまま殆ど現れなかった。(9)の例文はインターネット検索を利用して見つけたものである。

以上を考慮して「妬ましい」以外の形容詞的な用法を検索すると「嫉妬する＋ヒト」の形式はかなり多く、「テイル」形よりも「ル」形が選択される頻度が高いと思われる。基本的には「ル」形が未来の意味を反映している形式だと考えられるが、(10)においては連体修飾する時制と無関係であり、形容詞的な用法で現れる固定した形態である。

(10) 確かに、嫉妬する人間を非難してばかりでは、状況は変わらないだろう。

(2003年06月23日・朝日新聞)

ここで形態論や意味論の視点からみると「ル」形も「テイル・タ」形と同様に動詞を形容詞化する際に、形容詞の振る舞いをする場合があるということが分かる。形容詞性を有する漢語にもよるが、漢語＋「スル」形式も形容詞的な用法が見られる修飾語であると言えるだろう。

また、「嫉妬」という漢語に関しては、「嫉妬深い＋名詞」の固定した形も見られ、ヒトの性質を表す場合によく用いられる。

(11) 嫉妬深い男だったら、彼女が猫を片手に、部屋の中をあちこちとびまわりながら、もう一方の手で、(下略)

(カポーティ『ティファニーで朝食を』新潮文庫)

「困窮している＋名詞」では二格やデ格と共に使用される例が圧倒的に多く、全体で90例が検出された。形容詞的な用法も存在しており「テイル」形と「タ」形の比較ではテイル形の方が単独用法として最も多かった。また、表④にも表示されるように形容動詞という品詞に入っていないため、「ナ・ノ＋名詞」形式が存在しない。

(12) かつて中間層にあって、今は生活に困窮している人たちも増加しています。

(2011年09月14日・朝日新聞)

(13) 吹くのは1日限りだが、余ったお金は事故で困窮している人たちに寄付するという。

(2010年07月07日・朝日新聞)

(14) 困窮している人は、すでに親族とのあつれきを抱えている場合が多い。

(2012年06月03日・朝日新聞)

(15) 困窮した人々に食物を与えるだけでは十分でない。我々が膨大な数の人々に、いつまでも食料を与え続けられるわけがない。

(1993年04月18日・朝日新聞)

2.1.3 「漢語形容詞」Cグループ

次のCグループに属している漢語＋サ変動詞は数が最も少ない「漢語形容詞」グループだが、「シテイル・シタ」形と「ナ・ノ」を伴うことでより形容詞的な振る舞いをする群れだと言える。

表③Cグループ

漢語＋サ変動詞 形容詞的用法	「テイル」形 (1984～2013)	「タ」形 (1984～2013)
満足する	25	5
独立する	3	25
安定する	5	32
心配する	30	10
安心する	7	5
共通する	21	23
乱暴する	1	2

Cグループの「漢語形容詞」は連体修飾の場合に4つの条件が当てはまる要素である。以下では全ての形式が見られた「心配」を取り扱う。

(16) 自分の体や子孫にどんな影響が出るか心配している人たちにとって、被爆地の情報はとても意義がある。
(2004年11月19日・朝日新聞)

(17) 心配した母は政夫を早めに中学に行かせる。
(2006年10月28日・朝日新聞)

(18) 症候群にかかっているかどうか、心配な女性読者の方は、まず、診断テストをやっていただきたい。
(1986年03月15日・朝日新聞)

(19) 神戸市などから戻って7日以内に38度以上の発熱やのどの痛みなどの症状があつて心配の人は、同センターに電話するよう呼びかけている。
(2009年05月17日・朝日新聞)

「心配」と関係がある用例について数を比較すると、連体修飾の役割を果たす場合の「心配している」が135件、「心配した」が43件現れた。一般に、形容詞性を有する場合は「タ」形の方が多く見られるにもかかわらず、漢語の意味や解釈的な特徴によって形容詞的な要素の使用頻度が変わってくることが分かる。「心配な」「心配の」＋名詞形式は非常に少なく、それに伴って形容詞として選択される頻度も低下しているのではないだろうか。

本章では対象外にしたが、連体修飾の際には漢語と共に「スル」形もよく用いられる形態であった。形容詞性を最も有し動詞に付くことで形容詞化を促す機能が著しい「タ」形と、「スル」形の比較を検討する必要もあると思われる。

一方、サ変動詞が付加された形で述語としてもよく用いられる「退屈」「不足」などのような異なった用法を持つ漢語の場合は、単独のまま「シテイル・シタ・ナ」との使用が可能だが、「退屈＋ノ＋ヒト・モノ」「不足＋ノ＋ヒト・モノ」形式としての用例は見られない。例えば、⁸朝日新聞データベース

⁸ さらに「不足」と同様な性質を持っている「邪魔・失礼」などのような漢語には別の特徴も見られる。それは、「邪魔・失礼」が漢語サ変動詞形式のまま連体修飾に用いられる際、形容詞的な用法は不可能だという特徴である。つまり、名詞修飾の場合は「ナ」のみの共起が可能で、「テイル」「タ」「ノ」と

の検索では「不足」の直前に「運動・睡眠・栄養・取材」などのような補助となる単語が付いており、名詞修飾の場合には他の語の必要性がはっきりと現れる。

(20) この場合、同時に読み上げられる記事も新味がないか取材不足のものと相場は決まっている。

(2000年05月12日・朝日新聞)

(21) 貧困から野菜の摂取量が減り、栄養不足の人もいる。

(2013年01月16日・朝日新聞)

また、主体を修飾する際「テイル・タ」形との使用は不可能であり、「ナ」と「ノ」との使用のみは見られる形容詞的な漢語が存在する。例えば、連体修飾の機能を果たす形で「同様な・同様の＋名詞」の用法がある。但し、「同様している・同様した＋名詞」の形式、述語文である「～は・が同様している・同様した」形式で用いることは不可能である。以下に例を示す。

(22) 同様 {の/な} やり方

(加藤2003p.98)

(23) {? ?同様している・? ?同様した} やり方

以上のような「同様」と同じ特徴を有する漢語がいくつか⁹あり、それらの成立・特徴を分析すると、次の2点が挙げられる。

①名詞と形容動詞の形が存在し、サ変動詞形式が存在しない形容詞的な漢語。

②漢語自体が動詞を含まず、そのため「シテイル・シタ」を付加することが出来ない。

それに対して、形容動詞の形があるにもかかわらず連体修飾の「ノ」での使用がなく、漢語の構成において一字が動詞であるにもかかわらず形容詞的な「シテイル」や「シタ」形と共に使用することが不可能なものもある。例えば、ヒトの状態・性質を表す場合に用いられる「敏感な」「優秀な」などのような形容動詞は「敏感している・敏感した・敏感の＋名詞」「優秀している・優秀した・優秀の＋名詞」の形では現れない。

(24) — 「おっかさん、どうしたの。」

敏感な {? ?敏感している/? ?敏感した/? ?敏感の} 少年に、母おやの顔いろが読めないはずはなかった。

(山本有三『路傍の石』新潮文庫)

(25) 若く活動的で、優秀な {? ?優秀している/? ?優秀した/? ?優秀の} 人物が集るのだった。

(星新一『人民は弱し官吏は強し』新潮文庫)

の共起が不可能になる。「不足」の場合、例えば「不足しているもの・不足したもの」といった単独用法が用いられるが、「失礼している人・邪魔した人」などのような単独用例が見当たらない。下記の(24)(25)を参照。

⁹ (22)の「同様」と似ている特徴を持つ漢語として「孤独・安全・正直・小柄・過重」などが挙げられる。

ここまでの内容では、連体修飾には漢語形容詞の仕組みを持つものが様々な特徴を持って現れ、漢語による成立条件を有するものが多くあるということが分かった。それぞれの表における漢語サ変動詞の性質を分析し、形容詞的な用法の有無に基づくテストを実施した。

2.2 形容動詞の「漢語＋ナ」と連体の「漢語＋ノ」形態・形容詞的用法

名詞を修飾する際の「ナ」と「ノ」の使い分けは盛んな研究課題であり、「ナ」と「ノ」の選択を考察対象とする先行研究が多い。ここで形容動詞の「ナ」や連体修飾要素となる「ノ」の前部に置かれる漢語とその漢語との形容詞的な関係や様々な性質に注目し、形容詞的な意味を持つ単語を考察してみたい。

以下の表④にみられるように名詞を形容する際に「ナ」と「ノ」が両方とも用いられるパターンは少なく、特に漢語の場合は修飾要素「ノ」の使用傾向が高いと思われる。

この「ナ」と「ノ」に関して、加藤(2003)では形容動詞という品詞を独立して立てることをせずに名詞に組み入れた理由とされ、連体修飾形態として2つ以上の形態を有する場合について次のように主張されている。

それぞれの語や形態素がこれらのうちのいずれか一つの連体修飾形態しかもたないというわけではない。いずれか一つの場合もあるが、複数の形態を重複して有する場合もある。そして、その複数の形態を有する場合でも、それらの間にほとんど意味の差がない場合もあれば、意味用法が異なる場合もある。たとえば、「共通の課題」「共通な課題」「共通した課題」は、かなり意味が近いが、「ちょっとしたプレゼント」「ちょっとのプレゼント」では意味が明らかに異なっている。

(p.20)

表④における漢語に基づく連体修飾において名詞を形容する機能で用いられる形容動詞「ナ」形と連体の「ノ」形を比較すると、「ノ＋名詞」の単独形式が圧倒的に多いことが明らかである。表④はもともと名詞を由来としているが、形容動詞として現れるものも基準とし、行った比較である。

表④で対象とした漢語においては、「ナ」との使用は可能だが「ノ」との使用は不可能なものは「不足・感心・失礼・邪魔・退屈・敏感・優秀」¹⁰くらいであった。このことは、修飾語である漢語の語彙論的な特徴や文中における解釈的な特徴に依拠しており、漢語そのものが品詞として持っている属性にも関わる現象だと考えられる。品詞性という観点からみると、形容動詞の漢語はほとんど名詞としても用いられるものであり、サ変動詞を伴う可能性もあるものである。

スワン彰子(1994)では、以上の点について様々な辞典に基づいて形容動詞「ナ」/「ノ」の扱いと連体修飾用法に関して分析されている。外来語、和語・漢語分析では「ナ」と「ノ」の使い分けがはっきりとされ、和・漢語の場合には、名詞の中に形容動詞の機能が認められ、形容動詞として「ノ」「ナ」

¹⁰ 明鏡国語辞典では「不足」も他の漢語と同様に「名詞・形容動詞・自サ変」として様々な品詞に分けられているが、意味の面では少し異なる使い方するため、「名詞＋不足＋名詞」の形式が派生したのではないと思われる。「感心」は一般的に「感心があるもの」「感心のあるもの」のような固定した形式で用いられるが、直接に名詞の前に置かれる用法はない。

の扱いの違うものが605語のうちで432あると主張されている。

(26) 孤独な人・孤独の人 (スワン1994p.245)

(27) 孤独な生活・？孤独の生活（形容詞的な意味で）

(28) 孤独生活

修飾される名詞がヒトである場合、(26)では一般的に「ナ」と「ノ」の両者が連体修飾用法として有効である。但し、名詞となるものがヒト以外の現象である際には「ナ」と「ノ」の選択が異なる場合もある。(27)では形容動詞の「ナ」が形容詞的な用法を果たす機能に当てはまるが、「ノ」の場合は所有、所属を表わす「格助詞」の解釈もあり得るため、選択頻度が低いと考えられる。以上から分かるように、「ナ」と「ノ」の使い分けには解釈的な特徴が関わっており、文中に用いられる単語による事情があるということではないだろうか。

一方、(28)における用例のような使用も不可能ではない。インターネットにおける文章を元にした検索では、この単独用法も多少現れた。

(29) 真の孤独生活というのは、到底人間にはできないことだ。

(萩原朔太郎『僕の孤独癖について』)

以上の現象は、語彙的な問題として考えなければならないことであるが、その一つ一つの現象は必ずしもその単語にのみ見られるものでもない。辞書において「名詞」と「形容動詞」として名付けられた漢語全てを含む事情であり、「ナ」と「ノ」を伴うことが一般にあり得るため、「サ変動詞」との使用が見られない語も一つのグループとする必要があると思われる。本章では別のグループに分けないが、表④の一番下に数少ないこのタイプのものをまとめて記載する。

さらに、明鏡国語辞典(2003)では、たとえば「普通」という漢語が「名詞と形容動詞」の両方に位置付けられているが、「普通＋ノ＋名詞」形式が存在するのに対して「普通＋ナ＋名詞」形式は存在しない。しかし、合成語の用法に注目すると、(31)のような「普通＋名詞」形も多く用いられる基本的な文句や用語である。このカテゴリーに入る漢語に関しても研究する必要があると考えられる。

(30) 彼は普通の {??な} 俳優ではない。

(31) 普通列車

表④¹¹

漢語形容詞	形容動詞「ナ」	「ノ」＋ヒト・モノ
-------	---------	-----------

¹¹ 表④における*印が付いている数字は漢語形容詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の主名詞を対象とした用例数である。例えば、「固定のファン・安定の仕組み・充実の毎日・曲折の道・不足な点・乱暴の犯意」などが挙げられる。×は使用が不可能なものを表す。また、表④における様々な色について、薄ピンク色は「ナ」、薄緑色は「ノ」との共起が多く、修飾語としての使用が可能であるものを表している。

形容詞的用法	(1984～2013)	(1984～2013)
結婚	×	×
離婚	×	×
満足	11	6
後悔	×	×
独立	2	16
自立	×	7
固定	×	13*
安定	4	7*
故障	×	×
乾燥	×	×
混乱	×	×
心配	67	2
安心	13	3
結合	×	×
納得	×	4
精通	×	2
充実	×	10*
失望	×	×
成功	×	×
失敗	×	×
決心	×	×
曲折	×	13*
類似	×	32
努力	×	61
嫉妬	×	×
失業	×	×
我慢	×	6
自慢	×	7
苦労	×	8
遅刻	×	×
完備	×	×
死亡	×	×
困窮	×	×
共通	6	5
婚約 ¹²	×	×

¹² 朝日新聞オンライン記事データベース検索では連体修飾要素である「テイル・タ・ナ・ノ」より最も用例数が優れた語は「婚約者」であった。全体で2053件が検出され、修飾される対象がヒトである

妊娠	×	2
乱暴	7	2*
不足	10*	×
失礼	14	×
邪魔	15	×
感心	3	×
退屈	15	×
敏感	28	×
優秀	381	×

3. おわりに

本章では、現代日本語において動作を表す役割ではなく、名詞修飾の働きをする「漢語形容詞＋名詞」の形式で現れるものに注目し、このような形に付加する「シテイル・シタ」形の形容詞的な用法を考察した。また、このタイプの漢語の連体修飾となる要素と使用傾向を調査し、漢語の属性によってそれぞれの観点に即して図表に分類した。それによって漢語形容詞の場合も「タ」形との使用がより形容詞性を表すということが分かった。加えて、名詞を修飾する際の「ナ」と「ノ」の使用傾向についても述べ、形容詞的な特徴を有する漢語を図表にまとめた。「ナ」と「ノ」の場合は修飾語になる漢語にもよるが、「ノ」の方が名詞と用いられる頻度は高く、「ナ」に比べると形容詞性機能を持つ要素だと思われる。

また、漢語と共に用いられる全ての形式を踏まえると、主体はヒトである場合「～者」（邪魔者）、モノである場合は「～物」（破損物）のような固定化したパターンも多く、連体修飾する際に用いる様々な時制語尾や助辞が省略されており、それで新たな形式が登場していたと分かった。

場合は「漢語＋者」形式への使用傾向も多いと思われる。また、同じ傾向「遅刻」の場合も見られ、「遅刻者」の形式が「テイル」や「タ」形より著しく多かった。

第四章

現代語における形容詞的動詞 - 複合動詞（自動詞） + 「ル・テイル・タ」形を中心に-

1. はじめに

現代日本語において「形容詞的動詞¹」と認められる動詞の諸形の中には形態的に和語動詞や漢語サ変動詞をはじめ、複合動詞の「動詞＋動詞＋ル・テイル・タ＋名詞」また「名詞＋動詞＋ル・テイル・タ＋名詞」「形容詞・擬音＋動詞＋ル・テイル・タ＋名詞」形式の組み合わせも存在する。あらゆる形容詞的動詞は連体修飾の際に「ヲ・ニ・デ・ガ」などの諸格を伴わず、基本形容詞と同様に単独のままで、主にヒトの行状・性質・感情やモノゴト・デキゴトの状態・性質などを表す動詞であり、動きを表す用法を持たないものである。以下に様々な複合動詞形式で成り立つ「形容詞的動詞」の用例を挙げる。

(1) 好きなことはマンガを読むことと人間観察。すれ違う人のしぐさや性格、家庭や仕事で何を考えているか想像する。
(2013年11月06日・朝日新聞)

(2) デザインや景観に対する工夫や配慮がなされ、都市景観を形作るうえで役立っているものなどを募る。
(1996年08月28日・朝日新聞)

(3) 込み入った人間模様などは描かれず、少しあっさりした筋書きだが、それゆえに感じられるリアリティーがある。
(2010年03月06日・朝日新聞)

文中において全ての複合動詞（自動詞）が形容詞らしい属性を発揮するとは言えない。形式的には諸格を伴わないものであり、また意味的にも「未来・現在・過去」の解釈を取らないものでないと「形容詞的動詞」カテゴリーに入りにくい。(3)の「込み入った」は複合動詞であるにも関わらず、連体修飾語として用いられる形容詞的動詞の一つである。形容詞的に用いられる場合ほとんどが「タ」形で使用され、形容詞と同様な役割を果たしている。(1)と(2)も同じく連体修飾語となり、名詞を形容している。

用例調査では「ル・テイル・タ」形をとる「形容詞的複合動詞（自動詞）」を中心に、朝日新聞オンラインデータベース(1984年～2014年)記事を対象とし、連体修飾節に接続せずに自立した用法で現れる形容詞的なものを取り上げる。

本章では複合動詞の形容詞的用法について検討を行い、形容詞的動詞特徴が見られる複合動詞を分類し、用例数という観点から使用頻度・傾向が高いものを示す。また、どのような仕組みを持つ複合動詞が形容詞的な性格を最も発揮するかを明らかにする。

¹ 寺村(1984)では「優れている・馬鹿げている」等のような形容詞的にのみ使われるものを表す用語だが、本論の第一章にも前述したように、形容詞的な用法特徴を持つ動詞を「形容詞的動詞」と呼ぶことにする。

2. 先行研究

管見の限りでは、現代日本語の複合動詞に関する主な先行研究として影山(1993)、姫野(1999)、由本(2005)が、複合語に関する研究として石井(2007)などが存在し、それぞれ複合動詞や複合語の語形成論・意味や統語を中心とするものである。現代日本語動詞のムード・テンス・アスペクト論を扱った工藤(2014)では、動詞述語の「有り触れる・込み入る・切り立つ・入り組み」などは形容詞的にも用いられる動詞グループに分類されている。但し、文中において形容詞的な働きをする複合動詞に関して言及はなされていない。

本章では、文脈で形容詞の振る舞いをする複合動詞（自動詞）に注目する。コーパスを使用して用例を採集し、用例の分析を通して後接形式毎の使用頻度や使用傾向の高い語句を明らかにすることを目標とする。

3. 考察

用例調査範囲は朝日新聞オンライン記事データベースのみである。以下の図表に掲載した複合動詞は影山(1993)を参考にし、「形容詞的動詞」の特徴を有する複合動詞を抽出したものに、日常談話でよく耳にする動詞も加えている。用例範囲は「複合動詞＋能動形＋主体」の単独用法で明らかに「形容詞的複合動詞」と解釈される例文に限った。

3.1 複合動詞（自動詞）に伴う「ル・テイル・タ」形の形容詞的用法

複合動詞の場合、基本用法として述語の役割を果たす動詞が非常に多いのに対し、「形容詞的複合動詞」となるものは少ない。テンスやアスペクトから離れ、基本形容詞の機能をする複合動詞の語構造を考察すると、以下には後項動詞と組み合わせがある「形容詞的複合動詞」が確認できる。次の通りそれぞれ、能動形の「ル・テイル・タ」との使用が見られるものの用例を表示する。

3.1.1 「動詞（V1）＋ 動詞（V2）」型

a. ～立つ（自動詞）切り立つ・聳え立つ＋名詞（モノゴト²）

(4) a. 切り立つ山の斜面に沿って民家や畑が並ぶ姿は懐かしさを感じさせる。

(2013 年 03 月 21 日・朝日新聞)

b. 「最近は夏休みなど、子ども連れのお客が増えました。切り立った崖（がけ）の多い島なので、秘境を回る小冒険の気分でしょうか」。

(2008 年 07 月 28 日・朝日新聞)

(5) a. そびえたつ塔の壁面には様々な生き物やオブジェが躍動し、頂点では羽化したばかりの

² カッコの中に書いてある「ヒト・モノゴト・デキゴト」は対象とした複合動詞と共に用いることが可能な主名詞の種類を表す。以降同様。

チョウが羽ばたこうとしている。

(2008年04月18日・朝日新聞)

b. そびえ立った洋風建築の東側と北側に、二階建ての民家が見えるが、その較差のはなはだしさはすごい。

(2000年03月04日・朝日新聞)

b. ～着く（自動詞）落ち着く＋名詞（ヒト・モノゴト・デキゴト）

(6) 注文は「頭がすっきりするものを」「落ち着くものを」「優しくなれるものを」と、体調や気分に合わせてブレンドが多い。

(2004年04月16日・朝日新聞)

(7) 友人、知人の中でも、よく気配りができ、主婦としての知恵も豊富で適切な言葉遣いやあいさつができ、落ち着いている人は、姑さんと同居している。

(1997年12月20日・朝日新聞)

(8) 落ち着いた空間で、ゆったりとした時間を感じながら食事をする場所としてふさわしい。

(2008年05月12日・朝日新聞)

c. ～入る（自動詞）込み入る＋名詞（モノゴト・デキゴト）

(9) 半逆光の光線の扱い方が良く、やや込み入っている木の印象を救っている。

(2005年01月21日・朝日新聞)

(10) 生徒との出会いがまだ浅く、込み入った話ができない欠点もある。

(2002年05月11日・朝日新聞)

d. ～触れる（自動詞）有り触れる＋名詞（モノゴト・デキゴト）

(11) ありふれた日常の中、そんな、ちょっとした引っ掛かりやズレの感覚を発見し、すくい上げるところに、いかにも現代の作者らしい持ち味が感じられる。

(1995年10月29日・朝日新聞)

e. ～去る（自動詞）過ぎ去る＋名詞（モノゴト・デキゴト）

(12) 過ぎ去る時間は着実に希望をむしばむものでしかない。

(1998年03月26日・朝日新聞)

(13) 過ぎ去った日々の後悔に捕らわれている人に幸せは来ないということでしょう。

(1997年04月05日・朝日新聞)

f. ～組む（自動詞）入り組む＋名詞（モノゴト・デキゴト）

- (14) 一位の作品はともに、複数の男女を主人公にした恋愛ドラマ。入り組んだ人間関係を軽いタッチの会話でくるんで描いている。
(2000年02月09日・朝日新聞)

g. ～違う（自動詞）擦れ違う＋名詞（ヒト・モノゴト）

- (15) 道を歩いていても、すれ違う人をみるたびに「もしか私の肉親では」と思うこともある。
(1987年12月16日・朝日新聞)

- (16) 「娘であることには違いはない」と、親としての確固とした愛情を確かめ、すれ違っている思いを伝えられるようになった。
(1997年09月05日・朝日新聞)

- (17) すれ違った人から、山頂部にも数輪咲いていると聞いて山頂へ行ったが見当たらない。
(1997年07月14日・朝日新聞)

h. ～込む（自動詞）落ち込む＋名詞（ヒト）

- (18) 震災のショックは人によって表れ方が違う。落ち込む人、ハイになる人、人のために尽くさなければと動き回る人……。
(1996年07月17日・朝日新聞)

- (19) 落ち込んでいる人に水泳やウォーキングをさせるのは難しいが、馬に乗るのはただ歩くより楽しく、やらせやすいという。
(2009年04月04日・朝日新聞)

- (20) 「リラックスさせるだけでなく、落ち込んだ人を元気にしたり、気持ちを切り替えさせたりすることもできる」
(2008年06月23日・朝日新聞)

i. ～詰める（他動詞）思い詰める＋名詞（ヒト・モノゴト）

- (21) 「多分、こんな性格に助けられたかも」。思い詰める性格だったら、ここまで気持ちが続かなかった。
(2008年11月13日・朝日新聞)

- (22) 経営者は三十代半ば。店の経営が苦しかったといううわさも聞いた。思い詰めている人に強くなれと言うのは酷（こく）だ。
(2000年10月21日・朝日新聞)

- (23) 大きなかばんを抱えてじっと座り込んでいたり、思い詰めた表情で海面を見つめていたり。
(2013年10月10日・朝日新聞)

j. ～切る（他動詞）・切れる（自動詞）澄み切る・吹っ切れる＋名詞（モノゴト）

(24) どこまでも青く澄み切っている空をイメージさせるような、すっきりと明るい作品となりました。
(1998年05月30日・朝日新聞)

(25) これからも野菜の豊かな色彩や四季の移り変わり、澄み切った空気など、ふだん畑にいる私たちの目に映る命の景色を、自分たちなりの感性で伝えていきたいと思います。
(2011年02月02日・朝日新聞)

k. ～得る（自動詞）あり得る＋名詞（モノゴト）

(26) うがった「解説」だが、労働界では「あり得る話」と受け止められており、賃上げ結果に絡んで、間接税論議も活発になることが予想される。
(1988年04月07日・朝日新聞)

(27) 「あり得たことですね。ソ連軍には督戦隊がいたんですよ。退却する兵隊を後方から撃ち殺したんです」。
(1989年08月02日・朝日新聞)

l. ～慣れる（自動詞）見慣れる＋名詞（ヒト・モノゴト）

(28) a. 見慣れた人々の顔をより魅力的と判断する傾向がある。 (1996年07月21日・朝日新聞)

b. 街を歩いていると、見慣れた風景にぽっかりと穴があいていて驚くことがある。
(2013年11月16日・朝日新聞)

m. ～習う（他動詞）見習う＋名詞（モノゴト）

(29) 何でも他国のまねをするのは良くないと思いますが、見習う点はたくさんあると思いました。
(2005年09月11日・朝日新聞)

n. ～ぼける（自動詞）寝ぼける＋名詞（モノゴト）

(30) 寝ぼけた頭の中で「これで私にどうしろって言うんだ！」と叫んでいたのを今でもはっきりと覚えている。
(2003年12月21日・朝日新聞)

o. ～潤びる（自動詞）干潤びる＋名詞（モノゴト）

(31) あの白菜くずのおかずや、干潤びたせっけん等が生み出した祝い金なのだと娘たちに教えても理解されないであろう。
(1988年12月01日・朝日新聞)

p. ～曲がる（自動詞）折れ曲がる＋名詞（モノゴト）

(32) 30年以上たった今となつては記憶も定かではないが、折れ曲がった道路に沿うような形で立っていたように思う。
(2010年01月26日・朝日新聞)

r. ～ただれる（自動詞）焼けたただれる＋名詞（モノゴト）

(33) 焼けたただれた銀行の入り口は、色とりどりの花やテディベアで埋まっている。
(2010年06月28日・朝日新聞)

以上は複合動詞の後項となる動詞を整理したものである。それぞれは前項動詞（V1）と組み合わせることで形容詞的な性格を持つものである。一般に述語としての使用もあり得るこの形式には「ル・テイル・タ」形を伴い、主体を修飾する際に他の複合動詞とは異なり、形容詞的な解釈がされるものも存在する。

以下の表①は、複合動詞の中で形容詞的な性格が現れやすい語を、その後接形式毎に用例数を示したものである。朝日新聞オンライン記事データベース（1984年～2014年）の用例を後接形式毎に分類すれば、名詞を形容する複合動詞の使用頻度・傾向が明らかになる。

さらに後項動詞の種類という観点から見れば、形容詞的用法になる割合は、他動詞に比べて自動詞の方が明らかに多い。第一章で行った、和語動詞（自動詞）由来の形容詞的動詞の調査結果も、今回の結果と一致する。他動詞を後項に持つ「形容詞的複合動詞」（思い詰める・澄み切る・見習う）も存在するが、このような複合動詞は固定的な表現として用いられてきたものと思われる。

表①³

（V1）＋（V2）複合動詞 「形容詞的用法」	「ル」形 (1984年～2014年)	「テイル」形 (1984年～2014年)	「タ」形 (1984年～2014年)
切り立つ	28	△	37*
聳え立つ	18	△	5
落ち着く	12	3	33*
込み入る	△	1	44*
有り触れる	△	△	81*
過ぎ去る	8*	△	27*
入り組む	△	△	12*

³ △は今回の調査範囲（1984年～2014年）において述語文が多く、単独のままで形容詞らしい用法の用例が見られず、諸格が必要なものを表す。表①における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の名詞を対象とした用例数である。例えば、「切り立った崖・落ち着いた空間・込み入った話・有り触れた日常・過ぎ去る時間・過ぎ去った日々・消え去る運命・入り組んだ人間関係・すれ違っている思い・思い詰める性格・思い詰めた表情・澄み切っている空・澄み切った空気・有り得る話・見慣れた風景・見習う点・焼けたただれた皮膚」などが挙げられる。また、表①における様々な色について、薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

擦れ違う	158	1*	56
落ち込む	10	24	5
思い詰める	6*	1	24*
澄み切る	△	1*	56*
有り得る	22*	△	2
見慣れる	△	△	52*
見習う	24*	△	△
寝ぼける	△	△	20
干涸びる	3	1	33
折れ曲がる	6	△	85
焼けただれる	△	△	22*

「ル・テイル・タ」形を比較すると、「タ」形が他の形式に比べて形容詞的用法を取りやすいが、「擦れ違う」の場合だけは圧倒的に「ル」形に偏っている。「込み入る」「有り触れる」「入り組む」「澄み切る」「見慣れる」などは他の形容詞的複合動詞と異なっており、形容詞的用法で用いられる際に、「ル・テイル」形が「タ」形に比べてほとんど共起されないという特徴がみられる。「込み入った」は244件採取されたが、その内44件は「込み入った話」の単独用法として出現し、残りの200件の多くは様々な主名詞と単独用法で現れ、述語動詞としての使用よりも形容詞的複合動詞としての使用に偏っている。また、「澄み切った」も同様であり、96件中56件は形容詞的複合動詞として出現し、述語文としての基本用法がほとんど見当たらない用例ばかりであった。従って、用例上「タ」形との共起は他の形式より圧倒的であり、固定化しているこのような複合動詞は「主要形容詞的複合動詞⁴」と言ってよい。

以上に対して、「有り得る・見習う」のような複合動詞の場合、「タ」形と単独用法がわずかであり、形容詞的用法として使われる際は圧倒的に「ル」形に偏る。「有り得た」の検索では305件中2件のみ自立したものとして出現し、残りの多くは述語文であった。

さらに、動詞類という点から考えると感情動詞の「落ち込む」のみ、「テイル」形が圧倒的に多く、単独のままで形容詞らしい用法として現れた。この点も第一章で得られた結果と一致しており、用例上も感情動詞と用いられやすい形式は「テイル」形であることが確かである。

3.1.2 「名詞 (N) + 動詞 (V1)」型

a. ～立つ (自動詞⁵) 目立つ・役立つ・主立つ・先立つ・際立つ+名詞 (ヒト・モノゴト)

(34) 「目立つ人もそうでない人もいる。みなさんの前で心からの感謝を述べたい」。

⁴ 本論の第一章に前述した用語である「主要形容詞的動詞」の特徴と同様な特徴が複合動詞にも見られるため、述語らしい用法より形容詞らしい用法が多く用いられる複合動詞を「主要形容詞的複合動詞」と呼ぶことにする。述語としての用法は多く見られるが形容詞的にも用いられる他の複合動詞は「副次形容詞的複合動詞」と呼ぶ。

⁵ カッコの中に書いてある「自動詞」は複合動詞のまま動詞類を表すものである。以降同様。

(1988年 04月 09日・朝日新聞)

(35) 横並び以外の人、あるいはちょっと目立った人が浮いてしまいがちなご時世。

(2004年05月15日・朝日新聞)

(36) 障害者の立場になって考え、役立つ物を作っていくことが大切だと思います。

(2006年 01月 08日・朝日新聞)

(37) 役立ったものはお盆くらいか。

(1984年 09月 29日・朝日新聞)

(38) 首には、黒っぽい男性用のネクタイが巻かれたままだったという。主立った外傷はなく、首を絞められ、殺された可能性が高い。

(2003年06月01日・朝日新聞)

(39) お金で幸せな老後が買えるわけではないけれど、先立つものがなければ介護は続かないのも現実。

(2009年05月19日・朝日新聞)

(40) その祝いを終わって間もなく他界されたご主人なのか、あるいは作者自身が卒寿の祝いをして、先立っている夫に供物を供えるのか。

(2004年07月13日・朝日新聞)

(41) 先立った夫との約束で刻んだ墓碑が、名古屋市内の霊園にひっそりと立っている。

(1996年08月04日・朝日新聞)

(42) a. 際立つ甘味や酸味はないが、独特の香り風味を持つ。

(2011年07月26日・朝日新聞)

b. 際立った争点がないため、低い投票率を予想する陣営が多く、地盤固めに懸命だ。

(1991年04月20日・朝日新聞)

b. ～取る（自動詞）年取る・気取る＋名詞（ヒト・モノゴト）

(43) 「若い人にも年取った人にも皆さんに見て欲しい。そしてもっともっと沖縄を知ってもらいたい」。

(2004年04月02日・朝日新聞)

(44) 「祖父母や親の歓声まで聞こえてきそう。気取った言葉はないが、31文字を超えた様々な物語が感じられる」。

(2011年02月10日・朝日新聞)

c. ～老いる（自動詞）年老いる＋名詞（ヒト）

(45) いま、親子ともども年老いる高齢者2階建て時代を迎えている。

(1992年07月02日・朝日新聞)

(46) 貧しい中でも、年老いた人に生きがいと輝きと笑顔があった。

(1999年11月28日・朝日新聞)

d. ～寄る（自動詞）年寄る＋名詞（ヒト）

(47) 「年がいつてるってこともあんだべけど、農家の長男で、年寄った親もいたしな。あせってきてな」。

(1987年01月12日・朝日新聞)

e. ～違う（自動詞）間違う＋名詞（ヒト・モノゴト）

(48) ところが、間違う人が後を絶たない。

(2004年01月27日・朝日新聞)

(49) A被告は「間違っている点はありません」と起訴事実を全面的に認めた。

(2006年05月24日・朝日新聞)

(50) それが正しいものであれ、間違ったものであれ。

(2001年05月23日・朝日新聞)

f. ～切る（自動詞）裏切る＋名詞（ヒト）

(51) 「でも、完全な善人なんてこの世にいない。意表をつく、裏切るものがないとね」

(2013年01月11日・朝日新聞)

(52) 裏切った人間を、ゆるすのとゆるさないのと、どちらが愛情が深いだろうか。

(1995年04月16日・朝日新聞)

g. ～切れる（自動詞）千切れる・途切れる＋名詞（モノゴト）

(53) 二十五年間、転勤を繰り返すたびに、自分の人生が音を立てて、千切れる思いを何度したとか。

(1999年06月16日・朝日新聞)

(54) 千切れた紙テープが、水際でひらひらとはためいていた。

(2003年01月05日・朝日新聞)

(55) 配り続けて五日目。途切れた道路が仮復旧し、車の行き来も始まった。

(2000年10月04日・朝日新聞)

h. ～慣れる（自動詞）物慣れる＋名詞（モノゴト）

(56) そして、ものなれたスピーチ調で、読み始めた。

(1997年11月01日・朝日新聞)

i. ～寂びる（自動詞）物寂びる＋名詞（モノゴト）

(57) ものさびた風情がいいんです。眼下を流れる円山川が月光を浴びて銀色に光っていた景色は、
今でもよく覚えています。(1996年09月20日・朝日新聞)

以上の「名詞 (N) + 動詞 (V1)」型の複合動詞は「動詞 (V1) + 動詞 (V2)」型の形容詞的複合動詞と同じく、他の複合動詞と異なっており、最も形容詞らしい性格を有するものである。この型にも自立した形式や諸格を伴わない例が多く見られ、典型的な形容詞用法に最も近い特徴があると言える。

表②⁶

(N) + (V1) 複合動詞 「形容詞的用法」	「ル」形 (1984年~2014年)	「テイル」形 (1984年~2014年)	「タ」形 (1984年~2014年)
目立つ	28	1	8
役立つ	32	1	3
主立つ	△	△	12*
先立つ	55	1*	10*
際立つ	17*	△	65*
年取る	△	△	18
気取る	△	1	10*
年老いる	1*	△	23
年寄る	△	△	3*
間違う	9	4*	29
裏切る	2	△	3
千切れる	1	△	11
途切れる	△	△	8*
物なれる	△	△	7
物寂びる	△	△	5

表②によれば、「年」を前項に持つ「年取る・年老いる・年寄る」は、形容詞的用法の際は「タ」形を伴い易い。但し、形容詞の役割で多く使用されるといっても「年寄る」の場合は「タ」形であるにもかかわらず、わずか3件しか現れず、注目すべき点であると思われる。そして、日常会話でたびたび耳にする「お年寄り」の検索をすると、4826件が見つかった。意味的には「年取った人」の同義で、修飾語の必要性はなくまるで一言でまとめられるような単語である。

⁶ △は今回の調査範囲（1984年~2014年）において述語文が多く、単独のままで形容詞らしい用法の用例が見られず、諸格が必要なものを表す。表②における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の名詞を対象とした用例数である。例えば、「先立っている夫・先立った夫・際立つ個性・際立った争点・気取ったポーズ・年老いる高齢者・年寄った親・間違っている点・途切れた道路」などが挙げられる。また、表②における様々な色について、薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

このような複合動詞は、動詞の「ル・テイル・タ」形と共起するものと同様の意味を表しつつ、より日常的に使用されやすい語であると言える。つまり現代語において使用される頻度という点からも考えると、動詞から成立する語より「お年寄り」などのような複合語の使用が一般に選択される。

また、「裏切る」の検索では何より使用率が高い「タ」形であるにもかかわらず、用例数はわずかであり、この3つの形式以外には「人を裏切る人」の同義である「裏切り者」が単独用法として32件現れた。

表①と異なる点は後項動詞「立つ」の「ル」形との使用率である。用例数から分かるように複合動詞の後項としての「立つ」は、「ル」形がより形容詞性を持ちやすく、形容詞的用法として最も用いられやすい「タ」形よりも用例数が多い。従って、「動詞（V1）＋動詞（V2）」型の複合動詞の場合と「名詞（N）＋動詞（V1）」型の複合動詞の場合で「ル」形や「タ」形の選択が違ふと考えられる。また、「ル」形と「タ」形の数も比べると、「ル」形と「タ」形は反比例的に用例分布が現れることがわかる。よって、形容詞的な用法範囲では「ル」形や「タ」形の間にバランスが生じ、既に占められた位置ではいつも同じ表現が用いられてきたのではないだろうかと思われる。

3.1.3 「形容詞（A）・擬音（O）＋動詞（V1）」型

a. ～汚れる（自動詞）薄汚れる＋名詞（モノゴト）

(58) 薄汚れたガラスを通して、パリ独特の街の風景が見える。 (2005年01月11日・朝日新聞)

b. ～惚ける（自動詞）古惚ける＋名詞（モノゴト）

(59) 古ぼけたお宝が、どんな場所でどう使われていたのかを再現するので想像力が一気にふくらむ。 (2012年03月19日・朝日新聞)

c. ～引く（自動詞）長引く＋名詞（デキゴト）

(60) 長引く低金利などの要因も絡み、県内でも定期預金から普通預金へのシフトが進むとともに、預金以外の商品に顧客の関心が高まっているという。

(2002年05月19日・朝日新聞)

(61) このように林業不振を考える時、長引いている不況の根底には、賃金水準が上がったところに要因があるように思えてならない。

(2002年03月28日・朝日新聞)

(62) ストーブ用の灯油を配達する車が街中を走り抜け、長引いた残暑の影響で出足が鈍っていた暖房器具や衣類など冬物商戦は、冷え込みが続くことに期待する。

(2010年11月11日・朝日新聞)

d. ～抜ける（自動詞）ずば抜ける＋名詞（ヒト・モノゴト）

(63) 中心となる、ずば抜けている選手がいないあたり、お互いよく似たチームと思います。

(1992年08月15日・朝日新聞)

(64) ずば抜けた力を持つ選手は見当たらず、混戦模様だ。

(2003年03月06日・朝日新聞)

表③⁷

(A)・(O) + (V1) 複合動詞 「形容詞的用法」	「ル」形 (1984年~2014年)	「テイル」形 (1984年~2014年)	「タ」形 (1984年~2014年)
薄汚れる	△	△	87
古惚ける	△	△	93
長引く	42*	3*	32*
ずば抜ける	△	1	53*

「形容詞＋動詞」と「擬音＋動詞」型は「動詞＋動詞」や「名詞＋動詞」型に比べて、語彙数が大分少ないが、現代語では今もなお使われている。表③において、「薄汚れた」の用例検索では241件中87件が諸格を伴わず形容詞的な用法で現れ、残りの154件はほとんど連体修飾節の要素であるもので、述語文は1件しか見当たらなかった。87件の主名詞は様々なヒトやモノゴト・デキゴトの名称であり、「タ」形においては形容詞性がはっきりと見られた。また、「古ぼけた」に関して325件中93件には形容詞的な使用が見られ、他の用例の多くは連体修飾節と繋がりのあるものであり、述語文は1件しか現れなかった。

このタイプの複合動詞「長引く」は他の動詞と異なっており、「ル」形を伴った用法はより形容詞的に用いられる。また、「テイル」形との共起も現れ、用例としては数が少ないが、以上において(61)は形容詞性を持つ用法である。

以上の表①・表②・表③は「ヒトの行状・性質・感情などを表す機能を持つ複合動詞」と「モノの状態・性質を表す機能を持つ複合動詞」に区別し、複合動詞（自動詞）の場合はどのような語句が形容詞的用法として現れやすく、一般的に用いられるかを判定した表である。

用例上の諸格の有無により、単独用法が見られる複合動詞を掲載しており、文章における形容詞的用法のみの用例を表示している。本調査において対象とした以外にも考察の対象となる複合動詞が更に残されていると思われるが、本研究の調査範囲で見出すことが出来た複合動詞としては以上の3つの表に掲載した通りである。

⁷ △は今回の調査範囲（1984年~2014年）において述語文が多く、単独のままで形容詞らしい用法の用例が見られず、諸格が必要なものを表す。表③における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノ」ではなく、他の名詞を対象とした用例数である。例えば、「長引く 低金利・長引いている/長引いた不況・ずば抜けた力」などが挙げられる。また、表③における様々な色について、薄青色は「ル」形、薄緑色は「テイル」形、オレンジ色は「タ」形との共起が多いものを表している。

4. おわりに

本章では、連体修飾における「形容詞的複合動詞」に伴う「ル・テイル・タ」形について考察し、和語自動詞から成り立つもののうち、形容詞らしい特徴で姿を見せる語句の使用頻度に関して考察を行った。それに関連して複合動詞の組み合わせによって3つの表を整理し、量的な視点から形容詞的な用法への偏り状況について検討した。

以上の表①・表②・表③から、どのような動詞が名詞を形容する際に動詞らしさを失い、最も優先的に形容詞的用法で使われるのかが明らかになった。しかし、どのような基準でその動詞の意味機能が形容詞らしく用いられるかまだ明確ではない。従って、複合動詞の前項・後項関係や動詞構造を考え、成立条件を考察する必要もあると思われる。

「込み入る」「有り触れる」「入り組む」「澄み切る」「見慣れる」「主立つ」「物寂びる」「古ぼける」などのような複合動詞は「タ」形と共起のまま「形容詞」と品詞化され、用例上もこのような語句は動詞より形容詞的に用いられやすいため、「主要形容詞的複合動詞」と区別してよいであろう。そして、形容詞の役割を果たす他の複合動詞は「副次形容詞的複合動詞」カテゴリーに入ると判断する。

「ル」形と「タ」形を伴う複合動詞（自動詞）は様々な点で異なり、多くの語では「タ」形が最も形容詞的な機能を持つにもかかわらず「ル」形に偏る動詞も存在する。現代は「タ」形の形容詞性役割は転換しないが、「ル」形の形容詞らしさも重要な位置を占めていると言える。「テイル」形の場合、形容詞的な特徴はあまり発揮できず、文脈ではどうしてもアスペクトの影響で時制に関わる要素になってしまうことが多いと思われる。但し、感情動詞の場合は他と異なり、「テイル」形で形容詞らしい用法として多く用いられるということが興味深い。そして、「思い詰める・澄み切る・見習う」などのような「複合動詞（他）+能動形+主名詞」の形態を有する、固定化している例外の複合動詞の存在も把握した。

また、現代日本語には複合動詞（他動詞）のうち、受身形を伴うことで形容詞的に用いられやすい動詞も存在する。「動詞+動詞+（ラ）レル・（ラ）レテイル・（ラレ）タ」形（見失う・閉じ込める）などのような動詞はこの種類に入るものである。

(65) 閉じ込められた世界の色彩、闇の中のきらめき。

(2012年11月22日・朝日新聞)

以上のように受動形を共起することで形容詞化しやすい、形態や意味的にも形容詞に最も近い複合動詞（他動詞）が多く存在する。この形式に関する研究を第五章の課題にしたい。

第五章

現代語における形容詞的動詞-複合動詞（他動詞）＋「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形を中心に-

1. はじめに

前章では、現代日本語における「形容詞的複合動詞」の「ル・テイル・タ」形について考察し、連体修飾に用いられつつ形容詞らしい特徴で姿を見せる複合動詞（自動詞）の使用頻度に関して考察を行った。そして複合動詞の組み合わせによって様々な表を作成し、量的な視点から形容詞的な用法への偏り状況についても述べた。

複合動詞には受動の「（ラ）レル・（ラ）レテイル・（ラ）レタ」形を伴い、名詞の前置要素である際に形容詞的な性格を発揮する動詞も存在している。これらは基本形容詞と同様に単独のまま主に「ヒト」の行状・性質・感情や「モノゴト・デキゴト」の状態・性質などを表し、形容詞の振る舞いをする。但し、あらゆる複合動詞が上記の範囲に入るとは言えない。

(1) しかし、「見失われる恐怖」にとりつかれ、絶対を熱烈に探求した。

(2012年02月26日・朝日新聞)

(2) 閉じ込められた酸素の性質などを調べ、温暖な間氷期だった11万5千～13万年前の気温や氷床の厚さを割り出した。

(2013年02月06日・朝日新聞)

従来の研究では形容詞的動詞に用いられる動詞類を「自動詞」と「他動詞」に分離し、連体修飾の役割を果たす際に能動の「ル・テイル・タ」形と自動詞の組み合わせ、受動の「（ラ）レル・（ラ）レテイル・（ラ）レタ」形と他動詞の組み合わせがより形容詞らしさを持ち易い形式だと主張してきた。また形容詞的に用いられる複合動詞の場合も同様であり、以上の用例(1)(2)では受動形を伴う他動詞の形容詞的な用法が見られる。

本章では「（ラ）レル・（ラ）レテイル・（ラ）レタ」形をとる「形容詞的複合動詞」を中心に、朝日新聞オンラインデータベース(1984年～2014年)記事を対象とし、文中において名詞を形容する自立した用法で現れる形容詞的なものを取り扱う。また、形容詞らしい特徴が見られる動詞を分類し、用例数という観点から使用頻度・傾向が高いものを表示する。受動形を伴うことでどのような複合動詞が最も形容詞的な性格を発揮し、形容詞的な用法への偏りが見られるかを明らかにしたい。

2. 先行研究

現代日本語の複合動詞に関しては、影山(1993)をはじめ、姫野(1999)、由本(2005)、石井(2007)など先行研究が存在し、多くは複合動詞や複合語の語形成論・意味論と統語論また複合動詞の自動詞・他動詞の対応を中心とするものである。影山(1993)では、複合動詞の受身形について複合動詞の項関係や項構造に注目し、統語的な複合動詞にも全体として受身化が可能なものが観察さ

れると述べられている。以下のように具体的な用例が挙げられる。

(3) a. 聞き漏らされたことがたくさんある。

b. 投函し忘れられた手紙

(影山 1993p.144-145)

しかし、それぞれの研究では複合動詞の形容詞的な機能や形容詞的に用いられる複合動詞の整理に関する考察はなされていない。

本章では、文中で名詞を修飾し受動形と共に用いられる「形容詞的複合動詞」に注目する。コーパスを用いつつ用例を採集し、用例の分析を通して後接形式毎の使用頻度や使用傾向の高いものを明らかにすることを目標とする。

3. 考察

用例調査範囲は朝日新聞オンライン記事データベースのみとする。以下の図表に掲載した複合動詞は姫野(1999)の「複合動詞リスト」に出現する他動詞を中心とし、形容詞的複合動詞の特徴を持つものとして、日常談話でよく耳にする語も加えている。用例範囲は、解釈上、筆者によって明らかに「形容詞的複合動詞」と判断される例文に限定した。

3.1 複合動詞に伴う「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の形容詞的用法

複合動詞の場合、文中において連体修飾節内の要素ではなく、単独のまま名詞を修飾するものであり、そのうえ、意味的にも形容詞の意味解釈が得られるものには「形容詞的複合動詞」と言える。意味の面では「(ラ)レル」形の可能の解釈もできるが、「によって」や「ヲ、ニ、デ、ガ」などの諸格の有無によって例文を考察対象とする。以下では複合動詞つまり動詞類として他動詞であるものを表示し、受動形をとる場合に見られる形容詞的用法を具体的に確認する。

3.1.1 「動詞 (V1) (他) + 動詞 (V2) (他)」型

a. ～あげる (他動詞) 鍛え上げる・練り上げる + 受身 + 名詞¹

(4) 教えられるだけの野球でなく、自分たちで考え、試合に取り組むという面で、鍛え上げられている印象が強かった。
(1995 年 08 月 02 日・朝日新聞)

(5) 選手の過酷な練習や鍛え上げられた肉体をドラマチックに描いた映像は、動画サイトでも人気だ。
(2012 年 09 月 02 日・朝日新聞)

(6) 「だから派手に作るのではなく、練り上げられた作品をしっかりと演じれば、素晴らしさを体感できると信じている」。
(2008 年 07 月 11 日・朝日新聞)

¹ a から p までの後項動詞は五十音順で並べられたものである。

b. ～うしなう（他動詞）見失う＋受身＋名詞

(7) だが、批判的吟味を欠くとき、それは計量可能な「科学的リスク」だけに還元される。平川は、ここで見失われる問題の本質を深く分析する。

(2003 年 08 月 25 日・朝日新聞)

(8) これを新人会の演出家吉原広さんが、「忙しがるあまり見失われている家庭の愛の大切さを、もう一度見直してほしい」との願いを込めて脚色、演出。

(1990 年 10 月 09 日・朝日新聞)

(9) 先行き不透明世代で、見失われた世代であり、中ぶらりん世代、さまよいの世代として、戦争もバブルも知らないが心がすき間だらけの世代、（下略）

(2007 年 01 月 06 日・朝日新聞)

c. ～おとす（他動詞）見落とす＋受身＋名詞

(10) 「除染が進んでも、見落とされるホットスポットが残る。」

(2013 年 05 月 08 日・朝日新聞)

(11) 交通も通信手段も断たれた中、見落とされている場所や人はないか。救助要員やヘリコプターは足りているか。

(2011 年 03 月 14 日・朝日新聞)

(12) 「いわゆる教科書的な流れからは見えてこない、見落とされた問題を地域レベルで再構成したい」。

(2010 年 02 月 17 日・朝日新聞)

d. ～かさねる（他動詞）積み重ねる＋受身＋名詞

(13) 積み重ねられる物語にゆったり付き合い、「ここぞ」という見せ場で、がっしり役者と切り結ぶ。

(2002 年 10 月 02 日・朝日新聞)

(14) 積み重ねられたバケツ、立てかけられたほうき。普段あまり見向きもしない物を心をこめて描いています。

(2013 年 12 月 25 日・朝日新聞)

e. ～こめる（他動詞）閉じ込める＋受身＋名詞

(15) また、停電でエレベーターが止まり、閉じ込められる人も出るかもしれない。

(2011 年 03 月 14 日・朝日新聞)

(16) チームは、米アポロ 15 号と 17 号が月から持ち帰った石を調べ、閉じ込められている水に含まれる水素と重水素の割合が、地球の水とほぼ一致することを確認した。

(2013 年 05 月 11 日・朝日新聞)

- (17) 閉じ込められた人の話によると、エレベーターは降りて来る途中、2 階と 1 階の間付近に停止した。
(1992 年 04 月 11 日・朝日新聞)

f. ～こわす（他動詞）取り壊す＋受身＋名詞

- (18) a. 住民や村教育委員会の職員、県内外の研究者やボランティアが休日などに集まり、取り壊される家や蔵から民具や古文書を運び出してきた。
(2011 年 09 月 27 日・朝日新聞)

- b. 取り壊されるビル、給水車に並ぶ列など、当時の情景を子どもたちの目で率直に表現している。

(1996 年 05 月 13 日・朝日新聞)

- (19) 同事務所は、市民から「何らかの形で橋を残して欲しい」という声があったことから、取り壊された橋の一部をモニュメントとして保存し、橋の近くに展示することを検討しているという。

(2009 年 11 月 08 日・朝日新聞)

g. ～さく（他動詞）引き裂く＋受身＋名詞

- (20) 引き裂かれる親と子の叫び。悲痛なうめき。
(1995 年 01 月 01 日・朝日新聞)

- (21) 引き裂かれた暮らしを想像して胸が痛む。
(2012 年 04 月 14 日・朝日新聞)

h. ～すてる（他動詞）見捨てる＋受身＋名詞

- (22) そこで、劣化ウラン弾というものがどんなにたいへんな被害を与えているかを調べたり、見捨てられているストリートチルドレンの世話をしたり（下略）
(2004 年 04 月 19 日・朝日新聞)

- (23) 物心ついた時は閉山のあらし。荒廃し、見捨てられる町の光景は忘れられない。
(1991 年 08 月 30 日・朝日新聞)

- (24) 「見捨てられた世代」の命を守るための模索は、ようやく始まったばかりだ。
(2005 年 09 月 11 日・朝日新聞)

i. ～たおす（他動詞）切り倒す＋受身＋名詞

- (25) 市街地再開発問題をからめ、切り倒されるサクラの老樹を巡って揺れ動く人々の心を

描く。 (1996年01月11日・朝日新聞)

(26) 例えば、エビの養殖のため切り倒されている海岸のマングローブ林。
(1988年05月21日・朝日新聞)

(27) 昆虫記で知られるファーブルは『植物記』も書いている。切り倒された栗の木と会話を
するくだりがある、こんなふうに木が言う。

(2011年12月16日・朝日新聞)

j. ～たたむ（他動詞）折り畳む＋受身＋名詞

(28) 折り畳まれたメガネの厚みを感じず、胸あたりに邪魔な感じもなく煩わしくない。
(2005年03月19日・朝日新聞)

k. ～ちぎる（他動詞）引きちぎる＋受身＋名詞

(29) 気が付くと別の登山客に手当を受けていて、引きちぎられたピッケルのひもが体にぶら
下がっていた。
(2006年02月12日・朝日新聞)

l. ～つける（他動詞）飾り付ける＋受身＋名詞

(30) 飾り付けられる門松。さっきまで「主役」だったクリスマスツリーは撤去された。
(2002年12月27日・朝日新聞)

(31) 飾り付けられた鈴の音色から「チャグチャグ」と名付けられた。
(2011年06月11日・朝日新聞)

m. ～つめる（他動詞）追いつめる＋受身＋名詞

(32) 大企業のメガネにかなう人は奪い合いになる一方、受けては落ちることを繰り返し、
追いつめられる学生がいる。
(2010年11月25日・朝日新聞)

(33) 人それぞれに欠点はあるが、だからいじめていいということにはならない。問題はいじ
める側にあると理解し、追いつめられている子の話に耳を傾けないといけない。
(2007年09月09日・朝日新聞)

(34) 「不景気で、企業は利益優先。家族も働くことで精いっぱいだ。追いつめられた人の思
いをみんなで支える余裕が無くなっている」と、星野さんは危ぶむ。
(2003年12月29日・朝日新聞)

n. ～ぬく（他動詞）考え抜く＋受身＋名詞

(35) でも「考え抜かれた計画だし、お父さんはやるべきことを知っている」と母親は成功を確信していた。
(2013年06月21日・朝日新聞)

o. ～ひらく（他動詞）切り開く＋受身＋名詞

(36) 市役所や町役場の建物が立派なことで、切り開かれた山のてっぺんにあることだ。
(1998年10月06日・朝日新聞)

p. ～まげる（他動詞）ねじ曲げる＋受身＋名詞

(37) 文化を伝承するのも言葉の役目とするならば、ねじ曲げられている言葉にむしろ乱れを感じます。
(1992年11月23日・朝日新聞)

(38) ねじ曲げられた歴史を後の世代に伝えてはならない。
(2010年04月30日・朝日新聞)

以上は複合動詞の前項（V1）（他動詞）と後項（V2）（他動詞）の組み合わせである。そのまま全体として他動詞であり、複合動詞と共に用いられる時制語尾によって形容詞的な性格を持つものである。「複合動詞（他動詞）＋受身＋名詞」型は、本章までに扱った形容詞的な用法で現れた動詞のうち、尤も僅かなタイプだと言える。理由として「和語動詞＋能動形＋名詞」型が形容詞的動詞カテゴリーの最も高い位置を占めているためではないかと思われる。

今回の用例調査では、動詞それぞれの主体となる要素は「ヒト」や「モノゴト・デキゴト」のみならず、他の特定の名詞も用例対象とした。

以下の表①は、受身形を共起することによって形容詞的な用法や解釈が現れやすい複合動詞を、その後接形式毎に用例数を示したものである。量的な視点から分類すれば、連体修飾する際の複合動詞の使用頻度・傾向が明らかに見られる。

表①²

² △は今回の調査範囲（1984年～2014年）において述語文が多く、単独のままで形容詞らしい用法の用例が見られず、諸格が必要なものを表す。×は新聞記事データベースに一件も載っていないものを表す。*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として「ヒト・モノゴト・デキゴト」という名詞を対象とした用例数である。用例数は500件を超えた場合、主名詞として「ヒト」や「モノ」のみの用例検索に限ることにした。また、図表には10件以上の用例で出現することが第一条件で、単独のまま形容詞的な用法が見られる複合動詞を掲載されている。また、表①における様々な色について、薄青色は「（ラ）レル」形、薄緑色は「（ラ）レテイル」形、オレンジ色は「（ラ）レタ」形との共起が多いものを表している。

複合他動詞 「形容詞的用法」	「ラレル」形 (1984年~2014年)	「ラレテイル」形 (1984年~2014年)	「ラレタ」形 (1984年~2014年)
鍛え上げる	△	1	90
練り上げる	△	△	34
見失う	4	1	11
見落とす	2	10	17
積み重ねる	10	△	57
閉じ込める	6	14	33*
取り壊す	43	△	85
引き裂く	16	△	47
見捨てる	12	3	73
切り倒す	16	3	53
折り畳む	△	△	20
引き千切る	△	△	18
飾り付ける	2	△	35
追いつめる	22	6	98
考え抜く	×	△	41
切り開く	△	△	21
ねじ曲げる	△	1	11

「鍛え上げる」に「(ラ)レタ」形を付加して行った用例検索では192件採取され、その内90件は名詞修飾の役割を果たす単独用法として出現し、残りの102件の多くは諸格を取り、連体修飾節の述語を構成するものであった。これに対して、述語動詞としての使用は非常に少なく、用例上も形容詞的な用法に偏っていることが明らかであった。

また、「考え抜かれた」も同様であり、103件中41件は形容詞的単独用法として出現し、述語文としての基本用法がほとんど見当たらない用例ばかりであった。残りの62件は諸格を取ったものであったが、すべては形容詞的な用法に近い形式で現れた。一方「考え抜かれる」の検索では形容詞的としても述語文としても用例が一件もなく、「(ラ)レル」形とほとんど使われない「形容詞的複合動詞」であるということが分かった。

表①において「鍛え上げる・練り上げる・折り畳む・引きちぎる・考え抜く・切り開く・ねじ曲げる」は「(ラ)レル」形や「(ラ)レテイル」形との使用がほとんど見当たらず、「(ラ)レタ」形との共起において形容詞的な用法で現れた複合動詞である。よって、このような複合動詞（他動詞）は「主要形容詞的複合動詞³」と言ってよいであろう。これに対して他の形式との使用が一般的に可能であり、述語文にも多く用いられる動詞を「副次形容詞的複合動詞」とする。

³ 本論の第一章に前述した用語である「主要形容詞的動詞」の特徴と同様な特徴が複合動詞にも見られるため、述語らしい用法より形容詞らしい用法が多く用いられる複合動詞を「主要形容詞的複合動詞」と呼ぶことにする。述語としての用法は多く見られるが形容詞的にも用いられる他の複合動詞は「副次形容詞的複合動詞」と呼ぶ。

図表には10件以上の用例で出現することが第一条件で、単独のまま形容詞的な用法が見られる複合動詞を掲載されている。従って、表①に掲載していなかったが、(14)において「他動詞＋他動詞」の組み合わせを持つ「立てかける」は受身形を伴ってもそれほど形容詞的に用いられない複合動詞の一つと言える。3つの形式の内、最も多い「(ラ)レタ」形を取った形式で検索すると120件中7例のみ単独用法であり、名詞を形容するものとして出現した。残りの113例や他の形式「(ラ)レル」と「(ラ)レテイル」の例では連体修飾節の述語要素、諸格を伴ったものや述語文が圧倒的に多かった。この様相から、受身形を付加することであらゆる複合動詞（他動詞）が形容詞らしい特徴を獲得できるわけではないということが分かる。このことはその複合動詞の組み合わせに用いられる動詞の性質にも関わることだと思われる。例えば、前項動詞の「立てる」は動作動詞⁴であり、後項動詞の「かける」も同じ動作動詞であり、この構造の形容詞化が不可能ではないが、名詞を修飾する働きとしての使用がかなり弱い。言い換えれば、状態を帯びる意味の動詞、状態・主体変化動詞、静態動詞や瞬間動作動詞は動作動詞より形容詞性を強く持つ。その複合動詞を構成する動詞の少なくとも一つが状態を帯びる意味の動詞・静態動詞・瞬間動作動詞や主体変化・状態変化動詞でない限り、形容詞らしい特徴を発揮する確率が低い。そして、「形容詞的複合動詞」としての使用頻度や傾向も更に弱いと思われる。「立てかける」と共通の性質を有する複合動詞として「突き刺す・引き抜く・結びつける・切り替える」などが挙げられる。

3.1.2 前項・後項に「自動詞」を含む複合動詞の形容詞的用法

続いて、前項動詞（V1）が自動詞であり、後項動詞（V2）が他動詞の組み合わせの場合を考察する。この場合も受身形を伴うことで名詞を修飾する形式が存在する。例えば、「吹き上げる・生き抜く」などのような（自＋他）複合動詞の用例を調査すると、「(ラ)レタ」形であっても数が少ないが、単独用法で現れる形容詞的なものが全く存在しないとも言えない。以下の用例を見てみよう。

(39) 吹き上げられた海水が葉、果実、樹木に付着し、浸透圧で水気を吸い取る「塩害」が八割、強風による落果が二割程度と推定している。

(1999年09月29日・朝日新聞)

(40) ひたすら立派に生き抜かれた先生の思想を、共通の思いで私たちが受け継いでいかなければなりません。

(1994年01月25日・朝日新聞)

一方、複合動詞の中には形態論上「追い込む」のような前項（V1）（他動詞）と後項（V2）（自動詞）の構成を持つ組み合わせも存在する。複合動詞自体は他動詞でありながら受身形式を共起することで自立した形容詞的な用法を持ち、主名詞を修飾する。

⁴ 工藤(1995)の動詞分類において動作動詞というのは「外的運動動詞」として名付けられ、「立てる・かける」などはその動詞類に入っている。また、「主体変化動詞」「静態動詞」なども工藤(1995・2000)の動詞分類に従って使用した名称である。

(41) だが、舞台全体は悲哀感だけが強調され、追い込まれた人間の愚かさが見せるこっけいさがあまり浮かび上がらない。

(2009年07月24日・朝日新聞)

3.2 主名詞の意味

前節では、前項・後項に自動詞を含む型について述べた。次の用例から、「形容詞的複合動詞」の主体との意味関係について考察を行う。

以下において(42)のような用例の場合、形容詞的複合動詞と共に用いられる主名詞との意味関係も重要になってくる。形態論上、形容詞的な用法となりうる「複合動詞＋受身＋名詞」形式といたった条件を満たすが、意味論上形容詞的だという解釈が取れないケースもあり得る。

(42) でも、残念なことに、今年の秋には道路の拡張のため切り倒される運命だ。

(2011年06月21日・朝日新聞)

ここで、「切り倒される」は「運命」という主体の状態や性質などを表さないうえ、名詞を修飾しているとも言い難い。この用例から考えてみると、全ての名詞が形容詞的な複合動詞の修飾をうけるとは限られない。従って、ここでの用法も形容詞的ではないと思われる。以下の(43)は複合動詞と主名詞の意味関係として正確な用例だが、修飾する複合動詞の意味から考えると文脈において「切り倒される」の可能の意味を表す解釈もあり得るため、形容詞的な用法を持つかどうかの判断が難しい。

(43) 以来、街路樹や学校の木など「切り倒される古木がある」と聞けば訪ね歩き、切り倒す前の解析結果と実際に切った後の断面を照らし合わせた。

(2007年05月09日・朝日新聞)

3.3 「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形の相違

「(ラ)レル・(ラ)レテイル・(ラ)レタ」形を比較すると、「(ラ)レタ」形が他の形式に比べて形容詞的用法を取りやすく、用例上も圧倒的に多い。また表①の用例調査結果を踏まえると、「(ラ)レテイル」の場合は形容詞的用法より文末要素として述語用法に偏っている特徴が明確である。「(ラ)レル」形が「(ラ)レタ」形の次に、形容詞的用法に最も近い形式だが、「(ラ)レタ」形に比べて選択される比率がまだ低い。「(ラ)レタ」形の次に、「積み重ねる・取り壊す・引き裂く・見捨てる・切り倒す・追いつめる」の「(ラ)レル」形との共起が、選択される第二の形容詞らしい形態となっている。しかし一方、「閉じ込める」と「見落とす」の場合は「(ラ)レテイル」形の方が「(ラ)レル」形より形容詞的だと考えられ、複合動詞ごとに傾向が異なる点も注目できる。

さらに、「(ラ)レル」に関して「取り壊す」の場合は用例数もかなり多く、形容詞的な用法は「(ラ)レタ」形に近い。但し、意味の面から(18a)では可能の意味を表す解釈も有り得、主体や後続の文脈を踏まえると「可能形＋未来形」としての用例ということが明確である。一方、

(18b)は正確に主名詞を形容し、主体の状態・性質を示す用法として用いられた用例である。こういった場合は主体との意味関係や、後続文脈による解釈が聞き手の把握や文章の他の要素にも関連しているのではないと思われる。以下では(18a-b)を再掲する。

(18) a. 住民や村教育委員会の職員、県内外の研究者やボランティアが休日などに集まり、取り壊される家や蔵から民具や古文書を運び出してきた。

(2011年09月27日・朝日新聞)

b. 取り壊されるビル、給水車に並ぶ列など、当時の情景を子どもたちの目で率直に表現している。

(1996年05月13日・朝日新聞)

また「他動詞＋他動詞＋受身」の組み合わせ「折り曲げられる」の用例検索では「折り曲げられる＋名詞」形式が圧倒的に多く出現し、「(ラ)レタ」形より単独用法に偏って現れるといえる。しかし、個々の用例を詳細に観察すると、多くは可能の意味解釈しか取らない用例であり、形容詞的な用法であるか否かの判断が困難であった。

本調査において対象とした以外にも考察の対象となる複合動詞（他動詞）が更に残されていると思われるが、本研究の調査範囲で見出すことが出来た複合動詞としては以上の表①の通りである。

4. おわりに

本章では、形容詞的動詞カテゴリーの受身形をとる「形容詞的複合動詞」の他動詞に注目し、その形容詞的用法の考察をしたうえで、量的な視点から語句の使用頻度や使用傾向に関しても論述を行った。

以上の複合動詞表①からも分かるように、「(ラ)レタ」形が形容詞的な用法へ偏りやすい形式だということが明らかである。意味の面では「タ」形が主に過去の意味を表すと思われるが、形容詞的な用法の際は過去の意味から解放され、名詞を形容する役割を果たすことが興味深い点だと思われる。それに対して「テイル」形は、なかなかアスペクトの影響から離れず、文中で用いられる際は述語文になってしまうことが多いと考えられる。

また、現代日本語には動詞連体修飾の異なった形態として否定を表しつつ、否定形の「ナイ」が用いられた状態で、名詞を修飾する形容詞的な動詞が存在する。「足りない・消えない・そぐわない」などのような否定の意味を持つ動詞を使用し、「動詞＋ナイ＋名詞」形式構成で単独のまま形容詞的な用法が得られる場合もある。

(44) 緑豊かな神戸市民のオアシスに野良猫の群れ。そぐわない光景です。

(1993年03月17日・朝日新聞)

次章では以上の形式に関する考察を進めて行きたい。

第六章

連体修飾に用いられる「動詞＋ナイ・テイナイ」形式について

1. はじめに

現代日本語には動詞連体修飾の一種である形態として、否定辞の「ナイ」が付き、名詞を修飾する形容詞的な用法で用いられる動詞が存在する。これらは「消えない・見えない・変わらない」などのような否定の意味を持つ動詞や「つまらない・くだらない」などのような否定の意味を持たない動詞であり、「動詞＋ナイ＋名詞」形式構成で単独のまま形容詞的な働きが見られるものである。以下にこのような形態を有する動詞の用例を挙げる。

- (1) 消えない疑問をぶつける部分を増やそうと、2日前に書き直した。

(2012年09月10日・朝日新聞)

- (2) 古里はやはりいい。変わらない景色や空気、水にほっとする。

(2012年02月25日・朝日新聞)

- (3) その間、会社の方針が毎年毎月思いつきのようコロコロ変わり、くだらないきまりも次々と作られ、振り回され続けてきました。

(2005年・Yahoo!知恵袋)

(1)の「消えない」、(2)の「変わらない」は、主体となる名詞の行状・性質・状態などを表す際に連体修飾機能を果たす要素であり、主名詞を形容している。この用法の場合は時制と無関係で、主体に備わる恒常的な状態・性質を表す。(3)の「下らない」も同じく、「きまり」という主体の性質・属性を表す形容詞的な用法である。

動詞類としては和語動詞・漢語サ変動詞・複合動詞などが見られるが、本章では和語動詞を中心に考察を行う。本章では、「ヲ・ニ・デ・ガ」などの諸格を伴わず、基本形容詞と同様に単独のままで、用いられるものを考察の対象とする。

ところで、全ての和語動詞が連体修飾の際に否定形を伴うことで、形容詞的に使用されるわけではない。

本章では、どのような動詞が「ナイ」と接続して名詞を修飾しやすいのか、用例に基づいて検討し明らかにする。そして、和語動詞表を作成する。また、以下の(4)のように否定の意味を持つ「動詞＋テイナイ」形態にも名詞を修飾する用法が存在しているため、この2つの形式を対比しつつ、どのような動詞が固定的・慣用句的に形容詞の性格で用いられるかを考察する。

- (4) 決まっていない自治体では搬入時期の目標を年内に示す。

(2013年09月11日・朝日新聞)

本調査において「ナイ」と「テイナイ」形をとる形容詞的な用法が多く用いられる動詞を中心に、

やや硬い書き言葉を含む朝日新聞オンラインデータベース(1984年～2014年)やヤフーブログのような話し言葉も多く含む、現代日本語書き言葉の均衡コーパス(1971年～2008年)の記事を対象とし、連体修飾節に接続せずに自立した用法で現れる形容詞的なものを取り上げる。

2. 先行研究

現代日本語において述語性を失った動詞に関する研究としては高橋(1994)があり、連体修飾節では「カザリ」と名付けた動詞の「ナイ」形と共に用いられる組み合わせについて以下の用例が表示されている。波線部分は「カザリ」、二重線がある部分は「カザラレ」と述べられている。

- (5) 意味のはっきりしない不倫快事 (道169 - 同下)
(6) 立場のきまっていない伸子 (道 86 - pp.314)

但し、「はっきりしない」や「きまっていない」は連体修飾節の一部になっており、文中で形容詞的な働きをする単独用法ではない。「ノ」格を伴うことで、いずれにしても主体である名詞への関わりや連体修飾節への繋がりが生じる。

また、動詞の否定表現に関する工藤(2000)は「太郎は来ない」(動詞述語文)「太郎は若くない」(形容詞述語文)「太郎は親切ではない/学生ではない」(名詞述語文)における「来ない、若くない、親切ではない、学生ではない」のような形式を文法的否定形式、「不親切だ、無関係だ、非常識だ」のような形式を語彙的否定形式とし、区別している。慣用的なものも含めて、様々な点で否定形式の特徴について述べられているが、修飾語となる場合に形容詞らしさを有する動詞形態やその全ての動詞の分類に関して言及はなされていない。

本章では、否定辞「ナイ」やアスペクト形式の否定形「テイナイ」を伴って述語性を表しつつ、形容詞的な振る舞いも見せる単独用法の和語動詞に注目する。調査方法としてはコーパスを通して「動詞+ナイ+名詞」と「動詞+テイナイ+名詞」を含む形容詞的な用例を採集し、用例を分析する。そして、後接形式毎の使用頻度や使用傾向の高い動詞を明らかにすることを目標とする。

3. 考察

工藤(1995)において、以下のように動詞が3つ分類されている。

- (A) 外的運動動詞—開ける・切る・殺す・食べる・遊ぶなど
(B) 内的情態動詞—思う・信じる・見える・苦しむ・疲れるなど
(C) 静態動詞—ある・いる・優れている・異なる・そびえているなど

(p.69)

また、工藤(1995)は奥田(1977)で述べられている、＜主体の動作＞か＜主体の変化＞という意味特徴によつての分類に従い、＜動作＞か＜変化＞かという観点と、＜主体＞か＜客体＞かという観点を組み合わせて、次のように3分類できると指摘している。

- (A・1) 主体動作・客体変化動詞—消す・倒す・曲げる・抜くなど
- (A・2) 主体変化動詞—行く・来る・消える・折れる・太るなど
- (A・3) 主体動作動詞—動かす・見る・揺れる・回すなど

(p.71-72)

主体変化動詞(A・2)は基本的に自動詞であり、＜結果継続＞を表すとされている。これらは否定辞を取ることで他の自動詞より最も形容的な特徴を発揮する自動詞であり、工藤(1995)において主体変化動詞の下位分類とされる「意志的な変化動詞」や「無意志的な変化動詞」として2つに分けられている。筆者もそれに従って、「ナイ」と「テイナイ」形を伴う結果継続を表す自動詞を、本研究の対象とする。本章の調査ではその「無意志的な変化動詞(自動詞)」を参考にし、用例上それぞれの動詞は形容詞的な性格を持つか否かを検討する。

一方、意志的な動詞はヒトの位置や姿勢を表す変化動詞グループに属しており、自動詞であるにも関わらず「ナイ」「テイナイ」との単独用法が見られない動詞が存在する。連体修飾において、ヒトに対して用いられる変化動詞は自動詞であってもなぜ形容詞性を表す要素になれないだろうか。それを確認するために、次の用例文を見てみよう。¹

- (7) a. 風邪が {移らない・移っていない} 人
- b. ?? 移らない・移っていない人

「移る」はモノの「無意志的な変化動詞」やヒトの「意志的な変化動詞」とされ、両方に含まれているが、(7b)において明確に見られるように、自立した形容詞的用法では使用されない。(7a)のように主体+「ガ」格を伴う必要があるが、そうすると連体修飾節の要素になってしまう。

ここで、意志的な動詞カテゴリーに属するヒトの位置・姿勢を示す変化動詞(自動詞)は本研究で考察したいこととは違う様相を見せるため、研究対象外とする。

3.1 和語動詞に伴う否定形「ナイ・テイナイ」の形容詞的用法

能動形の否定表現である「ナイ・テイナイ」は修飾語として用いられる際、形容詞的な役割を果たす場合がある。ここでは、テンスやアスペクトから解放され、連体修飾語として基本形容詞と同様の機能をする和語動詞類を考察する。

以下の表①は、和語動詞の中で「ナイ・テイナイ」形を伴い、形容詞的な性格が現れやすい語用例数を、その後接形式毎に示したものである。表①において「テイナイ」形が記載された欄に数多く付いている△マークは、述語性が最も強く、動作動詞特徴で現れた例文や形容詞的動詞用法で現れても諸格と使用が必要なもののばかりであり、単独用法がほとんど見当たらなかったことを示す。

工藤(1995)を参考にし、形容詞的な特徴が見られる和語動詞の例文を抽出したものを以下の表①にまとめた。用例範囲は意味的解釈が形容詞的な用法でとれる例文に限定する。

¹ ?は使用確率や使用頻度が低いことを示す。??は表現的に許容しにくいことを示す。

表①²

和語自動詞 「形容詞的用法」	「ナイ」（朝日） (1984~2014 年)	「テ(イ)ナイ」朝日 (1984~2014 年)	「ナイ」（小納言） (1971~2008 年)	「テ(イ)ナイ」小納言 (1971~2008 年)
売れる	50*	2	18	2
折れる	23*	△	10	△
終わる	27*	1	19	△
片付く	8	1	1	△
固まる	6	2	5	2
枯れる	25*	1	5	1
乾く	5	4	4	1
変わる	95*	16	31	3
切れる	17	3	11	△
腐る	24	4	2	1
崩れる	20	4	8	△
消える	37	△	14	△
壊れる	14	10	11	1
死ぬ	12	2	15	1
揃う	6	2	3	△
倒れる	14	1	5	△
潰れる	15	2	5	△
溶ける	8	△	6	1
止まる	41*	1	17	△
治る	27*	△	26	△
濡れる	8	6	3	1
曲がる	15	1	5	△
破れる	6	1	3	1
割れる	21	4	8	2

² 今回の調査範囲は朝日新聞記事データベースを書き言葉として取り上げ、少納言のデータでは話し言葉に近い用例集と思われるヤフーブログとヤフー知恵袋と国会会議録も含めて行った用例検索である。表①に記載した自動詞は形容詞的な用法で少なくとも5例程度出現したものである。表①における*印が付いている数字は形容詞的動詞と共に用いられる主体として、特定の名詞を対象とした用例数である。例えば、「売れない商品・折れない心・終わらない戦争・枯れない花・変わらないもの・止まらない涙・治らない病気・繋がらない打線・慣れない環境・燃えないゴミ・見えないもの・足りない部分・つまらないミス・すまない気持ち・すまないこと・動じない心・至らない点・かまわないもの・かまわないこと・」などが挙げられる。×は新聞記事データベースやコーパスに一件も載っていないものを表す。また、表①における様々な色について、薄ピンク色は「ナイ」、薄緑色は「テイナイ」との共起が多いものを表している。

汚れる	9	16	4	5
埋まる(うずまる)	14	△	2	2
重なる	8	△	1	△
繋がる	20*	7	5	△
落ちる	19	1	1	1
外れる	11	△	4	△
上がる	12	△	1	△
出る	27	9	5	△
届く	32	4	2	1
慣れる	128*	7	71	3
現れる	7	△	5	△
燃える	112*	7	25	1
滑る	38	△	5	1
錆びる	20	2	13	△
見える	175*	13	131	2
決まる	8	15	2	5
足りる	193*	3	53	1
下る	150	×	79	×
詰まる	63*	×	134	×
堪る	53*	×	19	×
解ける(ほどける)	26*	△	18	△
済む	68*	△	22*	△
動じる	26*	△	24	△
そぐう	20	×	25	×
至る	26*	△	20	△
絞まる	11	△	4	×
構う	38*	△	10*	×

以上の表①は「デキゴト・モノゴトの状態・性質を表す機能を持つ和語動詞」を整理し、否定辞と使用が可能な自動詞の中で、具体的にどのような語句が、形容詞的用法として現れやすく、一般的に用いられるかを判定した表である。

3.1.1 主体の選択

用例調査では修飾される主体とした名詞として「時・際・場合・理由・状態」などのような表現を除いたものの中から選択した。このような主体を使用する場合、述語性の強い用法になり、形容詞的な意味解釈を取らない。もし修飾される名詞として「時・際・場合・理由・状態」を入れようとしたら、意味的には必ず動詞的な意味用法で解釈されると思われる。つまり、形容詞的な用法から離れる形式になるため、修飾語となる主体の選択にも限定があると言える。

以下の(8)は主体として「場合」が用いられる用例である。(9)は主名詞³「水」の状態や性質を表す形容詞的な用法が見られる考察の対象に相応しい用例である。

(8) しかし、あきらめるのは、まだ早い。専門家によれば、松露が姿を見せる期間は、冬から春と幅広い。出ない場合への対策もある。
(2004 年 01 月 16 日・朝日新聞)

(9) 混乱の中で、新しい命が次々に生まれている。出ない水、不足する食べ物や医薬品。
(1995 年 01 月 21 日・朝日新聞)

3.1.2 「ナイ・テイナイ」の比較

上記の表①を元にして「ナイ・テ（イ）ナイ」形を比較すると、朝日新聞・現代日本語書き言葉コーパスの両者においてほぼ同様の結果が見られる。すなわち、「ナイ」形が「テイナイ」形に比べて形容詞的用法を取りやすく、用例の数値としても圧倒的に多いということが確認できる。以下では様々な具体例を示す。

(10) 切れない刃物で切れば、枝の組織が潰れてしまいますから。
(2002 年・中学教育・武内俊介)

(11) 年を重ねても変わらない気持ち、さめない気持ちはあるんだなぁ〜と実感しました。
(2003 年・Every Little Thing[編])

(12) 繰り返し発生する地震で多くの死者を出した日本は、倒れない家を目指して、耐震基準という「標準仕様」づくりを重ねてきた。
(2002 年 03 月 10 日・朝日新聞)

(13) 「溶けないアイスクリーム」。大学生がそんなテーマで研究した卒業論文をもとに新商品が誕生し、病院や高齢者施設が給食に出し始めた。
(2014 年 04 月 02 日・朝日新聞)

(14) 歩行や耳は少し不自由になっていたが、崩れない言葉遣いと声の張りが、女優、アナウンサーとして生きた道程を語っていた。
(1992 年 02 月 13 日・朝日新聞)

(15) 売れない車を売ることができて・・・ほっとした一日でした。
(2008 年・Yahoo ブログ/芸術と人文/文学)

³ 主名詞とは連体修飾節において形容される主体・被修飾語を意味する。形容詞的な意味解釈を取らない場合の名詞には「主名詞」と言えない。そして、動詞との意味関係も踏まえると、以上において(8)に見られる主体の使用は主名詞の対象とならない。

(15) a. ?売れていない車を売ることができて・・・ほっとした一日でした。(上同)

(16) たとえば、ぬれていない手で乾電池（かんでんち）のプラスとマイナスをつかんだとき、体に流れる電流が数百マイクロアンペアぐらい。

(2004 年 01 月 31 日・朝日新聞)

(16) a. たとえば、??ぬれない手で乾電池（かんでんち）のプラスとマイナスをつかんだとき、体に流れる電流が数百マイクロアンペアぐらい。

(上同)

(17) 姫だろうがなんだろうが、住む場所が必要なのよ！と、自分の二年たってもいまだ消えていないプライドにひとしきり言い訳をしてから（下略）

(2001 年・書籍/9 文学・鏡貴也)

(18) 片付いていない実家が嫌で、私はできるだけ避けていたが、最近、それではいけないと思うようになった。

(2008 年 12 月 06 日・朝日新聞)

(10)から(15)の例は、形容詞らしい用法であり、文頭にのみならず文中にも単独のまま用いられていた。

また、「ナイ」と「テイナイ」形を置き換えた場合、不自然になる用例も存在する。(15)において「売れない」を(15a)の「売れていない」に置き換えるとアスペクトの影響が残っており、発話者が現在の様子を述べている意味となる。従って「ナイ」形の方が基本形容詞の役割を持つものとして選択されると思われる。

「消えない」はかなりの数が名詞を修飾する用法で出現したが、「消えていない」は 32 件の内 1 件しか連体修飾語として用いられていなかった。それは(17)だが、この場合は「いまだ」という副詞と共起する必要があり、副詞との共起がある状態では意味的にアスペクトに関わってくる上、単独形式にもならないと考えられる。すなわち「消えていない」は形容詞的用法より述語動詞としての使用に偏っているということである。なお、用例をカウントする際、「まだ・今も・未だ」などのような副詞の必要性が見られた例文は形容詞的な用法範囲に入っていないと判断し、例数の割合として算出しなかった。

また、形容詞性特徴を発揮する自動詞の中には、日常談話や新聞では使用率がやや低い動詞も存在する。「片付く」はそのような動詞の一つであり、否定形の「片付かない」＋「名詞」形式は 197 件中、8 件のみ単独用法で出現した。「テイナイ」形の場合は、59 件の内 1 件しか自立した修飾語として見当たらなかった。(18)はその用例である。

以上に対して、「温まる・空く・濁る・禿げる・裂ける・冷める・散らかる・爛れる・煮える・腫れる・冷える・広がる・老ける・ふさがる・むくむ・むける・痩せる・焼ける・やつれる・沸く・別れる・植わる・埋る・隠れる・かかる・被さる・下がる・積もる・寄る・立つ・つく・乗る・挟まる・混ざる・千切れる・取れる・抜ける・離れる」などのような自動詞は、単独用法がほとんど見当たらなかったものか、両方のコーパスにおいて「ナイ」形を伴っても諸格と共に一・二例しか出現しなかった動詞である。よって、用例数という観点からも考えると、この様式の自

動詞の場合、「ナイ」を伴った形容詞的用法としての使用率はかなり低いと言える。だが、以上の自動詞の中には、文脈によって逆に「ナイ」形より「テイナイ」形との共起が最も相応しい動詞も存在する。用例として「空いていないビン・痩せていない女性・沸いていない水」などが挙げられる。

また、表①において「テイナイ」形との共起が他に比べて多く出現した「変わる・壊れる・汚れる・決まる」は他の動詞と異なり「テイナイ」形を取った形式がより形容詞性を強く持つことが分かる。これらの語は、形容詞性を帯びる際、固定的に「テイナイ」形で使われてきたと考えられる。

3.1.3 「動詞＋ナイ＋名詞」形式の別用法

一方、「ナイ」形を伴う他の動詞類と同じ自動詞であるにも関わらず、連体修飾において次のような異なった用法も現れる。例えば、「太る」という状態や性質を表す自動詞に関して、「太らない」形の検索において採集した用例は「太らないおやつ・太らないメニュー・太らない生活・太らないコツ」などのような語句と共によく用いられたものばかりであった。用法の段階では単独のまま名詞を修飾する語であるが、意味の面では主体自体が太るわけではなく、つまりおやつ・メニュー・生活やコツが太るという意味解釈でなく、「太る」の一般主体である人間を太らせない現象・モノゴトなどの意味を強調している用法だと思われる。この点を踏まえると、形式的には形容詞らしく扱われるが、意味的には差異が生じるため、否定形の場合は「ヒト」以外の主体を修飾すると、形容詞としての意味を獲得できないと考えられる。以下の用例において明らかに見られる。

(19) おいしいものを前にしてじっと我慢しなくてもすむように、太らない生活を工夫してみよう。
(2001 年 12 月 07 日・朝日新聞)

(20) 今後もおいしいお弁当よろしく、太らないメニューでね。
(2008 年 05 月 10 日・朝日新聞)

(21) やせたいと思い、食べるのをがまんしている人には、太らない人は、なんともうらやましい限りだ。
(1996 年 05 月 10 日・朝日新聞)

(21)は元々の形容詞的な使い方であり、先ほど述べたように主体として「ヒト・カタ」のみを取る形式だと認められる。但し、(19)と(20)は主体の「生活」や「メニュー」の属性や性質を反映していないため、形容詞的な用法を表していると言えない。「太る」のような仕組みを持つ自動詞は更に存在し、この点に関してもより詳しく考察する必要があると考えられる。

工藤(1995)において、無意志的な変化動詞（自動詞）として分類されている動詞以外にも、主名詞を形容する自動詞がいくつか指摘されている。例えば「見えない」は修飾語としての用法が非常に多く現れる動詞の一つである。こういった形容詞性特徴を持つ様々な動詞も表①に入れ加えた。文頭や文中における「見えない」の例文は以下の通りである。

(22) 心が変われば世界はきっと変わる。見えない世界ってどこにあるの？おまえのすぐ近くにあるんだよ。

(2002 年・書籍/3 社会科学・古川千勝)

(23) 内視鏡は光を使いますが、見えない光を使って外から体の中を診ることも可能です。

(2005 年・書籍/4 自然科学・寺川進)

3.1.4 否定の意味を持たない「動詞＋ナイ」形式の形容詞的用法

以上の形容詞的自動詞の他、連語とも言われ、本質的に固定化したものとして認められる「くだらない、つまらない、どうじない、かまわない、たまらない、たりない、ほどけない、すまない、そぐわない、いたらない、しまらない」などのような動詞の未然形に「ナイ」形が付いている語句も存している。これらの形式は語源が自動詞として使用される要素であり、否定形を伴う形式のまま自立した基本形容詞にもなっているものである。

工藤(2000)において、「このような形式は、もはや、否定の意味がない「派生形容詞」とみなさなくてはならない」と述べられている。そして、動詞の否定形式から形容詞への品詞の転成が起こっている形式であり、派生形容詞化していくものだと主張されている。

(24) もう余計なことに時間は使うまい、詰まらない仕事やどうでもいいような人づきあいは一切やめようと決心するのだが（下略）

(1991 年・書籍/9 文学・桐島洋子)

(24) a. もう余計なことに時間は使うまい、??詰まっていない仕事やどうでもいいような人づきあいは一切やめようと決心するのだが（下略）

（上同）

(25) 至らない点もあったのかも知れませんが、私は、母のおかげで今の自分があると思っています。

（2005 年・Yahoo!知恵袋）

固定化した形式の場合、「テイナイ」形を伴うと(24a)のように不自然な日本語になるため、このタイプの動詞は「テイナイ」形の使用が不可能だと思われる。

4. おわりに

本章では、動詞に「ナイ・テイナイ」が付いた際に形容詞的な働きをする語について調査し、和語動詞の「無意志的な変化動詞（自動詞）」のうち、形容詞らしい特徴で姿を表す語句の使用頻度に関して考察を行った。そして現代語では多く用いられる、否定の意味を表さないが、否定辞の「ナイ」を伴った形で一般形容詞の特徴を発揮する動詞も整理し、量的な視点から形容詞として使用への偏り状況も検討した。

その結果、否定形を伴うことでどのような自動詞が名詞を形容する際に最も形容詞らしさを見せ、修飾語として優先的に選択されるのかが明らかになった。形態的には「ナイ」形の形容詞化

した用法が「テイナイ」形より使われやすく、用例数も「テイナイ」に比べて圧倒的に多かった。用例上も、名詞修飾に用いられる「ナイ」形の最も形容詞らしい性格を確認することができた。

意味的にはもともと否定意味の解釈を取れるが、例外で否定の意味を持たないが形態的には否定形と使用が見られる動詞（つまらない・くだらない・ほどけない）も存在している。これらのタイプは固定化したものであり、現代語において慣用表現として用いられるケースが少なくない。しかし、こういった表現はどのような基準で決められ、現代語に定着したかは明確ではないため、成立過程についても検討すべき項目である。

また、修飾される主体の種類にも関わる現象があり、主体は「ヒト」である限りは諸格の必要性が生じるため、単独用法に妥当ではない動詞と判断した場合もあった。

本研究で明らかになった、「テイル」形と共に用いる動詞は形容詞的な特徴をあまり発揮できないという点から見ると、否定形の「テイナイ」も同じく、文中ではどうしてもアスペクトに関わる要素になってしまうため、形容詞的な性質が弱くなるのだろう。

一方、連体修飾に用いられる漢語サ変動詞の「結婚する」「離婚する」のような漢語には否定辞の「ナイ」形を伴うより「テイナイ」形を伴った形式の方が典型的な形容詞の性格を有すると思われる。以下において(26)は「テイナイ」を伴った形で形容詞的であり、置き換えた(27)は意味的にどうしても未来の意味解釈しか取らないものであり、この場合は形容詞的な用法ではない。

(26) ラッドがサンタバーバラの上級裁判所の判事に任命されたのだ。すると突然ブラッドは、結婚していない女性と暮らしていることはまずいのではないかと思うようになった。

(1995年・ブレッシング・ダニエル・スティール)

(27) ラッドがサンタバーバラの上級裁判所の判事に任命されたのだ。すると突然ブラッドは、??結婚しない女性と暮らしていることはまずいのではないかと思うようになった。

(同上)

さらに、本章では触れていなかったが、日本語では否定意味を獲得するために漢語とともに「不・無・非・未」などのような漢語の否定接頭辞も多く用いられ、むしろ漢語の場合これらの接頭辞が「ナイ・テイナイ」形より幅広く使用されている。例えば、「不安定・非常識・未婚者」などが挙げられる。こういった用法が生まれたからこそ、漢語が「ナイ・テイナイ」形を取りにくく、否定接頭辞と共に用いられるようになったのだと思われる。

現代語において他動詞の場合、「受身」や「可能」を表す「(ラ)レル」⁴形と共起する否定形式があり、形容詞的な働きをする。これらは「他動詞+ラレ+ナイ」という形で「許されない・隠されない・信じられない」のようなものである。

(28) 未来と過去を行き交う冒険ストーリーを見て手に汗握り、許されない愛ゆえに死を選んだ恋人たちに涙しました。

(1992年・それいけ！！ココロジー|編)

(29) 隠されない2人の初老が鮮明に写っていた。

(2012年11月22日・朝日新聞)

⁴五段活用動詞に接続する「レル」も含めて「(ラ)レル」形と呼称する。

また、語末には「ナイ」を付いている「切ない・揺るぎない・もったいない」などのような慣用句的なものも現代日本語において位置を占めており、現在に至って今も形容詞的によく用いられる表現となっている。

(30) 相手への想い、切ない気持ち、失恋の傷手、恋人と二人で過ごすときの楽しさ、満たされた幸せな気持ちなど、同じです。
(2005 年・Yahoo!知恵袋)

(31) 「人は信じなくても自分だけは信じる」という強烈なエネルギーが一人ひとりに伝わり、揺るぎない経営理念として確立されていくのです。
(2002 年・書籍/3 社会科学・田舞徳太郎)

(32) 日本人は世界一素肌が綺麗だといわれているのに、なぜ、厚くメイクを重ねるのでしょうか。もったいない話です。
(2003 年・書籍/1 哲学・浅野裕子)

最後、「目立たない・あり得ない」などのように否定辞を伴った形式で形容詞的な性格を発揮する複合動詞や以上の様々な項目に見られる意味的・形態的な特徴を今後の研究課題としたい。

結論 現代日本語における「形容詞的動詞」のまとめと今後の課題

1. 全章のまとめ

各章で述べてきた内容を次のようにまとめる。

本研究では、現代日本語において動詞が動詞らしさを失い、連体修飾要素となる際の用法である「形容詞的動詞」の考察を行った。「形容詞的動詞」とは形態的に動詞であるにもかかわらず、典型的な形容詞と同様の意味的な属性を持ち、名詞を形容する役割を果たしているものと規定できる。

寺村(1984)は概念として初めて「形容詞的動詞」という表現を用い、形容詞的な用法で現れた動詞にこのような名称をつけた論考である。現在、「形容詞的動詞」という名称自体は未だ完全に定着していないが、動詞の連体修飾用法つまり形容詞的用法といった形式で、動詞の形容詞らしさに注目した様々な研究が増えてきている。

「形容詞的動詞」と認められるこの品詞類には3つの基本形態が見られ、以下のようにまとめられる。

- ①和語動詞由来のもの（自動詞＋能動形 / 他動詞＋受動形）「痩せる・尖る・失う」など、（自動詞＋否定辞）「変わる・枯れる・足りる」など
- ②漢語形容詞由来のもの（サ変動詞を伴う用法）「満足する・独立する」など
- ③a.複合動詞由来のもの（自動詞＋能動形 / 他動詞＋受動形）「込み入る・有り触れる・積み重ねる・考え抜く」など
- b.複合動詞由来のもの（名詞・形容詞・擬音＋動詞）形式「年取る・目立つ・古惚ける・ずば抜ける」など

まず、第一章では「形容詞的動詞」の先行論と規定を整理したうえで、①の「和語動詞（自動詞）＋能動形＋名詞」型に相応する形容詞的動詞を把握した。用例数に基づいた考察を行ったうえで、使用頻度や偏り状況についても研究の重要な観点とした。また、様々な特徴によって「形容詞的動詞」になる和語動詞を「主要形容詞的動詞」「副次形容詞的動詞」「典型的な形容詞形式を持つ形容詞的動詞」として分類した。

本論の第二章では、和語他動詞に受身の「ラレル・ラレテイル・ラレタ」形を介入することで形容詞らしい用法が見られる動詞に注目した。

続いて、第三章では②漢語サ変動詞とともに使用される場合、より形容詞的用法の偏りが現れる「漢語＋シテイル・シタ」形を中心に述べ、形容動詞の「ナ」と「ノ」も研究対象とし、用例数を元にして形容詞性を持つ動詞を図表に表示した。

第四章においては複合動詞＋「ル・テイル・タ」形を中心に考察を行い、また用例数という観点からより形容詞的に用いられるものの使用頻度や使用傾向を検討し、そのタイプの複合動詞（自動詞）を整理した。

次に、第五章では複合動詞の他動詞に受身形を付加した形容詞らしいものについて扱った。形容詞的動詞と用いられるタイプの中では最も少ない形式であり、それほど発展していないことが分かった。

最後に、第六章においては連体修飾に用いられる別の形式とも言え、否定辞の「ナイ・テイナイ」を伴った形で一般形容詞の特徴を発揮する自動詞を整理し、量的な視点から形容詞として使用への偏り状況を検討した。

以上、各章において様々な形態を考察した結果、「形容詞的動詞」に用いられる動詞には、自動詞と他動詞の関係が関わっており、特に和語動詞や複合動詞の場合「自動詞＋能動形」「他動詞＋受動形」でなければ形容詞的動詞の仕組みが成り立たないということが確認できた。従って、成立条件として最も重要な項目は自他の適合だと言える。

動詞の特徴から言っても、あらゆる動詞が形容詞的動詞になれるわけではない。ここで重要な点は、連体修飾の際、形容詞になる動詞の時制に関与するか否かと、解釈的にも主体の状態や性質を表して形容詞の意味を示すか否かである。従って、本研究では、形容詞的動詞を抽出するに当たって、包括的に用例数に注目し、単独用法や諸格を取らないものを対象として考察を進めてきた。主体（被修飾名詞）については「ヒト」「モノゴト」「デキゴト」を中心とした。そして、用例数に基づいたデータ結果を参考にしつつ、形容詞らしい特徴を発揮する要素の使用頻度や使用傾向を確認した。

本調査において対象とした以外にも考察の対象となる用法で用いられるものが更に残されていると思われるが、本研究の調査範囲で見出すことが出来た「形容詞的動詞」は各章の表に掲載した通りである。

全ての類型において、形容詞的動詞と、用いられる主体の特徴も重要な項目であり、形態的に単独用法であっても意味的な解釈にも関わって、連体修飾節では形容詞らしくない動詞の存在も把握した。動詞類という観点から言うと、動作動詞に比べて状態を帯びる意味の動詞、主体変化動詞・状態変化動詞、静態動詞、瞬間動作動詞などは形容詞的に用いられやすく、形容詞的な動詞になる確率や傾向が相対的に高い。

そして、各章から得た結果を踏まえると、全てのタイプにおいて「タ」形の有する形容詞的な性格は圧倒的であり、非常に優れていると言える。現代日本語では、連体修飾に用いられる「動詞＋「タ」＋名詞」形式は最も形容詞的な性格を持つ形式だということが明らかとなった。

2. 今後の課題

以上、本研究で明らかとなった現代日本語の形容詞として用いられる動詞の様々な形式に見られる特徴、類似の言語現象が母国語のトルコ語にも存在している。両言語に現れる共通点や相違点について研究を更に進めていきたい。以下においてトルコ語の具体例も示す。

(1) Turkish (作例)

Polis olay sonra-sı çekmece-nin dibi-nde yırtılmış elbise bul-du.

N N ADV PREP N POSS N PREP PTCP N V PST

Polis olay sonra-sı çekmece-nin dibi-nde yırtılmış elbise buldu.

‘警察は 事件後、引き出しの奥に 破れた服 を 見つけた。’

(2) Turkish (作例)

Kırık vazo-nun parça-sı ile parmağ-ımı kes-ti-m.

PTCP N POSS N POSS CONJ N PTC VPST PPS

Kırık vazo-nun parça-sı ile parmağ-ımı kesti-m.

‘壊れている 花瓶 の 欠片 で 指 を 切った。’

《引用参考文献》

- 李良林(2002)「語彙的複合動詞における構成要素の組み合わせ-再帰性に基づく他動性の観点から-」『言語科学論集』第6号 13-24
- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 大曾美恵子(2001)「感情を表わす動詞・形容詞に関する一考察」『言語文化論集』v.22, n.2, p.21-30
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房
- 紙谷榮治(2007)「現代日本語の自動詞と受動形」『關西大學文學論集』第56巻第4号 1-46
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一(2003)『言語学大辞典』三省堂
- 北原保雄編(2003)『明鏡国語辞典』大修館書
- 金水敏(1994)「連体修飾の「～タ」について」田窪行則『日本語の名詞修飾表現』くろしお出版
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』15
- 金田一春彦(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 金田一春彦(2004)『金田一春彦著作集』第三巻 玉川大学出版部
- 釘貫亨(2008)『古代日本語における述語形容詞化用法としての名詞修飾機能に関する統語構造論的研究』名古屋大学大学院文学研究科
- 釘貫亨(2012)「奈良平安朝文芸における過去辞が介入する分詞用法」『名古屋言語研究会 第6号』
- 工藤真由美(1995)「現代日本語の時間の表現」『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 工藤真由美(2000)「時・否定と取り立て」『日本語の文法2』岩波書店
- 工藤真由美(2014)『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 国立国語研究所(1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 蔡梅花(2013)「連体修飾節の形容詞的用法と他動性」『日本アジア研究(埼玉大学大学院文化科学研究科)』第10号 p.23-49
- 蔡梅花(2014)「連体修飾節の形容詞的用法と「結果継続」」『日本アジア研究(埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要 11)』p.183-199
- スワン彰子(1994)『形容動詞+「な」/「の」について』早稲田大学日本語研究教育センター 第29分冊 245-269
- 高橋太郎(1994)「動詞の動詞らしさの発展と消失」『動詞の研究』むぎ書房
- 高橋太郎(2003)「動詞が動詞らしさをうしなうとき」『動詞九章』ひつじ書房
- チフトゥチ ウムハン(2013)「現代日本語における形容詞的動詞について - 連体修飾の「テイル」・「タ」形を中心に -」『名古屋言語研究会例会 第113回』
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクストと意味 第Ⅱ巻』くろしお出版
- 豊田豊子(1980)『漢字構成の「な形容詞」(形容動詞)』東京外国語大学外国語学部附属日本語学校no.7 p.85-99
- 姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 由本陽子(2005)『複合動詞・派生動詞の意味と統語』ひつじ書房

《用例出典》

朝日新聞オンライン記事データベース『聞蔵（きくぞう）Ⅱ・ビジュアル』

現代日本語書き言葉の均衡コーパス『小納言』

CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊

《インターネットサイト》

<http://grammar.ucsd.edu/courses/ling120/leipziggloss.pdf> （省略リストの PDF ファイル）

《省略リスト》

ADV.....adverb

CONJ.....conjunction

N.....noun

POSS.....possessive suffix

PPS.....personal pronoun's suffix

PREP.....preposition

PST.....past

PTC.....particle

PTCP.....participle

V.....verb